

州選出元老院議員 George C. Chamberlain ノ移民法案ニ対スル意見ナルモノヲ發表シ居リ Phelan ハ余ハ現移民法案ニ満足セス東洋移民禁止ニ閔シ或ハ修正案ヲ提出スルコトアルヘク最初下院案ハ帰化シ得サル亞細亞人ノ入國ニ閔シ明ニ制限ヲ加ヘタルモ上院委員会ハ經緯度ニ拠ル或ル地域ノ亞細亞人ニ対シ制限ヲ加フルコトシ支那人ニ対シテハ支那人排斥法又ハ日本人ニ対シテハ紳士協約ニ依リ既ニ制限サレ居ル故ヲ以テ之ヲ制限地域外ニ置ケリ仮令日本ハ紳士協約ヲ厳正ニ実行シ居ルトスルモ夫ハ米國法律ノ結果ニアラス米國ノ東洋移民ノ入國ニ反対スルハ一一ニ經濟上ノ理由ニ基クモノニシテ決シテ國民ノ優劣ニ閔セス從テ彼等ニ対シ何等侮辱ヲ意味スルモノニアラス東洋移民ノ多數入國スルハ米國共和政治ノ基礎ヲ危カラシムルモノニシテ黃白両人種ノ同化ハ望マシカラサル所ナレバ米國ハ此際東洋移民ニ対スル政略及意向ヲ明示スル移民法ヲ制定スヘキナリト論シ又 Chamberlain ハ余ハ日米間現條約ノ批准ニ際シ之ニ反対シタリ蓋シ同條約ハ日本ニ最惠國ノ地位ヲ

与フルト共ニ別ニ所謂紳士協約ナルモノアリテ右條約ノ明文以外ノ事項ヲ協約シアリ之力結果ハ内治權ノ一部ヲ他国ニ譲与スルト同一結果トナレハナリ移民制限ハ内治ノ一部ニシテ我國國民ノ利益ヲ基礎トシテ我任意ニ決定施行スクルコトアルヘク最初下院案ハ帰化シ得サル亞細亞人ノ入國ニ閔シ明ニ制限ヲ加ヘタルモ上院委員会ハ經緯度ニ拠ル或ル地域ノ亞細亞人ニ対シ制限ヲ加フルコトシ支那人ニ対シテハ支那人排斥法又ハ日本人ニ対シテハ紳士協約ニ依リ既ニ制限サレ居ル故ヲ以テ之ヲ制限地域外ニ置ケリ仮令日本ハ紳士協約ヲ厳正ニ実行シ居ルトスルモ夫ハ米國法律ノ結果ニアラス米國ノ東洋移民ノ入國ニ反対スルハ一一ニ經濟上ノ理由ニ基クモノニシテ決シテ國民ノ優劣ニ閔セス從テ彼等ニ対シ何等侮辱ヲ意味スルモノニアラス東洋移民ノ多數入國スルハ米國共和政治ノ基礎ヲ危カラシムルモノニシテ黃白両人種ノ同化ハ望マシカラサル所ナレバ米國ハ此際東洋移民ニ対スル政略及意向ヲ明示スル移民法ヲ制定スヘキナリト論シ又 Chamberlain ハ余ハ日米間現條約ノ批准ニ際シ之ニ反対シタリ蓋シ同條約ハ日本ニ最惠國ノ地位ヲ

カ權利ノ在ル所ヲ主張シ誤解ナキ明瞭ナル字句ヲ以テ我カ移民制限ノ方針ヲ明示スヘキナリ徒ラニ事件ヲ回避セントク決シテ他國ノ容喙ヲ許スヘキニアラス須ク我等ハ此際我スルハ策ノ得タルモノニアラス云々ト論シ居リ右両人ハ何レモ既ニ定評アル排日論者ニ有之且ツ「エキザミナー」紙ハ日本省ニ於テモ御購読ノ事トテ右ハ既ニ御閱読ノ事トハ存候ヘ其目下當地方ニ於テハ移民法案乃至日本移民ニ閔シ格別論議スルモノナキニ拘ラス独リ「エキザミナー」紙ハ毎時右様ノ記事ヲ掲ケ排日熱鼓吹ニ力メ居リ候一例トシテ右記事切抜及御送附候 敬具

註 切抜省略

事項三 第四回日露協約締結関係一件

八四 一月七日 安達公使手記（一）

日露重要案件ニ閔シ寺内總督ト会談ノ希望ア
ル旨「コザコフ」極東局長安達公使へ談話ノ
件

一月七日安達公使安東ヨリ太公殿下一行ヲ迎ヘ釜山ニ向フ
車中極東局長「コザコフ」ハ安達ニ向ヒ

八五 一月十日 安達公使手記（二）

局長ハ太公ノ隨員ナリ

露国外相ノ日露協約締結ノ希望ニ閔シ「コザ
コフ」極東局長談話ノ件

安 達 手 記

日露兩國ノ運命ノ将来ニ關スル日露案件ニ通曉セルヤ
ト問ヒ「寺内伯ハ日本ノ元勲ニシテ其朝ニアルト野ニア
ルトヲ問ハス、其判断ハ必ス日本皇帝ノ重セラルル所ナ
ルヘケレハ同伯ニ於テヨク露國ノ意思ヲ了解セラレント
トハ予ノ熱望スル所ナリ、「サゾノフ」氏ハ殊ニ本問題ニ
重ヲ置キ特ニ予ヲ簡派シ殿下ノ御任務ヲ輔佐スルト同
時ニ本件ニ閔シ日本政治家ト十分意見ヲ交換スルノ内命
ヲ受ケタリ」

ト語レリ

註 安達公使ハ來日ノ露國「ミハイロヴィッチ」太公ノ接伴員ヲ命セラレ太公一行ヲ安東ニ出迎ヘタリ「コザコフ」極東

三 第四回日露協約締結関係一件 八四 八五

至リタルモノノ如クナリシカ其後獨帝ノ支那ニ対スル行動ヲ注視シツツアリシニ獨帝ハ袁ニ向テ頻ニ日露兩國ヲ

以テ支那ノ敵ナリト説キ支那ノ独立ヲ國ルハ獨國ト結ビ
日露両國ヲ牽制排撃スルノ外ナシト論シ恰モ土耳其ニ対
スルト同一ノ筆法ヲ以テ實質上支那ヲ独逸ノ一屬邦タラ
シメントスルノ底意ヲ有スルコトヲ發見シタルヲ以テ露
帝モ独帝言動ノ矛盾ニ驚カレ遂ニ独帝ノ勸説ヲ排斥スル
ニ至リタリ

其後間モナク歐洲大戰トナリ支那ニ於ケル独逸行動益辛
辣ナルニ至リタルヲ以テ露國政府ハ英国外相ヲ通シテ支
那国ニ閔シ日露間ニ協議ヲ整フコトニ閔シ寧ロ茫漠タル
言辞ヲ以テ日本國政府ノ意嚮ヲ叩キタリシモ毫モ要領ヲ
得ス尚客歲ノ夏頃「サゾノフ」氏ハ直接ニ本野男ニ對シ
明白ニ本件ニ閔スル露國ノ意思ヲ披瀝シ或特定ノ条件ノ
下ニ両國間ニ協約ヲ締結シタキ希望ヲ述ヘタレトモ日本
國當時ノ外相加藤男ハ大戰終局迄ハ嚴ニ現状ヲ維持スベ
シトノ意見ナリシ由ニテ本件ニ何等ノ進捗ヲ見ルコトナ
カリキ

然ルニ今ヤ独撫軍ハバルカン方面ヲ庄シ君府ニ迫ラント
シ露英仏伊四國ハ内議ヲ遂ケ来ル四月ヲ期シ大挙シテ攻
勢ヲトリ独撫軍ヲ擊退スヘキコトニ決定シタルカ露國ノ

任務ハ一方ニ於テ君府ノ独撫側ノ手ニ落ルコトヲ防キ他
方ニ於テ伯林方面ヲ脅カスニアリテ甚重大且困難ナリト
云フヘシ開戦当初ヨリ日本國ノ露國ニ与ヘタル物質其他
ノ援助ハ露國官民ノ感謝ニ堪エサル所ナルカ右四月ノ總
攻撃ハ大戰ノ運命ヲ決スヘキ大事業ナレハ之ニ対スル準
備ニ付テハ日本國ニ於テ旧ニ倍シ露國ニ援助ヲ与ヘラレ
ンコトヲ熱望ス

拟右ノ如ク四月總攻撃ノ期モ目前ニ迫リ露國ハ專心事ニ
従ハシカ為ニ日本國ト或協約ヲ結ビ以テ一ハ支那ニ於ケ
ル獨國ノ行動ヲモ拘束シ以テ背後ノ憂ヲ除クノ甚々緊要
ニシテ且日本國ニモ極メテ有要ナルヲ信シ「サゾノフ」
氏ハ今回予ニ特命シ本件ニ閔シ日本政治家ノ意見ヲ叩カ
シムルコトナシタル次第ナレバ幸ニ目的ヲ達セんコト
ヲ期待シツツアリ云々

八六 一月十一日 安達公使手記（三）

日露新協約締結問題ニ閔シ「コザコフ」極東

安 達 手 記

一月十一日汽車進行中「コザコフ」ハ寺内伯ヲ其居室ニ訪
問会談數刻ニ至ル、後寺内伯並「コザコフ」ヨリ聞ク所ニ
ヨレハ「コザコフ」ハ一、先般露英仏諸國カ支那ヲ協商側
ニ引入レ以テ支那ニ於ケル独逸國ノ辛辣ナル所業ヲ挫折セ
ントシタル際日本國ノ同意セサリシハ露國政府ノ了解スル
能ハサル所ナルコト、二、日本ハ袁ニ対シ率先帝制延期ヲ
勧告シタルカ為支那ノ同情ヲ減シ偶々独逸ノ乗スル所トナ
リタルハ遺憾ナルコト、三、支那ヲ余リニ虐待スヘカラサ
ルコト、四、現在ノ日露協商ヲ一層進捗セシメ双方ノ重大
ナル利益ノ交換ヲ為シ一ノ新協約ヲ締結スルハ時宜ニ適シ
且決シテ日英同盟ト抵触スルモノニアラサルコト等ヲ陳
ヘタルニ寺内ハ之ニ対シ一、独逸ノ支那ニ於ケル行動ヲ牽
制スルハ必要ナルモ協商國ヨリ余リニ要請ノ態度ニ出ヅル
ハ支那ノ倨傲心ヲ增長セシム所以ニシテ不可ナルコト、
レトモ今後ノヤリ様ニヨリテハ袁ノ日本ニ対スル思想ヲ変
更セシムルコト不可能ニ非ザルヘキコト、三、全ク同感ナ
ルコト、四、日露協商ヲ発達セシムルコトハ決シテ日英同
盟ト抵触セサルノミナラズ、却テ之ヲ助クル効果アルベキ

コト等ヲ述べ、「コザコフ」ハ新協約ノ基礎中滿洲鉄道中
ノ一部ヲ日本ニ譲渡スルコト、日本國ハ露國政府ニ大戰ニ
必要ナル兵器軍需品等ヲ売却スルコト等ヲ包含セシメテ然
ルベシトノ意見ヲ述ベタリ

同日晚餐後「コザコフ」ハ安達トノ会談中前記諸点ヲ敷衍
説明シ新協約締結ノ場合ニハ東亞ニ閔スル日露間ノ諸問題
ヲ一括シテ一箇ノ協約中ニ規定シ第一支那ニ於ケル日露兩
國ノ態度ヲ明定シ互ニ外交上ノ援助ヲ与フルコトトシ次ニ
日本國ハ露國ノ歐洲戰爭ニ必要ナル兵器軍需品類ヲ可成十
分ニ売却スルコトトシ露國ハ之ニ酬ユル為滿洲鐵道ノ一部
分（日本ノ勢力範囲内ニアルモノ即松花江以南ノ分）ヲ賣却
ノ名義ヲ以テ日本ニ譲渡シ代價ハ兵器軍需品等ノ価格ト差
引キスル体裁トスルコト、（松花江以北哈爾賓附近ニ及ホ
スマ得サルヤノ間ニ対シテハ否トハ答ヘサルモ然リトモ明
言セサリキ）尚關稅問題等モ同時ニ解決セラレ協約中ノ一
ヶ条トナルコトモアリ得ベシ云々ト

註 訪日ノ露國ミハイロウイッ太公ハ一月十一日午後五時神
戸発列車ニテ上京シ寺内朝鮮總督ハ太公接伴ノ為メ安東県
ヨリ太公ニ隨伴セリ

八七 一月十三日 安達公使手記（四）

露国「ジヨルジ、ミハイロウイッチ」太公

山県公訪問及露国援助方希望表明ノ件

山県公訪問記（安達記）

一月十三日午後五時半太公山県公ヲ目白ノ邸ニ訪フ、安達、白井少将、「コザコフ」同行ス

公ハ太公ヲ玄閥ニ迎ヘ接客室ニ請ス、殿下ハ一旦着座ノ後起立シテ金剛石入神聖亞歷山ネヴィスキーダ綏章ヲ公ニ手交セラルルニ先チ

予ハ茲ニ我皇帝陛下ノ特命ヲ奉シ閣下ヲ自邸ニ訪問シ此ノ特殊ナル高貴ノ勲章ヲ手ツカラ我皇帝ノ御名ヲ以テ閣下ニ贈呈スルハ最モ欣幸トスル所ナリ本勲章ハ我皇帝ノ平素閣下ニ対セラルル尊敬ト同情トノ表彰ニシテ又我國ノ為ニ尽サレタルコトニ對スル感謝ノ聖意ノ發揚ニ外ナラズ願ハクハ閣下ニ於テ之ヲ受納セラレンコトヲト述ブ、公ハ勲章ヲ受領セラレタル後殿下ノ御訪問ヲ謝シ露国皇帝陛下ニ深厚ナル謝意ト尊敬ノ至情トヲ伝奏セラレシコトヲ依嘱シタルニ殿下ハ之ヲ快諾シタル後、概ネ左ノ如ク皇帝ノ伝言ヲ陳ヘラレタリ

ト、元帥ハ深ク露帝御伝言ノ趣旨ヲ謝セラレ且兵器關係ノコトハ平素能ク承知シ居ル所ナルニヨリ将来ニ於テモ尽力ヲ吝マザルベク尚当局ニモ十分話シ置クベキ旨ヲ答ヘ殿下ハ深ク其厚意ヲ諒トセラレタリ

コザコフ
石井外務大臣 会談

八八 一月十四日

日露ノ結束ニ閑シ「サゾノフ」外相ノ意向日

本政府ニ伝達ノ件

大正五年一月十四日午前十時半コザコフ氏來訪談話ノ要領

コザコフ 自分ハ太公殿下隨行ヲ命セラレ露都ヲ出發スルニ際シ自分ノ長官タル「サゾノフ」氏ヨリ東京着ノ上ハ貴國ノ要路特ニ閣下ニ對シ露國極東政策ニ閑スル同氏ノ腹蔵ナキ所感ヲ伝言シ出来得ヘクンバ之ニ對スル日本政府ノ意嚮ヲ伺ツテ復命スヘキ旨命令ヲ受ケタリ就テハ其伝言ノ趣ヲ述フヘシ

歐洲ノ政局兵局正ニ二大分野ヲナス而シテ今國際關係ノ紛糾セル歐洲ノ事忽チ極東ニ響キ露國ノ極東政略ナルモノハ畢竟露國ノ歐洲政略ト相離ルヘカラサルモノトナリ

昨夜日本國皇帝陛下ノ御乾盃ノ辭ニ對スル予ノ答詞ニ陳ヘタル通り先生露國ハ獨逸ノ教唆ニ誤マラレ日本ト衝突シタルコトアリシカ其後幸ニ両國ノ關係旧ニ復シタルノミナラズ尚一層親善ノ程度ヲ増シツツアリシ所一昨年ノ夏突然歐洲ノ大戰トナリタルニ獨逸ハ十數年前ヨリ隱密ニ此戰爭ヲ準備シタリシニヨリ戰鬪意外ニ永引キ開戦當時露國ノ所有シタル四百万挺ノ小銃モ久シカラズシテ露國ノ需要ヲ充タス能ハサルニ至リ露國諸工廠ニ於テ昼夜兼行（機関掃除ノ為二時間休業）兵器及軍需品ノ製造ヲ急キツツアルモ大戰ニ対シ欠乏ヲ感スルコト甚シカリシニ日本國ハ右事情ヲ諒解セラレ出來得ル丈ヶ力ヲ尽シテ兵器及軍需品ヲ露軍ニ供給セラレ露軍ノ行動ニ重大ノ援助ヲ与ヘラレタルハ露帝及官民一般ノ感謝ニ堪ヘサル所ニシテ露帝ハ予ニ特命シ日本國皇帝陛下ノ外尚閣下ニモ深厚ナル謝意ヲ伝ヘシメラル次第ナリ、露帝ハ尚日本國カ将来ニ於テモ過去及現在ノ如ク露國ニ援助ヲ与ヘラレンコトヲ熱望セラルニヨリ幸ニ閣下其他ノ御尽力ヲ以テ右ノ目的ヲ達シ速ニ聯合國最終ノ勝利ヲ博ゼンコト希望ニ堪ヘザル所ナリ

三 第四回日露協約締結関係一件 八八

一一二

三国協商側特ニ露国ニ対シ反抗スルノ極メテ有利ナルヲ説キ尚其全文ヲ見ル時ハ土耳其波斯印度及支那ヲ通シテ一ノ長キ帶ヲ作り此帶ヲ以テ露国ヲ掩キ倒サントスル計画明ニ見エタリ

以上ハ独逸カ支那ニ手ヲ染メテ第二ノ土耳其トナサントスル微候ノ最モ顯著ナルモノノ一二ヲ挙クルニ過キサルカ独逸ノ斯ル深遠ナル計画ニ対シテハ日本ハ勿論英露仏何レモ之ニ対抗スルノ策ヲ講セサルヘカラズ

之カ対抗ノ一策トシテハ日露間ノ結束ヲ以テ最モ有効ノ方法ト信セラル但シ露国ノ希望ハ現存ノ日英同盟ヲ薄弱ナラシメントスル意思毫頭無之ノミナラス寧ロ日英ノ結束ヲ鞏固ナラシムルハ延イテ日露ノ結束ヲ確乎不拔ナラシムルニ与リテ力アルコト信セラルカ故ニ近來多少日英同盟ノ冷却ヲ感スルカ如キ際ニ当リ一面日露ノ関係ヲ一層接近セシムルト共ニ日英同盟ノ基礎ハ益強固ナラシメシコトヲ希望シテ止マサルモノナリ日露ニシテ一層接近ヲ遂クル曉ニ於テハ露国ハ後顧ノ憂ナクシテ其驥足ヲ西欧ニ延バスクコトヲ得ルカ故ニ仏英ハ之ヲ歓迎スヘキハ勿論ナリ日露ハ其接近ヲ英仏ニ陰蔽スルノ必要ナキノ

ミナラス進デ其協商ニ英仏ノ參加ヲ促スモ亦一法タルヘシ

過日以来問題トナリ居ル支那事件（聯合國ニ与シテ独逸トスル）ノ如キハ畢竟日露接近ヲ予期シタル曉ニ於ケル一現象トシテ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ故ニ該支那問題ニ閑シテ日本政府カ同意ヲ肯セサルノ觀アリシハ露国外相ノ極メテ失望セル所ナリ之レ其素論タル日露接近其モノノ成立ニ故障アルモノト見ルヲ得ヘキカ故ナリ

日露接近ノ曉ニ於テモ露国ハ現下ノ戰争ニ於テ日本ノ出兵援助ヲ期待スルモノニ非ス日本政府カ遠ク其兵力ヲ歐洲ノ野ニ送ルコトヲ躊躇スルハ露国ノ十分領解スル所ナリ露国ノ希望スル所ハ從前日本カ露国ニ表彰シタル厚意即チ兵器供給ノ件ヲ從来ヨリ一層満足ナル程度ニ於テ断行セラレンコト是ナリ此点ニ於テ日本政府カ我希望スル程度ノ供給ヲ惜マサルニ於テハ露国モ亦其厚意ヲ空ウセサルノ覺悟アルハ勿論ナリ例之昨年兵器問題ノ起リシ際露国側ニ於テハ長春以北松花江ニ至ル鐵道ヲ割テ日本ノ好意ニ酬ヒントスルノ議御前會議ニ於テ現ハレタル位ナリトス

ニ於テ如何トモ判断シ難キ問題ハ之ヲ同僚陸軍大臣及其他ニ協議ヲ要スヘク其他ノ問題ニ付テモ熟考ノ上御出發前ニ重ネテ会談スルコトトセン

「コ」氏 申迄モナク自分ノ使命ハ「サゾノフ」氏ノ意見ヲ閣下ニ取次キ之ニ対スル閣下ノ御意見ノ表示アラハ之ヲ我長官ニ齎スニアリテ本件ニ閑シ交渉ヲ要スルモノアリトセバソハ本野男及「サゾノフ」氏ノ間ニ行ハルヘクシテ自分ノ使命以外ニ亘ルコトナリ

右ニテ本件ノ談話ヲ終レリ

八九 一月二十日 石井外務大臣
コザコフ 会談

露国外相ヨリノ伝言二対シ石井外相ヨリ日露新協約問題、武器供給問題等ニ付回答伝達方

石井大臣 「サゾノフ」閣下ノ虚心坦懐伝言セラレタル所ハ拙者ノ深ク諒トスル所ニシテ此厚意ニ対スル拙者ノ謝意ハ貴官ヨリ之ヲ伝達アリタク又此厚意アル意見ノ表示ニ對シテハ貴官ノ御出發前自分ノ腹蔵ナキ意見ヲ披瀝シテ御伝言ヲ煩ハスコト致スヘキモ先ツ以テ確メ置キタキハ露外相閣下ノ意見ハ日露間ノ接近ヲ期スニアリヤ或ハ之ニ英國又ハ英仏両國ヲモ加ヘテ三国若ハ四国ノ接近ヲ企ツルニアリヤノ点是ナリ

「コ」氏 「サゾノフ」氏ノ意見ニテハ日英露又ハ日英仏ノ接近ヲ見ルハ均ク願ハシキコトナルモ差当リノ希望トシテハ日露ノ協商ニアリト思考ス

石井 只今御申聞ノ事項中例ヘハ武器供給問題ノ如キ自分

関スル件

二 一月二十日宮中會議ノ際山県公提出ノ意見

一月二十日午後五時半「コザコフ」氏ヲ官邸ニ招

致シ石井大臣ヨリ大要左ノ意味ヲ以テ露国外相へ伝言ヲ依
頼シタリ

露国外相閣下ノ打解ケタル態度ヲ以テ日露ノ関係及日露
ノ対支關係ニ付意見ヲ表明セラレタルハ深ク感謝スル所

ニシテ同時ニ予モ亦淡泊ニ意見ヲ言明シテ其好意ニ酬イ
ントス

日露間ノ東亞殊ニ滿蒙ニ閥スル關係ハ前後三回ノ協約ニ
ヨリテ凡ユル誤解ノ原因ハ除去シ尽サレタレハ此上両國
ノ間ニ協商ヲ重ヌヘキ余地アルヤ否ヤヲ疑フ彼ノ支那ヲ
シテ独逸ノ掌中ニ陥ラシメサルノ一事ノ如キハ日露共通
ノ利益ニシテ協商ヲ結フトスレハ好個ノ一条文ヲ為スノ
材料タリ得ヘシト雖一方ヨリ見レハ右ハ殆ント自明ノ事
項ニ屬シ此一事ヲ以テ新協約ヲ締結スルノ十分ナル理由
トモナラサルヘク要ハ我ニ於テ此上武器ヲ供給シ得ルト
仮定セハ貴方ニ於テ之カ報酬ヲ提供スヘシトノコト故或

ハ此所ニ一道ノ光明ヲ得テ協約ノ必要ヲ見出シ得ルヤ否
ヤニ帰着ス

此處ニテ「コザコフ」氏言ヲ挿ミテ曰ク

誠ニ貴説ノ如シ唯特ニ御注意ヲ請ハサルヲ得サルハ我方
ニ於テ進テ補償ヲ提供スル所以ハ武器ノ必要而モ時期ヲ
限リテノ必要ニ迫ラレ居ルカ為ナレハ此武器問題ニシテ
満足ヲ得スンハ補償問題セ自ラ消滅ニ帰スヘキ次第ナル
コト之ナリ

石井 此点ニツイテハ予メ我態度ヲ誤解セラレサランカ為
一言説明ヲ為シ置クノ必要アリ抑モ昨年武器問題發生ノ
當時貴方ヨリハ已ニ長春以北ノ東清鐵道一部ヲ我ニ割讓
スルノ内意ヲ洩ラサレタルモ帝國カ貴國ニ對シ抱ケル潔
白ナル友交感情ヲ赤裸々ニ流露シ即チ我予後備用ノ兵器
ヲ割イテ迄モ貴國ニ提供シ之ニ對シテハ欠陷補填ニ必要
ナル費用ヲ請求スルノ外何等對償ヲ望マス全然義俠心ニ
駆ラレテ行動セルコトハ疾ク貴國ノ認識ヲ得タルコトト
信ス兵器問題ハ全然専門的ニシテ吾人門外者ノ容言ヲ許
スヘキニ非サルノミナラス昨年以来我陸軍官憲カ及フ限
リヲ尽シタル上無理算段迄モ為シタル上ノコトナレハ今

回ハ猶更吾人容言ノ余地ナク全ク軍事當局ノ決定ニ俟タ
サルヲ得サル所ナルカ此際貴國ヨリ進シテ補償ノ提言ア
リシハ吾人ニ於テ我陸軍當局ヲ勸奨スル上ニ或ハ幾分ノ
誘引力ヲ添ヘ得ンカト考ヘ此辺十分證明ヲ努メ置キタレ
トモ今迄ノ所深ク彼等ノ好奇心ヲ喚起スルニ至ラス依テ
自分トシテハ今日ノ處此問題ニ閑シ何等御約束ハ勿論期
待ヲモ与ヘ得サル現状ナレハ此儀ハ御領承アリタク尤モ
我等政府當局ハ勿論軍事官憲ニアリテモ百方工夫ヲ運ラ
ン居リ及フ限ハ貴意ニ応シタキ底意ヲ以テ折角苦心中ナ
ルカ故ニ右苦心ノ結果何分ノ都合相叶フコトヲ發見スル
ニ至レハ本野大使ニ其趣旨ヲ電報シ同大使ヲ通シテ露都
ニテ交渉スルコトトナスヘク要スルニ日露親近ハ主義ト
シテ帝国政府ノ歡迎スル所ナルハ勿論今日起リツツアル
武器問題カ動機トナリテ貴我接近ノ実ヲ見ルカ如キコト
アラハ両國ノ為結構ナリト考ヘ居ル次第ナリ

「コザコフ」氏 御意見ヲ承ルヲ得テ欣幸ニ堪ヘス委細之
ヲ「サゾノフ」氏ニ復命スヘシ尚一ツ伺ヒタキハ閣下ハ
日露協約三回ヲ重ネテ滿蒙ニ閥スル事項最早誤解ヲ惹起
スヘキモノナク此上両國ノ間ニ協約ヲ結フヘキ基礎ナキ

(附記)

大正五年一月二十日附石井外務大臣堯本野在露大使宛書信写

露国外相ノ内提議ニ閑シ宮中ニ於テ三元老ト
協議ノ模様及「コザコフ」ニ對スル回答ニ付
通報ノ件

(前略)

今回太公御訪問ハ本邦朝野ニ至大ノ好感ヲ与ヘ日露関係ノ
将来ニ向テ深甚ノ貢献アリタルヲ疑ハス此ハ御同慶ノ儀ニ
有之候扱「コザコフ」氏ノ齋セル露国外相ノ伝言要領ハ兩
三日前機密公信ヲ以テ申進タルニ付業已ニ御閱覽被下候事

ト存候

「サゾノフ」氏ノ内提議ニ付テハ其後大隈首相ハ勿論山県公等ト種々協議ヲ遂ケ猶本日宮中午餐ヲ機会トシ松方侯ヲ熱海ヨリ大山元帥ヲ沼津ヨリ何レモ帰京ヲ請ヒ宮中ニ於テ三元老ト大隈伯小生ノ会合有之小生ヨリ別紙案ヲ提出シテ議題ト為シ密議致候処大山公ハ異議ナク寧ロ贊成松方侯ハ大々的贊成山県公ニ至テハ衷心贊成ノ如ク推察セラルモノノ流石ハ元老ノ親玉元帥ノ故參丈アリテ自家ノ立場ニ顧ミラレ用意周到留保条件附贊成ヲ表明セラレ又全問題ノ骨子タル武器供給ノ件ニツキテハ最モ重大ナル責任者タル陸相ト懇談ノ上其肯諾ヲ得ヘキ旨勸告セラルニ付キ別席ニ於テ首相及小生ヨリ陸相ニ懇談ヲ試ムルモ陸相モ亦山県公初メ諸元老ノ踏ミ込ンテノ贊助ト閣議決定ト御裁可トアリタル上ナラテハ屬僚ヲ初メ諸元帥ノ議ヲ纏ムルコト覚束ナ

シトテ議進マス一方太公ハ明朝御退京ノ事トテ「コザコフ」氏ニ對シテハ今日中ニ何分ノ挨拶ヲ与ヘサルヘカラサル破目ニ在リ議事ハ前段ノ始末ニテ明確ニ何レトモ決シ兼ネタリ陸相ノ最後ノ思付ニ依レハ本年十一月頃引渡スヘキ契約ノ銃十五万（内一万ハ既渡済）ヲ繰上ヶ之ヲ三四月ノ

一一六

頃前後（隨テ此ハ我予後備ニ充テアルモノヲ以テ暫ク立換

ヘサルヲ得ス）トルノ可能不可能ニツキテハ考ノ余地ナキニ非ストノ事ニ有之此方法又ハ其他ノ方法ヲ以テシテモ兎モ角モ事ヲ成立セシメントノ底意ヲ以テ工夫ヲ試ムル事ト相成リ立チ分レ申候前述ノ始末ニツキ本日午後五時半

「コザコフ」氏ノ來訪ヲ請ヒ小生ヨリ大要左ノ意味ヲ以テ露国外相ヘ伝言ヲ依頼シタリ

（以下省略）（註）

註

右省略ノ部分ハ前頭一月二十日石井外相及コザコフ間会談

要領ト同一ナルニ付省略ス尚本書信ニハ其末尾ニ左ノ記載

附加セラレタリ

「猶此外幣原次官及坂田通商局長ヨリ「コザコフ」氏ニ對

シ沿海州漁業問題開税協定露國輸入税法ノ三件ニ關シ懇談

スル所アリタリ」

（附記一附屬）

（別紙）

一月二十日宮中ニ於テ石井外務大臣ヨリ三元老へ協議ノ露

國外相内提議ニ対スル回答案ニ關スル件

日露關係ノ現状ハ概シテ満足ナリト謂フヲ得ヘキモ歐洲大亂發生以来帝國ニ与ヘタル親好的援助ト露國活動中心点ノ推移トニ顧ミル時ハ更ニ現状ニ一步ヲ進メ以テ東亞ニ於ケ

ル両國關係ヲ我ニ取りテ一層有利且満足ナル基礎ニ措クノ余地無キニ非ス

滿洲ニ於ケル日露ノ殊特利益ハ松花江線ヲ以テ分界ト為スヲ現状トス然ルニ滿洲ハ北進スルニ隨テ地味愈豐富ナルカ故ニ若シ長春ヨリ進ムテ哈爾賓ニ至ル沃野千里ノ地域ヲ以テ事実我勢力範囲ト為シ長哈鉄道ヲ收メテ我使用ノ下ニ結果クヲ得ルトセハ吉林平野ノ富源ハ全然我カ收実ニ帰シ其結果我南満鉄道ノ活動区域ニ顯著ナル拡大ヲ來シ軍略上商略上我利益蓋シ莫大ナルモノアラントス

案スルニ歐洲大亂發生以來帝國力露國ニ向テ表証シタル厚誼ハ極メテ深大ニシテ露國モ亦其厚誼ヲ認識スルニ客ナルモノニ非サルハ太公今回ノ來朝之ヲ証シテ余リアリト謂フヘシ帝國ノ好意的態度ニシテ露國ノ適當ナル認識ヲ得タリトセハ帝國ハ進シテ我安奉及南満鉄道ノ延長線タル長哈鉄道ヲ我使用管理ノ下ニ移サレシトノ希望ヲ露國ニ向テ淡泊ニ表白スルヲ妨ケス而モ露國ニシテ我友好ノ態度ヲ認識シ果シテ斯ル我希望ヲ容ルルノ雅量ヲ示ス時ハ我モ亦彼ノ希望スル武器供与ノ件ニ於テ事情ノ許ス限り最大ノ努力ヲ吝ムモノニ非サルコトヲ彼ヲシテ諒得セシメスクシテ両國

斯ク數ヘ來レハ日露両國ノ間此際新ニ一ノ協約ヲ締結スルノ基礎存在スルコトヲ認メ得ヘシ事ノ成否ハ固ヨリ逆睹スヘキニ非スト雖モ今回露國ノ内提議ニ對シテハ上述ノ底意ヲ以テ「帝國政府ハ日露現下ノ關係ニ一步ヲ進ムルノ目的ヲ以テ談話ヲ試ムルコトニ主義上同意ス」ト挨拶シテ可然

(附記二)

大正五年一月二十日宮中會議ノ際山原公提出ノ意見

原案ノ如ク初メ武器ノ供給ヲ交換的ニ行ハントスルカ如キ
言辞ヲ避ケ大凡左ノ意味トスルヲ可トス然レトモ當局者ノ融通シ得ル範囲ニ於テ多少ナリトモ增加供給ヲ容スハ固ヨ
リ可ナリ

帝國ハ開戦以来親善ナル友邦關係ニ加フルニ聯合對敵ノ大

責任ヲ負ヘルヲ自覺シ左ノ主義ニ於テ可能ノ援助ヲ露國ニ
与フルコトニ全幅ノ考慮ト努力トヲ尽シ居レリ

一、戰爭間帝國ノ極東ニ於ケル利權ヲ擁護シ要スレハ兵

力ヲ仮スニ躊躇セス以テ露國極東ノ守備軍ヲ歐洲戰場

ニ使用スルコトヲ得セシム

二、極東ノ重鎮トシテ日露ノ利權ヲ擁護スルニ足ルヘキ

帝國軍備ノ許ス範囲ニ於テ帝國ハ兵器材料ヲ露國ニ供

給スルニ最大ノ努力ヲ尽シ嘗テ怠ルコトナシ

右ノ如クナルヲ以テ今ヤ遼ニ多數兵器ノ新供給ヲ圖ルノ余

地ナシ而レトモ從來官設工場ノ拡張並ニ民間工場ノ改設ニ

努メ多少ナリトモ供給ノ增加ヲ圖ルヘシ

九〇 二月十四日 閣議決定

対露武器供給、東支鐵道南部線讓与、同盟関

的政策ニ駆ラル邦國トノ接近ヲ予防スルハ現下ノ急務

タルヘキコト

第六 第五項ノ同盟關係ハ凡ソ左ノ標準ニ拠ルヘキコト

甲、日露兩國ハ其領土權及特殊利益ヲ擁護センカ為必要

ニ應シ相互ニ平和手段ニヨル友好的援助ヲ與フルコト

乙、日露兩國ノ一方ハ他方ニ敵對スル目的傾向ヲ有スル

條約若クハ協定ニ加入シ又ハ之ヲ締結セサルヘキコト

ヲ相互ニ約束スルコト

丙、日露兩國ハ支那カ第三國ノ政治的掌握ニ帰スルコト

ヲ以テ兩國各自ノ主要利益ニ對スル侵迫ト互認シスル

情態ノ発現ヲ予防スル方法ニツキ隨時協議ヲナシ右協

議ニ基キ一方力執リタル措置ノ結果トシテ第三國ト戰

争ヲ為スノ已ムヲ得サルニ至リタル場合ニ於テハ他方

ハ來テ其同盟國ニ援助（兵力援助ヲ含ム）ヲ與フヘキ

コトヲ相互ニ約束スルコト

九一 二月十四日 石井外務大臣ヨリ
在露國本野大使宛（電報）

対露武器供給及日露新協約締結ノ問題ニ關シ

政府方針決定ノ旨通報ノ件

三 第四回日露協約締結關係一件 九一

係設定ノ諸問題ニ關スル件

一一八

大正五年二月十四日議會ニ於ケル閣議決定

第一 日露兩國ノ親善ヲ鞏固ニシ接近ヲ促進スルハ東洋ノ
平和ヲ維持スル所以ナルコト第二 日露講和條約成立後滿蒙ニ關スル三回ノ協約ヲ重ネ
タルハ方ニ此方針ニ出テ歐洲大戰勃發以降帝國政府カ露
國ニ對シ多量ノ軍需品ヲ供給シタルハ之亦第一項ノ趣旨
ニ一致スルモノニシテ今後ト雖事情ノ許ス限り此方針ヲ
持続スヘキコト第三 沢ンヤ露國政府ニ於テ帝國カ開戦以来表示シタル厚
意ヲ認識シ東清鐵道支線ヲ我ニ割讓シテ以テ帝國ニ向ヒ
有形的應酬ノ態度ヲ表明スルニ於テハ帝國政府ハ宜シク
國際關係ノ現状ニ鑑ミ国防ノ要義ニ反セサル限り兵器ニ
關スル露國政府ノ要望ニ應スルヲ辭セサルヘキコト第四 第三ノ場合ニ於テ長春哈爾賓間ノ鐵道ハ相當ノ價格
ヲ以テ讓受ケ兵器モ亦相當ノ價格ヲ以テ之ヲ壳渡スコト
トスルコト第五 日露兩國親善關係茲ニ至ラハ更ニ一步ヲ進メテ寧ロ
兩國間ニ同盟關係ヲ設定シ戰後露國ヲシテ獨逸其他侵略

第九〇号

「コザコフ」氏ヲ通シテ表明セラレタル露外相ノ意見ニヨ
レハ第一露國ハ軍需品ニ關シ帝國政府カ尽セル好意ヲ認識シ場合ニヨリテハ東清鐵道枝線ヲ我ニ割クノ底意アルモノ
ノ如ク、第二露國ハ独逸カ土耳其波斯ヨリ支那ニ亘ル一帶ニ手ヲ伸ハシ以テ露國ノ咽喉ヲ扼スルノ計画アルヲ推知シ
危惧ノ念アルモノノ如シ住電五六号発後帝國政府ハ右両点ヲ基礎トシ日露兩國接近ニ關スル露國政府既往ノ提言ニ顧
ミ併セテ戰後ニ於ケル帝國将来ノ利害ヲ慮リ第一露國ニシテ長春哈爾賓間ノ鐵道ヲ相當代價ヲ以テ帝國ニ譲渡ストノ
好意ヲ示サルニ於テハ帝國政府亦太公殿下ヲ通シテ申出テラレタル武器供給問題ニ關シ國防上ノ難キヲ忍フモ尚且
若干程度迄先方ノ希望ニ應スルノ決心ヲナスニ至ルヘキコト、第二日露将来ノ政策問題ニ關シテハ支那カ独逸ノ掌握
ニ帰スルカ如キ事態ハ兩國ノ利益及安寧上許スヘカラサル所ナルヲ以テ右危險ヲ予防スルノ基礎ニ秘密同盟協約ト外
ニ兩國ノ特殊親善關係ヲ表明スヘキ公表協約ヲ締結スルノ
議漸ク熟シ右ハ二月十五日御裁可ヲ経テ貴官ニ電報スル予
定ニ付委細ハ右ニテ御承知相成度但東清鐵道枝線讓与ノ件

一一九

ハ我方ヨリノ請求ニヨリテ讓与ノ決心ヲナシタル形迹ヲ残スハ面白カラス我申出ヲ俟タズ先方ヨリ任意ニ提供アリタリトスレハ帝國ノ輿論ニ一層ノ好感情ヲ与へ延テ我陸軍官憲ヲシテ軍器問題ノ決定ヲ容易ナラシムヘキニ付出来得へクハ先方ヨリ進ミテ提言セシムル様御配意アリタシ

九二 二月十四日 石井外務大臣ヨリ
大山公爵 松方侯爵

日露關係緊密化ノ方針決定ノ趣内報ノ件

大山公爵（沼津） 松方侯爵（熱海） 宛各通

拝啓 益御清邁奉賀候陳者日露接近問題及武器供給問題ニ

関シ過般宮中ニ於テ御会合願上候際總理大臣及小官ヨリ一応貴意ヲ得置候處爾後兵器問題ニ關シ陸軍當局ニ於テ詮議ノ結果若干露國ノ希望ニ応スルヲ得ルノ見据相付候ニ付此機ニ於テ先ツ以テ東清鐵道枝線讓渡ノ議ヲ提出シ右先方ノ快諾ヲ得候上ハ若干軍需品供給ヲ諾スルコト及進シテ日露

将来ノ關係ヲ接近スルコト原議トシ別紙ノ通り（二月十四日議會ニ於テ閣議ヲ経タル個條書）漸ク議定致候間不取敢御内覽ニ供シ申度候右ハ露國太公ノ露都帰着ノ頃合即チ

本邦朝野優待ノ好感情流露ノ時機ヲ見計ヒ機ヲ失セス先方ニ提出スルヲ得策ト存候緩々内容ニ関シ御報告ノ機會ヲ得サリシモ大体ノ主旨ニ至テハ業已ニ得貴意タル次第ニ有之旁急速議ヲ進メ漸ク決定ヲ見タル始末ニ御座候右ハ參候ノ上親シク申上度候得共何分議会ニ捕ヘラレ居リ不本意ナカラ概略書面ヲ以テ申上候草々敬具

追テ申迄モ無之候ヘ共本件ハ嚴秘ノ御取扱ニ願上候 註 此閣議決定ハ前掲ニ付省略ス

九三 二月十五日 石井外務大臣ヨリ
寺内朝鮮総督宛（電報）

日露協約締結ニ關シ廟議纏リタル旨内報ノ件

御配意ヲ煩シタル問題議漸ク纏リ本日總理大臣ト共ニ葉山ニ至リ御裁可ヲ得タルニ付直チニ本野大使ニ発電シタリ必要書類ハ安全便アリ次第御内覽ニ供スヘシ御礼旁右不敢敬内報ス

九四 二月十五日 石井外務大臣ヨリ
在露國本野大使宛（露報）

対露武器供給、東支鐵道南部線讓与及日露新

協約締結ノ諸問題ニ付訓令ノ件

別電一 同日石井外務大臣發本野大使宛電報第九二号

公表協約案
同第九三号
秘密協約案

第九号

露國皇帝御名代ノ我帝室御訪問ハ日露両國ノ關係ヲ一層親善ナラシムルノ効果アリタリ戦爭開始以来帝國政府ガ（第一）極東露領ノ安全ヲ保障シ露國ヲシテ殆其防禦ヲ撤シ武備ヲ西欧ニ移転スルヲ得セシメ（第二）軍需品問題ニ於テ国防ノ原則ニ拘ラス必要不可欠ノ部分ニ屬スル武器ヲモ割キテ之ヲ譲渡シ（第三）財政ニ於テ自己ノ便宜ヲモ犠牲ニ供シテ日本財界ニトリテハ前例ナキ露國大藏証券ニ応募シ其他百般ノ厚意ヲ致シタルニ對シ露國政府ニ於テハ是迄何等有形的厚意ノ表彰セラレタルコトナク却テ近頃閔稅ヲ改正シ本邦品ニ對シ特ニ重大ナル打撃ヲ与ヘ沿海南漁業ニ関シテハ煩苛ナル制限ヲ加ヘテ本邦當業家ニ少カラサル苦痛ヲ与ヘタル如キハ両國々交ノ為帝國政府ノ窃ニ憂慮スル所ナルノミナラス民間ノ輿論モ亦漸ク疑惑ヲ抱クニ至レルニ際シ太公御來朝ノ為之力感情大ニ融和セラレタルハ欣喜ニ

国議会ニ於ケル苦情モ自ラ消滅スヘク從テ我陸軍官憲ニ於テ太公殿下ノ齋セル武器供給ノ問題ニ付テモ若干ノ程度迄ハ露國ノ要望ニ応スルノ途ヲ発見シ得ルニ至ルヘキハ本大臣ノ確信シテ疑ハサル所ナリ（軍需品供給ノ内定程度ハ別電ヲ以テ申進ス）

尚此外永ク戦後ニ於ケル両國關係ヲ接近セシムル件ニ付テハ戦争開始以來露國當局ヨリ頻次内談アリタルトコロナル

カ帝國政府ニ於テモ前述ノ如ク非常ノ決断ヲ以テ我軍隊ニ絶対必要ナル武器ノ譲渡ヲモ敢テシ以テ両國ノ親交ヲ一層強固ナラシメントスルニ際シテハ進ンテ露國ト新ナル協定ヲナスコトヲ辞セサルヘク而シテ之レカ為ニハ必スシモ戰

後ノ時機ヲ俟ツニ及バズト考量スルニ至レリ

帝國政府ニ於テハ公示協約トシテ別電申号ヲ又秘密協約トシテ乙号ヲ協定スルノ意向ヲ有スルモ右ハ談判ノ性質ニ鑑ミ貴官ヨリハ之ヲ帝國政府ノ一応ノ容認ヲ得タル貴官ノ私案トシテ露國外相ニ示サレ之ヲ基礎トシテ意見ノ交換ヲ行ハル、様致シタシ

別電協約案ニ關シ貴官ニ於テ疑問又ハ意見アラハ談判ニ入ルニ先チ電報セラル、ト同時ニ協約以外ノ上述諸問題ニ付

テハ必ズシモ協約問題ト同時タルヲ要セス不取敢右諸問題ニ付談話ヲ開カレテ差支ナシ右両問題ハ日露接近ナル同一ノ動機ニ出ヅルモノニシテ性質上離ルヘカラサルモノナルカ故ニ先以テ右諸問題ヲ議スルニ當テ貴官ハ別ニ同盟ニ関スル内訓ヲ有シ居ルコトヲ先方ニ内告シ先方ヲシテ両問題ノ彼此闊聯スル所ナルコトヲ了解セシメ置カレタシ

(別電二)

二月十五日石井外務大臣發本野大使宛電報

公開協約案

第九二号

甲号

第一条

兩約締國ハ極東ノ地域ニ於ケル両締約國ノ領土權及特殊利益ヲ保全セムカ為何時ニテモ必要ノ場合ニハ其ノ權内ニ於ケル一切ノ平和手段ヲ尽シテ相互ニ友好的ノ援助及協力ヲ為スヘキコトヲ声明ス

第二条

兩締約國ハ孰レモ他ノ一方ニ對シ侵略的目的ヲ有スル何等ノ協定又ハ聯合ノ当事國トナラサルコトヲ約ス

第三条

兩締盟國ハ極東ノ地域ニ於ケル両締約國ノ領土權及特殊利益ヲ保全セムカ為何時ニテモ必要ノ場合ニハ其ノ權内ニ於ケル一切ノ平和手段ヲ尽シテ相互ニ友好的ノ援助及協力ヲ為スヘキコトヲ声明ス

第四条

兩締盟國ノ一方カ第三条ノ規定ニヨリ他ノ一方ニ兵力的援助ヲ与フヘキ条件及其ノ援助実行ノ方法ハ両締盟國當該官憲間ニ於テ協定スベシ

第五条

本協約ハ調印ノ当日ヨリ直ニ實施シ 年間効力ヲ有ス

第六条

兩締盟國ハ支那國ニ於テ前条ニ記述セル事態ノ發生スルコトヲ防止センカ為必要ニ応シテ隨時隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ双方ノ執ルヘキ措置ヲ共同ニ考量スヘシ

第七条

兩締盟國ハ支那國ニ於テ前条ニ記述セル事態ノ發生スルコトヲ防止センカ為必要ニ応シテ隨時隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ双方ノ執ルヘキ措置ヲ共同ニ考量スヘシ

第八条

兩締盟國ハ支那國ニ於テ前条ニ記述セル事態ノ發生スルコトヲ防止センカ為必要ニ応シテ隨時隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ双方ノ執ルヘキ措置ヲ共同ニ考量スヘシ

第九条

貴電九〇号ニ關シ談判ニ取カヘル前「コザコフ」ヲ通シテ閣下ニ開示シタル露國外務大臣ノ意向ヲ更ニ確ムル必要アリト思料シ二月十六日同大臣ニ面会貴電ノ大意ヲ述へ其意見ヲ微シタルニ同大臣ハ帝國政府ニ於テ協約締結ノ意思アルヲ知リ大ニ満足ノ意ヲ表シ自分ハ飽ク迄日露親善關係ヲ一層密接ナラシムルノ必要ヲ認メ居ルニ付速ニ談判ヲ開始

サズ

シタシト述ヘタリ依テ本官ハ兩三日ヲ期シ閣下ヨリ御電訓ノ趣旨ヲ詳細書面ニ認メ更ニ会見スヘキ旨ヲ約シ置キタリ

九六 二月十七日 石井外務大臣ヨリ 在露国本野大使宛(電報)

露國ガ長春哈爾賓間鐵道讓渡ノ場合ニハ更ニ

武器彈薬供給ノ用意アル旨言明方訓令ノ件

第九八号

往電第九一號ニ閲シ若シ露國ニ於テ愈長春哈爾賓間鐵道ノ讓渡ヲ承諾スル場合ニハ我陸軍ニ於テハ過日太公ニ讓渡ノ同意ヲ与ヘタル小銃彈薬二千万發ノ外別ニ小銃十二万挺、彈薬六千万發ヲ此際特ニ在庫品ヨリ一時ニ供給スルノ覺悟アルニ付露國カ前記鐵道ノ讓渡ヲ承諾シタル上ハ貴官ハ右軍需品供給ニ關スル帝國政府ノ覺悟ヲ露國當局ニ言明シテ可也尚申迄モナケレトモ先方ニ於テ鐵道ノ件ヲ承諾セサルニ我方ヨリ武器ヲ讓ラサルヲ得サルコト、ナリテハ不相成ニ付此点重々御注意アリタシ

九七 二月十九日 在露国本野大使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

日露關係緊密化ノ方策ニ関スル我方提議ニ付

九八 二月二十一日 在露国本野大使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

日露同盟條約案ニ付意見稟申及本野大使私案

二付請訓ノ件

別電一 同日本野大使発石井外務大臣宛電報第一一六号

同公表協約本野大使私案

二 同第一一七号

秘密協約本野大使私案

附記 右ニ対スル石井外務大臣ヨリ回訓

第一一五号

貴電第九一號末段ヲ以テ御申越ノ趣ニ從ヒ卑見左ニ開陳ス

日露同盟條約ヲ締結スル以上ハ其主タル目的ハ世界ニ於ケ

ル帝國ノ地位ヲ安固ニシ極東ノ平和ヲ保持スルト同時ニ支

那ニ於テ日露ノ享有スル權利及利益ヲ保全スルニ在ルモノ

ト確信スルニ付今回露國政府ニ提出スペキ同盟條約案ハ單

第一一六号

二月二十一日本野大使発石井外務大臣宛電報

日露同盟公表協約本野大使私案

(別電一)

ニ対独政策ノミヲ主眼トセス純然タル同盟條約ト為シ之ヲ公表シテ両國ノ關係ヲ世界ニ声明スル方可然ト思考ス就テハ同盟條約ハ日英條約ト齊シク之ヲ公表協約トスルコト、シ只支那ニ独逸野心防遏ノ為ニ日露両國協力スルノ件ハ之ヲ秘密条款トシテ右公表協約ニ附屬セシムルヲ可ナリト思考ス而シテ御送付ノ條約案ニハ第三國トアルモ卑見ニヨレハ秘密案約ニ於テ明カニ独逸ト指名スル方然ルヘシ何トナレハ本條約ハ英仏政府ニハ内示スルノ必要アルヘキニ付明ニ独逸ヲ指名セサルトキハ或ハ疑ヲ生セストモ限ラサレハナリ尚秘密案約中ニ第三國ヲ指名シタル例アリ(一八七九

年獨撲同盟條約第一条)公表協約ハ別電第一一六号ノ通トナシ英露衝突ノ場合ニ備フル為第五条ヲ設クルコト、シ秘密條約ハ別電第一一七号ノ通トナシ本官ノ私案トシテ外務大臣ニ提出スルコト、致シタシ御異存ノ有無至急御回示アリタシ

リタシ

ミ左ノ項ヲ締約セリ

第一条 両締約國ニ於テ極東全局ノ平和カ侵迫セラレ又ハレハ本條約ハ英仏政府ニハ内示スルノ必要アルヘキニ付明ニ独逸ヲ指名セサルトキハ或ハ疑ヲ生セストモ限ラサレハナリ尚秘密案約中ニ第三國ヲ指名シタル例アリ(一八七九

十分ノ同情ヲ以テ審議ノ旨露国外相言明ノ件

第一〇五号

二月十八日外務大臣ニ面会往電第九五号末段ノ書面ヲ手交シ十分説明ヲ加ヘタル處大臣ハ一読ノ上自分一己ノ考ニテハ露國政府ハ日本政府ノ提議ニ応シ得ヘシト思考スルモ同僚トモ相談シ又陛下ニ上奏スルノ必要アルニ付確答ハ致シ難キモ日本政府ノ穩当ナル提議ハ自分ニ於テ満腔ノ喜悦ヲ以テ迎フル所ニシテ露國政府ハ十分ノ同情ヲ以テ右提議ヲ審議スヘク來二十一日陛下大本營ヨリ御還幸ノ筈ニ付上奏ヲ遂ケ來週半ハニハ何等ノ確答ニ及フヘシト云ヘリ尚機ニ於テ同大臣ハ戰時中ハ勿論将来ニ於テモ極東ヨリ独逸ノ勢力ヲ驅逐スル為日露両國ハ十分協力スルヲ要スト思考スル旨特ニ言明セリ

ク知照シ且ツ此等ノ禍ヲ未然ニ防カソガ為執ルヘキ措置ニ付協同攻究スヘシ

第二条 一国若クハ數国ヨリ攻撃ヲ受ケタルニヨリ又ハ一

國若クハ數国ノ侵略的行動ノ結果締約國ノ一方カ上記ノ領土權又ハ特殊利益ヲ防護センカ為交戦スルニ至リタル時ハ直ニ交戦國トシテ援助ヲ供与スヘク又合意ニヨルニ非レハ講和ヲ締結スルコトナカルヘシ

第三条 前条ノ規定ニ従ヒ締約國ノ一方ガ他ノ一方ニ兵力的援助ヲ与フヘキ条件及該援助実行ノ方法ハ西締約國當該官憲ニヨリ決定セラルヘク該當該官憲ハ相互ノ利益ニ関スル總テノ問題ニ関シ隨時十分ニ且ツ自由ニ協議ヲ為ス

第四条 両締約國ハ何レモ他ノ一方ニ協議スルコトナクシテ本條約ノ目的ヲ阻害スヘキ性質ヲ有スル何等ノ協定ヲモ他国ト締結（？原文脱語）スルコトナカルヘシ

第五条 両締約國ハ何レモ両締約國ノ一方ト同盟條約ヲ有スル第三國ニ対シ交戦スルノ義務ナキハ勿論ナリトス

第六条 （日英條約第六条ト同シ）（期間ニ関スル項）

右証拠トシテ下名ハ云々
(別電二)

省事務當局ニ於テ作成シタル仮訳ナリ
(附記)

石井外務大臣発本野太使宛往電第一一一号

旨回訓ノ件 日露關係緊密化ノ為ノ談判ハ發方案ニ基キ開始セラレタキ

第一一一号（極秘）

貴電第一一五号ニ関シ

御來示ノ協約案ハ當方ノ案ト全ク方針ヲ異ニスルモノニシテ帝國政府ノ責務ヲ著シク増加スル次第ナル處當方ノ案ハ既ニ各方面ヨリ慎重ナル考量ヲ遂ケ閣議ヲ經テ元老ニモ協議ノ上勅裁ヲ得タルモノナルカ故ニ今更其ノ大体ノ方針ヲ変更スルコト能ハス就テハ當方案ニ基キ先方ニ開談セラルル様致度

註 本電ノ發電ノ日時不明ナルモ本野大使來電第一一五号ノ本省接受ハ二月二十二日ト認メラレ本電ハ右ニ對スル回訓ナルニ付二月二十三日頃ノ發電ナルベシ

九九 二月二十六日 在露國本野大使ヨリ 石井外務大臣宛（電報）

日露同盟問題、東清鐵道南部線讓渡問題等二
關シ露国外務省ヨリ回答受領ノ件

（二月二十八日接受）
第一三三号極秘

二月二十一日本野大使発石井外務大臣宛電報
日露同盟秘密協約本野大使私案

第一一七号

兩締約國ハ獨逸國ガ支那國ニ於ケル政治上ノ權力ヲ掌握セントヲ熱望セリト信スル重大ナル理由ヲ有シ右ノ掌握ハ兩締約國ノ必須利益ニ對シ永久の侵迫ヲ構成スルモノト認ムルニヨリ斯カル禍ヲ未然ニ防カソカ為相互ニ隔意ナク且ツ十分ニ協議シ此目的ノ為執ル可キ凡テノ措置ニ付協同攻究スヘシ

前項ニ掲ケラレタル目的ノ為獨逸國ヨリ支那國ニ對スル侵略的行動ノ結果又ハ前項ニ予想セラレタル目的ヲ以テ兩締約國同意ノ上執ラレタル措置ノ結果締約國ノ一方ガ獨逸國ト交戦スルニ至リタルトキハ本日調印ニ係ル同盟條約第二条及第三条ノ規定ハ全部且ツ直ニ効力ヲ發スヘシ

本協定ハ兩締約國ノ間ニ嚴ニ秘密ニ附セラルヘシ

右証拠トシテ下名ハ云々

註 右本野大使來別電第一一六号及第一一七号ノ原文（歐文）ハ記録存セズ只其和訳文ノミ残存セラルニ付該和訳文ヲ右別電一及同二トシテ掲載シタリ尤モ該和訳文ハ當時外務本

二、露國政府ハ日本政府ニ於テモ露國政府ト同シク獨逸ノ勢力ノ支那ニ發展スルハ頗ル危險ナリトノ意見ヲ有セラルコトヲ知リ満足スルモノナリ露國政府カ日本ノ協力ヲ求ムルハ此危險ヲ防遏スルヲ目的トス故ニ日露同盟ニシテ一度締結セラレンカ同盟ハ直ニ其効果ヲ發生セサルヘカラス支那領土内ニ於テ独逸ニ大打擊ヲ與ヘ戰爭中独逸カ支那ヲ陰謀ノ根拠地トナスコトヲ妨害シ戰後支那ニ

三 第四回日露協約締結関係一件 一〇〇

一一八

於ケル独逸勢力ノ樹立ヲ予防スル為ニハ独逸カ目下歐洲ニ孤立シ極東トノ交通ヲ絶タレタル今日ヲ以テ最好機会

トス右ノ目的ヲ達スル為ニハ支那ヲシテ独逸トノ国交ヲ断絶セシメ同盟國側ニ立タシメサルヘカラス右ノ措置ニ

出ツルトモ露國政府ハ支那ヲシテ交戰國タルノ権利又ハ平和會議參列權ヲ主張セシメントスルモノニアラス何トナレハ斯ノ如キハ單ニ日本ノミナラス露國ニ取り甚タ不利益ナレバナリ

三、露國ハ日本ト同盟シ独逸トノ戰爭ニ於テ日本ヨリ十分ノ援助ヲ期待スルモノナリ即チ日本ガ共同ノ敵ト實際交戰スル場合ニ消費スヘキ兵器弾薬ヲ露國ニ供給セラレンコトヲ希望ス露國ハ其代償トシテ日本ノ勢力範囲内ニアル東支鐵道（長春松花江）ヲ相当代價ヲ以テ日本ニ譲与シ得ヘシ

一〇〇 二月二十六日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

日露同盟問題等ニ關スル露國外務省ノ回答二

付請訓ノ件

第一三四号（極秘）

（一）関稅及漁業問題ニ付テハ外務大臣ノ口氣ニ依レハ已ニ漁業問題ニ關シ我要求ノ一部ヲ容レタル外尚讓歩ノ余地アルモノノ如シ

（二）獨逸國ニ対抗スル為日露両國同盟ヲ締結スル点ニ付テハ兩國ノ意見一致スルモ帝国政府ニ於テハ専ラ将来ニ於テ支那カ獨逸國ノ掌握ニ帰スルカ如キ危險ヲ予防スルコトヲ條約ノ基礎トセラルニ反シ露國政府ハ條約締結ト同時ニ支那ニ於テ効力ヲ發生セシメントスルコト往電第一三三号第ニ述フルカ如クニシテ兩國ノ意見大ニ相違シ居ル次第ナルガ帝國政府ニ於テハ露國政府ガ此点ニ關スル主張ヲ枉ケサル限り同盟條約締結ヲ肯ンセサル次第ナルヤ篤ト御詮議ノ上御回電アリタシ此点ニ付テハ露國外務大臣ハ隨分強硬ナル意見ヲ有シ居ルモノト認メラルニ付右御含アリタシ（三）鐵道支線讓渡ニ關シテハ松花江以北ノ讓与ハ露國ニ於テ到底之ニ承諾ヲ与ヘサルヘシト信ス尤松花江ヲ界トスルコトハ鐵道經營上不便ナルヲ理由トシテ松花江以北哈爾賓間鐵道管理ヲ日本國ニ依託セシムルコトハ或ハ露國政府ニ要求シ得ヘシト信ス此点ニ付テモ十分御考量アリタシ右ニ對

シ我方ヨリ武器ヲ供給スル件ハ露國政府申出ノ通其儘承知シ能ハサルハ勿論ナルモ此ノ点ニ付テハ露國政府ハ希望ノ全部ヲ申出タルコトナレハ無論談判ノ余地アリト思考ス要スルニ露國政府今回ノ回答丈ニテハ双方ノ意思合致セサル廉少カラスト雖已ニ本問題ヲ提起シタル以上ハ出來得ヘクンバ成ルヘク速ニ纏ムル必要アリト信ス篤ト御詮議ノ上御回訓ヲ請フ

一〇一 二月二十七日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

武器供給、東支鐵道一部讓与、支那引入ノ諸問題ニ關スル露國外相ノ談話ニ付報告ノ件

第一三八号（極秘） （二月二十八日接受）

二月二十六日外務大臣ノ需ニ応シ往訪シタルニ條約問題ニ關スル同大臣ノ回答ニ付談話アリタリ其要点左ノ通り

一、武器供給ノ件ハ予想ノ通り同大臣ノ回答ハ表面的ニシテ内密ハ日本ニ於テ出来得ル限り供給セハ満足スヘキ意嚮ナルコト確ナリ多分御内示ノ数量ニテ折合フヘシト信セラル

三 第四回日露協約締結関係一件 一〇一

一一九

三 第四回日露協約締結関係一件 一〇二 一〇三

一三〇

モ苦痛トスル所ナルヘシ故ニ露国政府ハ英仏政府ト同様是非トモ此機ニ乗シ支那ニ於ケル独逸ノ經濟上ノ勢力ヲ敵逐セムト欲ス獨逸ノ将来ニ於ケル危険ハ日本政府ニ於テモ了解セラル所ニシテ此危険除去ノ目的ヲ以テ日露

同盟ヲ締結スル以上ハ其ノ結果トシテ直ニ支那ニ於ケル独逸ノ勢力ノ防遏策ヲ決行シタシ云々本使ハ之ニ対シ支那引入レ問題ニ付テハ帝国政府ハ既ニ其方針ヲ定メ之レヲ英仏露三国ニ通知シタルコトナレハ今更之ヲ変更スルコトハ甚々困難ナルヘシト信スルニ付自分一己ノ意見ニテハ此問題ハ條約締結問題トハ分離シテ研究スル方可然ト信スト答ヘタルニ同大臣ハ之レヲ分離シテ談判スルコトニハ異議ナキモ本件ニ關シ日露両國間十分ニ意思ノ疏通ヲ見タル上条約ヲ締結シタシト云ヘリ要スルニ支那引入ノ件ヲ以テ條約締結ノ先決問題トナス程ノ考ハナキ如クナルモ余程重キヲ措キ居ル次第ニ付篤ト御考量アランコトヲ希望ス尙外務大臣ノ口氣ニ依レハ露国政府ニ於テハ日本政府ハ何故今ヨリ支那ニ於ケル独逸ノ經濟上ノ勢力ヲ驅逐スルコトニ同意セラレサルヤ甚々了解ニ苦ミ居ル様子ナリ右不敢敢申進ス

同盟ヲ締結スル以上ハ其ノ結果トシテ直ニ支那ニ於ケル

独逸ノ勢力ノ防遏策ヲ決行シタシ云々本使ハ之ニ対シ支

那引入レ問題ニ付テハ帝国政府ハ既ニ其方針ヲ定メ之レヲ英仏露三国ニ通知シタルコトナレハ今更之ヲ変更スルコトハ甚々困難ナルヘシト信スルニ付自分一己ノ意見ニテハ此問題ハ條約締結問題トハ分離シテ研究スル方可然ト信スト答ヘタルニ同大臣ハ之レヲ分離シテ談判スルコトニハ異議ナキモ本件ニ關シ日露両國間十分ニ意思ノ疏通ヲ見タル上条約ヲ締結シタシト云ヘリ要スルニ支那引入ノ件ヲ以テ條約締結ノ先決問題トナス程ノ考ハナキ如クナルモ余程重キヲ措キ居ル次第ニ付篤ト御考量アランコトヲ希望ス専外務大臣ノ口氣ニ依レハ露国政府ニ於テハ日本政府ハ何故今ヨリ支那ニ於ケル独逸ノ經濟上ノ勢力ヲ驅逐スルコトニ同意セラレサルヤ甚々了解ニ苦ミ居ル様子ナリ右不敢敢申進ス

一〇二 二月二十七日 在露國本野大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露両國間ニ同盟案約締結中ノ趣英國政府へ内告ノ必要アルベキ旨稟申ノ件

第一三九号

往電第一三八号会談ノ際外務大臣ハ本件交渉ハ日露両國間ニ進行中ナル旨英仏大使ニ洩ラシタル趣内話アリタルニ付尠クモ英國政府ヘハ事件ノ成行ヲ内告スルノ必要アリト信セラル尚二月二十四日東京日日新聞ハ日露同盟案約締結談判進行中ナル旨記載シタル趣ノ新聞電報当地ニ達シタルモ其公表方差止メ居ル旨外務大臣ヨリ内話アリタルニ付右御含置アリタシ

クナルモ余程重キヲ措キ居ル次第ニ付篤ト御考量アランコトヲ希望ス専外務大臣ノ口氣ニ依レハ露国政府ニ於テハ日本政府ハ何故今ヨリ支那ニ於ケル独逸ノ經濟上ノ勢力ヲ驅逐スルコトニ回答ニ付日本側ノ見地ヲ打明ケ外相ニ説明方訓令ノ件

第一三二号（極秘）

貴電第一三三号及第一三八号閱悉貴電第一〇五号ニヨレハ二月十八日ニハ露国外務大臣ハ貴官ニ対シ帝国政府ノ提議ヲ穩當ナルモノトナシ同大臣一己ノ考ニテハ露国政府ハ日本政府ノ提議ニ応シ得ヘシト述ヘタル趣ナル処同月廿五日ニ至リ同大臣ガ右ト頗ル趣ヲ異ニセル回答ヲ為シタルハ本大臣聊カ失望ヲ禁スル能ハサル所ナリ貴電ニ依レハ露国政府ハ支那引入ノ固題ヲ提起シ且ツ兵器ノ供給ハ同盟ニ伴フ日本ノ義務ナルカ如ク露国政府ニ於テ思惟シ居ルモノト思ハルル処元來支那引入問題ニ対スル帝国政府ノ意嚮ハ已ニ客年十一月中関係国政府ニ申入レタル通ニシテ爾來帝国政府ノ所見ハ麥セアルノミナラス支那ノ国情ハ御承知ノ通り漸次不穏ノ有様ニ傾キ今日ニテハ同國ヲ聯合軍側ニ參加セシムルガ如キコトハ益々行ハレ難キ義ナリ次ニ兵器供給問題ニ付テハ帝国力露国ニ対シ出来得ル限りノ供給ヲ努ムルハ決シテ同盟ニ伴フ義務ヲ認ムル次第ニアラスシテ全ク露国ニ対スル交誼ニ基クモノナリ以上ノ事情ハ露国外務大臣ニ於テ雑ト承知シ置カレシコトヲ切望スルニ付貴官ハ同大臣ニ対シ右打明ケテ説明セラレタシ

一〇四 三月七日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

中國ノ大戰引入問題兵器供給問題ニ付日本政府ノ立場ヲ露外相へ説明ノ件

第一七〇号

貴電第一三二号ノ件ニ關シ三月六日外務大臣ト会談ノ要領左ノ通

一、支那引入問題ニ対シテハ外務大臣ハ再三其持論ヲ繰返シ帝国政府ノ不同意ニ対シ遺憾且失望ノ意ヲ洩ラシタルニ付本大使ハ之ニ対シ本問題ニ關シテハ曩ニ再三開陳セル如ク帝国政府ノ方針ハニニ確定シ三国政府ニモ通告シタル通ニシテ今更之ヲ変更シ得ルノ地位ニアラス露国政府ノ主張ノ當否ハ暫ク措キ若シ本問題ヲ以テ同盟案約締結ノ先決問題トナスニ於テハ本使ノ私見ニ依レハ同盟案約締結ヲ妨害スルモノナリト信セラル然ルニ条約問題ハ事日露両國ノ永久的利害ニ關聯スルモノニシテ支那引入ノ如キ枝葉ノ問題ヲ以テ之ニ害ヲ來スコトハ双方ノ不利益ナルヘシ故ニ同盟問題ハ全然支那引入問題ト区別シ其交渉ヲ進ムララ得策トスヘシトノ趣意ヲ懇ニ説明シタル

ニ同大臣モ此際支那引入問題ハ同盟条約談判ヨリ分離ス
ルコトニ同意セリ但シ同大臣ハ尚頻リニ独逸ノ經濟的勢

力ヲ支那ヨリ駆逐スルコトノ聯合国全体ノ為ニ必要ナル

ノミナラス日本ノ為ニモ頗ル有益ナルヘシトノコトヲ繰

返シ主張セラルルヲ以テ本使ハ更ニ之ニ対シ單ニ独逸ノ

經濟的勢力ヲ支那ヨリ駆逐スルノミノコトナレハ近々巴

里ニ開カルヘキ聯合諸國經濟會議ニ於テ討議スルモ敢テ

差支ナカルヘシトノ意見ヲ開陳セルニ同大臣ハ至極同感

ノ様子ニテ同會議ノ一問題トスヘキ意向ヲ示シタリ

二、兵器問題ニ付テハ外務大臣ノ説明ニ依レハ露国政府ハ

今回ノ同盟條約ノ結果トシテ新ニ日本ニ兵器供給ノ義務

ヲ負担セシムル意図臺モ之レナク唯日本政府ノ好意ニ依

リ出来得ル文供給セラルレハ満足ストノコトニテ此点ニ

付テハ更ニ懸念スルノ必要ナク松花江長春間ノ鐵道売却

ノ代價トシテ若干ノ小銃弾薬ヲ供給セラルレハ露国政府

ハ必ス満足スヘシト信ス

右ノ次第ナルヲ以テ鐵道問題ニ閲スル帝國政府ノ御意見御

確定ノ上ハ閣下ヨリ御送付ノ條約案ヲ先方ニ示シ條約其モ

ノニ付意見交換ヲ開始シテ然ルヘシト思考ス

貴電第一七〇号ニ閑シ

露国政府カ讓渡スヘキ鐵道ハ單ニ松花江長春間ニ限ルモノ

トセハ元來哈爾賓長春間鐵道ヲ以テ不自然ノ枝線ナリトス

ル帝國政府ノ見地ニ適ハス又深ク我國民ノ満足ヲ買フニ足

ラサルヘキヲ虞ル將又滿洲ニ於ケル兩國ノ鐵道ハ「ボーツ

マス」條約第七条ニ依リ全ク商工業ノ目的ニ限り經營セラ

ルモノナルカ故ニ日本ガ松花江以北ノ線路ヲ經營スルコト

トナルモ之力為兩國間ニ紛糾ヲ生スルノ虞ナキハ恰モ露國

力從來松花江長春間線路ヲ保有セルモ之力為何等國交ニ累

ヲ及ホサリシト同様ナルヘシ就テハ貴官ハ露国外務大臣

ニ以上ノ所見ヲ打明ケ本件ニ付再考ヲ求メラレタシ尤モ協

約及同盟ハ別問題ナレハ鐵道問題ノ進行如何ニ拘ハラス案

文ヲ提出セラレ差支ナシ

一〇六 三月十四日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

日露同盟協約案文ヲ露国外相ニ提出及同外相

松花江以北ノ鐵道讓渡拒否ノ件

第一八七号極秘

三月十三日外務大臣ニ面会貴電第一四七号申越ノ趣ニ從ヒ

同盟協約談判ノ基礎トシテ我案文ヲ示シタルニ同大臣ハ一

読ノ上日本政府ノ提案ハ斯クアルヘシト想像シ居タルガ事

件ノ重大ナルニ鑑ミ篤ト考量ヲ加ヘタル上自分ノ意見ヲ開

陳スヘシト云ヘリ松花江以北ノ鐵道讓渡問題ニ閑シ本使ハ

貴電第一四七号ノ趣ヲ反覆シテ帝國政府ノ立場ヲ説明シタ

ルモ外務大臣ハ第一回日露協約ヲ以テ兩國ノ勢力範囲ヲ劃

定シテ以來同協約ハ兩國親善ノ基礎ヲ為シタルモノナルニ

付同協約ノ趣旨ヲ實行シ兩國ノ關係ヲシテ益々鞏固ナラシ

ムルハ実ニ望マシキコトニシテ露國政府ガ日本ノ勢力範囲

内ニ在ル露國鐵道ノ讓渡ニ異議ナキモ亦之カ為ナリ然ルニ

今露國勢力範囲内ニ在ル鐵道ヲ日本ニ讓渡スルカ如キハ日

露協約ノ本旨ニ悖リ或ハ兩國親善ノ基礎ヲ動カスニ至ルコ

トナキヤラ處ル故ニ露國政府ハ到底松花江以北ノ鐵道讓渡

三 第四回日露協約締結関係一件 一〇六 一〇七

右御詮議ノ上何分ノ義至急御訓電アリタシ

石井外務大臣ヨリ

在露國本野大使宛（電報）

一〇五 三月十日 哈爾賓長春間鐵道讓渡方ニ付露國政府ノ再考

ヲ求ムル様訓令ノ件

第一四七号（極秘）

貴電第一七〇号ニ閑シ

露國政府カ讓渡スヘキ鐵道ハ單ニ松花江長春間ニ限ルモノ

トセハ元來哈爾賓長春間鐵道ヲ以テ不自然ノ枝線ナリトス

ル帝國政府ノ見地ニ適ハス又深ク我國民ノ満足ヲ買フニ足

ラサルヘキヲ虞ル將又滿洲ニ於ケル兩國ノ鐵道ハ「ボーツ

マス」條約第七条ニ依リ全ク商工業ノ目的ニ限り經營セラ

ルモノナルカ故ニ日本ガ松花江以北ノ線路ヲ經營スルコト

トナルモ之力為兩國間ニ紛糾ヲ生スルノ虞ナキハ恰モ露國

力從來松花江長春間線路ヲ保有セルモ之力為何等國交ニ累

ヲ及ホサリシト同様ナルヘシ就テハ貴官ハ露国外務大臣

ニ以上ノ所見ヲ打明ケ本件ニ付再考ヲ求メラレタシ尤モ協

約及同盟ハ別問題ナレハ鐵道問題ノ進行如何ニ拘ハラス案

文ヲ提出セラレ差支ナシ

ヲ肯ンスルコト能ハスト断言セリ案スルニ露國政府ハ到底

松花江以北ノ鐵道讓渡ヲ承諾セサルベシト確信スルニ付帝

國政府ニ於テハ右ヲ前提トシテ本問題ニ對シ更ニ御考量ヲ

加ヘ御詮議相成様致シタシ

一〇七 三月二十日 在露國本野大使宛（電報）

露國ガ松花江以北鐵道ノ讓渡ヲ承諾セザル代

償トシテノ新提案ニ付露国外相ト懇談スル様

償令ノ件

附記 露國ヨリ讓受クベキ鐵道ノ北端駅ニ閑スル研究

第一八〇号極秘

貴電第一八七号ニ閑シ露國政府カ哈爾賓長春間ノ鐵道ニ閑

スル帝國政府ノ提案ヲ快諾スルコト能ハサリシハ帝國政府

ノ深ク遺憾トスル処ナリ就テハ右提案ノ代リニ帝國政府ハ

改メテ露國政府ニ於テ

（一）松花江以南（即チ陶賴昭停車場以南）ノ鐵道ヲ日本ニ讓

渡スコト及

（二）松花江哈爾賓間ノ鐵道ノ管理經營全權ヲ相當条件ノ下ニ

三 第四回日露協約締結関係一件 一〇八

一三四

日本ニ委任スルコトヲ（本項請求ノ主意ハ日本ノ管理期
間内軌道ノ幅ニモ変更ヲ加ヘ乗客荷物転乗ノ不便ヲ除ク
ニ外ナラス）承諾シ且ツ

〔三〕日本船舶ノ松花江ヲ航行スルノ権利ヲ露国政府ニ於テ認
諾スルコト

ヲ希望スルニ付貴官ハ右ニ閲シ露国外務大臣ト懇談ヲ遂ケ
ラレ結果電報アリタシ尙前記松花江航行ニ閲スル件ハ一九
〇五年満洲ニ閔スル日清交渉會議ノ際一九〇六年日露通商
航海條約締結ノ際及一九一〇年第二回日露協約締結ノ際等
ニ於テ問題トナリシコトハ貴官御承知ノ通リナリ為念申添
ニ

（附
記）

露國ヨリ讓受クベキ鉄道ノ北端駅ニ閔スル研究

東清鐵道支線ノ一部ヲ露國ヨリ讓与ヲ受ケントスル場

合ニ於テ其北端ヲ何レニスヘキヤノ研究

判
決

少クモ陶賴昭トスルヲ要ス

理
由

東清鐵道支線ノ讓与ハ若シ之ヲ第二松花江以南ニ限ラルル

我有ニ帰セシメ以テ該地方ノ物資ヲ吸収シ得サルヘカラス
然レトモ避クヘカラサル事情ノ下ニ此要望ヲ達成シ得サル

トキハ少クモ吉林——伯都訥街道ト鉄道トノ交叉点陶賴昭
マテヲ便有シ第二松花江ニ依リ集中セラルヘキ貨物及ヒ同

河右岸地区ニ産出セラルヘキ物資ノ一部ヲ吸収シ得サルヘ

カラス而シテ之ト閔聯シ第二松花江ニ於ケル利權ニシテ露
國ノ有スルモノハ此際我ニ於テ之カ讓与ヲ受クルコト肝要
ナリトス

一〇八 三月二十三日 在露國本野大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露同盟協約ノ我方案文ニ對シ露国外相ノ意

見呈示ノ件

第三一八号（極秘）

住電第一八七号ニ閔シ外務大臣ハ左ノ趣旨ノ覚書ヲ本使ニ

手交セリ日露両國ハ其同盟國ノ加勢ナクシテハ独逸ト開戦
スルコト困難ナルヘシ故ニ日露同盟締結ニ付テハ現存條約
ニ基ク *système politique* 及今回戦争ヨリ生スヘキ列強
間ノ離合ヲ參酌スルヲ要ス第三國カ支那ヲ其政事的支配ノ
下ニ置カントスル野心ニ対スル件ハ露仏條約日英條約ニモ
之ヲ *casus foederis* トナシ居ラサルヲ以テ日露両國ハ其
同盟國力戦争參加ヲ承認スル場合ニ於チノミ相互ニ兵力的
援助ヲ約ス方一層安全ナルヘシ同一ノ理由ニヨリ日露條約
ノ期限ハ日英同盟協約ノ期限ト同一タラシメ日英同盟協約
ノ修正又ハ廢止ノ場合ニハ日露條約モ之ヲ修正シ得ルコト
トシタシ

日露両國カ其領土權及特殊ノ利益ヲ保護スル為相互ニ援助

スルニ當リ取ルヘキ手段ハ平和的性質ノモノタルヘキ旨公
表協約ニ明記スルトキハ諸外国ハ兵力的援助ニ閔スル協定
ノ存在ヲ知ラサルヲ以テ日露両國ニ反対スル國ヲシテ支那
ニ於ケル両國ノ利益ヲ蔑ニセシメ秘密條約ニ依リ達セント
スル目的ノ平和的遂行ニ危害ヲ及ホスヘシ故ニ公表條約中
tous les moyens pacifiques à leur disposition ノ文字
ヲ削除スルヲ可トス

一〇九 三月二十四日 在露國本野大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露公表條約文中ヨリ「平和的手段」ノ文字

削除方ノ先方提議ニ同意セラルル様上申ノ件

第二二〇（極秘）

往電第二一八号公表條約中ヨリ平和的手段ナル文字削除ノ
件ニ閔シ第一回日露協約中ニハ右ノ文句ヲ使用シタルモ第
二回協約締結ノ際ハ一步ヲ進メテ該文句ヲ削除シタル次第
ナルニ今回ノ同盟條約締結ニ当リ右ノ文句ヲ復活セシムル
ハ退歩トモ云フヘキモノナルヲ以テ帝國政府ニ於テハ右記
ヲ削除スルヲ可トス

除ニ閔スル外務大臣ノ提議ニ御同意相成然ルヘシト思考ス
尚往電第二一九号 *Chine intérieure* トハ支那本部ヲ指ス
モノナル旨外務大臣ヨリ口頭説明アリタリ

一一〇 四月六日 在露本国本野大使（ヨリ）
石井外務大臣宛（電報）

長春哈爾賓間鉄道譲受二代ルベ 千我方対案ヲ

露国外相ニ提議懇談ノ結果ニ付報告ノ件

第二六四号（極秘）

貴電第一八〇号ニ閔シ四月二日外務大臣ニ懇談ヲ遂ケ置キ
タル處五日同大臣ハ長文ノ覚書ヲ本使ニ手交シタリ其ノ要
旨ハ松花江以北ノ鉄道ノ讓与經營ヲ要求スルハ第一回第二
回日露協約ノ精神及文字ニ違背シ両國ノ友好關係ヲ害フニ
至ルヘキヲ以テ露国政府ハ到底右様要求ニ応スル能ハス又

第二回日露協約カ両國カ満洲ニ於ケル現状維持及ヒ各自ノ
勢力範囲内ニ於ケル權利ノ尊重ヲ約シタルヲ以テ松花江航行ニ
関スル露国ノ特權ハ日本ノ承認スル所ナルモ露国政府
ハ日露協約ノ主義ニ則リ日本ノ勢力範囲内ニ在ル松花江ノ
航行權ヲ放棄シ支那政府カ右航行權ヲ日本船舶ニ許可スル
コトヲ拒ム場合ニ於テ露国政府ハ支那政府ノ主張ヲ助クル

コトナカルヘシト云フニアリ右覚書ニ閔シ種々意見ヲ交換
シタルモ結局外務大臣ハ覺書ノ主張ヲ強硬ニ支持シ最後ニ
本使ノ問ニ答へ右ハ露国ノ最終讓歩ナリト云ヘルニ付帝国
政府ニ於テハ之ニ基キ小銃供給問題ヲ御考量相成リタシ卑
見ニ依レハ右以上ノ要求ヲ為ス為メニハ已ニ時機ヲ失シタ
ルモノト信ス客年露国カ小銃供給ノ代償トシテ右以上ノ讓歩
ヲナシタルヤモ計リ難ケレトモ前任陸軍大臣ノ在職中本使
ニ語リタル所ニ依レハ武器モ追々充実シ来リ二月末日ニ於
テ十三万挺ノ小銃不足ヲ見ルノミナリシトノコトナレハ小
銃供給ノ代償トシテ前頭以上ノ讓歩ヲ要求スルハ最早不可
能ト思考セラル御参考迄ニ申添フ

一一一 四月十四日 在露本国本野大使（ヨリ）
石井外務大臣宛（電報）

「日本ノ勢力範囲ノ松花江」ノ意味確メ方及
陶賴昭駅以南ノ鐵道譲渡ニ露国ハ同意セルヤ

問合ノ件

第二一五号（極秘）

貴電第二六四号所載日本ノ勢力範囲内ニ在ル松花江トハ當

方ニテハ松花江上流ヨリ秀水站ヲ経テ嫩江河口ニ至ル迄ノ
松花江ヲ指スモノト了解シ露国政府ニテモ亦同様ニ了解シ
居ルコト信スルモ御承知ノ通り明治四十年日露秘密協約
追加約款ニヨレハ秀水站ヨリ嫩江ニ至ル間ノ松花江ハ日露
両國勢力範囲ノ境界トナリ居ルヲ以テ単ニ我勢力範囲内ニ
在ル松花江ト云フノミニテハ聊カ明瞭ヲ欠ク次第ナルニ付
キ念ノ為メ此点ニ閔スル御交渉ノ経過ニ顧ミ必要アラハ更
ニ御確カメノ上電報アリタシ又鉄道問題ニ閔シ往電一八〇
号ヲ以テ松花江以南トハ陶賴昭停車場以南ナル旨申進シ置
キタル處露国政府ニテハ右ニハ同意シタル次第ナルヤ貴電
第二六四号ニテハ明ナラサルニ付其点確カナルコト承知シ
タシ陶賴昭ハ松花江以北ニ在リ吉林伯都訥街道ト鉄道トノ
交叉点ナリ御承知トハ信スルモ念ノ為申添ユ

一一一 四月十八日 石井外務大臣（ヨリ）
在露本国本野大使（電報）

日露同盟条約案ノ露国側対案ニ付スル帝国政

府ノ意見電報ノ件

第二三二号極秘

貴電第一一八号乃至第二二〇号篤ト考量ヲ加ヘタリ

三 第四回日露協約締結関係一件 一一一

露国対案中公表条約前文ニ閔シ元來帝國政府ノ意見ニテハ
今回ノ公表協約ハ全ク日露両國間ニ於ケル和衷互信ノ關係
ヲ規定スルニ止メ支那ニ閔スル政策ノ問題ノ如キハ成ルヘ
ク之ニ言及セサルヲ得策ト認メタル次第ナルカ露国外務大
臣ニ於テ其覚書ニ記述セル如ク日露同盟ノ為支那及歐米諸
國ニ惹起スヘキ疑惧ヲ鎮靜スルノ趣意ニ依リ何等カノ明文
ヲ條約前文中ニ設クルヲ適當ナリムゼハ reconnaissent
to be entirely uninfluenced by any aggressive tendencies
in such regions (第一回日英同盟協約第一条参照)
ナル趣意ニ修正スルコトトシタシ (日露両國カ支那ノ独立
ヲ尊重スルノ主義ヲ承認スルコトハ既ニ千九百七年ノ公表
協約第二条ニ明文アリ)

次ニ協約本文第三条ニ於テ日露両國カ各自ノ領土權及特殊
利益ヲ防護スルノ問題ニ閔シ第三國ト協定セムトスルニ當
リ予メ両國間ニ知照スルコトヲ要スルモノト定ムルハ事實
上不必要ニシテ又特殊利益範囲劃定ノ趣旨ニモ適應セサル
コト、思考スルニ付本條ヲ削除スルコトトシタシ秘密協約
第一条规定于 *Ce qui ne manquerait pas à la de ce*

pays 迄ノ一句ハ其ノ前ノ一句ノ説明ニシテ特ニ必要ノ条文ニハ非ザルヘシ且英國ノ如キハ其ノ現ニ支那ノ關稅行政組織ニ閥シテ有スル地位ハ固ヨリ domination prépondéranteト称スヘキモノニ非ザルモ或ハ situation prépondéranteトモ解セラルヘク勿論英國ハ日露兩國ニ對シ所謂侵略的傾向ヲ有スルモノニ非ルカ故ニ本條文ノ場合ニ該當セサルハ云フヲ俟タスト雖前述ノ如ク別段ノ必要ナキ限り此ノ煩雜ナル説明的規定ハ之ヲ削除スルコトシタシ

第五条ノ目的ハ日露兩國互ニ他ノ一方ノ権利利益ニ消長ヲ來スガ如キ條約ヲ第三國ト締結セサルヲ保障スルニ在ルヘシト雖モ第三國トノ條約締結前一々兩國間ニ協議ノ成立ヲ要スルコトトナスハ事實上煩雜ニシテ為ニ機宜ヲ失スルコトモアルヘク又本條ノ適用上之ニ該当スヘキ條約ノ範囲ニ付幾多疑義ノ生スルヲ免レサルヘシ要スルニ本件ノ如キハ之ヲ條約上ノ義務トスルヨリハ寧ロ兩國相互ノ善意ニ信賴シ具体的問題ノ生スル毎ニ各自ノ判断ニ依リ予メ兩國ノ協議ニ附スルト否トヲ決スルコトシテ實際ニ差支ナカルヘシト思考スルニ付帝國政府ハ本條ノ削除ヲ希望ス

秘密協約第六条ハ明文ノ有無ニ拘ラス現存各秘密協約ノ繼

鉄道ノ北端ニ付回報ノ件

第三一〇号（極秘）

貴電第二一五号ニ閥シ帝國政府ニ於テハ我勢力範囲内ニアル松花江トハ嫩江河口迄ト諒解シ居ル旨外務大臣ニ申入レタル処同大臣ハ秀水站迄ト解シ居ル旨答ヘタルニ付本使ハ右ニテハ我方ノ松花江航行権ナルモノハ有名無実ニ終ルヘキニ付本使モ当然帝國政府ノ解釈ノ通り諒解シ居タル旨主張シタルニ同大臣ハ熟考ノ上確答スヘシトノコトナリシカ四月十八日附覚書ヲ以テ秀水站以上ニ付テハ露國ハ航行権ヲ放棄シ同地ヨリ嫩江河口迄ノ間ニ付テハ露國船舶ノ航行権ヲ保持スルト同時ニ日本船舶ノ航行権取得ニ反対セサルヘキ旨回答シ来レリ鐵道問題ニ付テハ露國政府ハ初メヨリ我勢力範囲内ニ在ル部分即チ松花江迄ノ讓渡ヲ承認シ居ル儀ニ付右様御承知相成リタシ尙ホ鐵橋ニ閥シテハ後日ノ協議ニ讓ルノ外ナカルヘシ

一一四 四月二十二日 石井外務大臣ヨリ
在露國本野大使宛（電報）

東支鐵道讓渡ノ終端停車場ヲ陶賴昭トスルコ

トニ露國政府ノ承諾ヲ得ル様極力配慮方訓令

三 第四回日露協約締結関係一件 一一四 一二五

ノ件

第二四〇号（極秘）

貴電第三一〇号ニ閥シ松花江通航ノ件ハ露国外務大臣最近ノ回答通りニテ異議ナシ鐵道ニ閥シ我終端停車場ハ是非共陶賴昭トセサル可ラサル軍事上必要（勿論貴官限御含迄）アリトノコトニテ此点ニ閥シ露國政府ノ承諾ヲ得バ我陸軍ニ於テハ松花江以北線路ノ希望ヲ断念シテ猶且哈爾賓迄線路ノ讓与ニ對シ予定シタル武器ノ全額ヲ供給スル覺悟ヲ有スル次第ニ付今一応陶賴昭ヲ終点トナスノ件露國政府ノ承諾ヲ得ル様極力御配慮アリタシ

一一三 四月十九日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

「日本ノ勢力範囲内ノ松花江」ノ意味ニ閥シ
露國側ト打合ノ結果及露國方讓渡セントスル

以上諸点ヲ除クノ外露國政府ノ対案各条ハ帝國政府ニ於テ異議ナキニ付右ノ趣旨ヲ以テ露國外務大臣ト商議ヲ繼續セラレトモ此点ハ右第六条ノ明文ヲ設クル上ハ其ノ除外例トシテ規定シ置キタシ

統スヘキコトニ付何等誤解ヲ生スルノ虞ナカルヘク從テ特ニ此明文ヲ設クルノ必要ナキコトト思考スルモ露國外務大臣ニ於テ強テ之ヲ主張スルトキハ貴官ニ於テ同意ヲ表セラレ差支ナシ尤モ鐵道讓与問題協定ヲ了ルニ至ラハ千九百七年ノ秘密協約第一條末項ハ當然消滅スヘキコト自明ノ理ナレトモ此点ハ右第六条ノ明文ヲ設クル上ハ其ノ除外例トシテ規定シ置キタシ

（欄外註記）

「四月十五日大隈首相四月十六日大山公ニ自分石井大臣ヨリ、
松方侯ニハ幣原次官ヨリ鐵道武器問題ト併セテ説明スミ、
山縣公ヘノ説明方ハ田中參謀次長ニ依頼スミ、
四月十七日上奏」

第三三四号（極秘）

一一五 四月二十四日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

露國ガ東支鐵道陶賴昭駅迄ノ讓渡ヲ諾セサレ
バ武器供給ヲ謝絶スルヤ問合ノ件

貴電第二四〇号鐵道ノ件ニ閥シ我最端停車場ヲ陶賴昭トスルコトノ軍事上得策ナルコトハ本官ニ於テモ十分ニ了解スル所ニシテ出来得ヘクンハ我希望ヲ達シタキコトナレトモ之ニ付テ露國政府ノ方ニモ意見ノ存スル所ニシテ之レ迄再

三交渉ヲ重ねタルニ拘ラス我主張ヲ貫徹シ得サリシ次第ナルハ閣下モ御承知ノ上ナルヲ以テ此上前言ヲ繰返スノミニテハ露国政府ノ承諾ヲ得ル見込ナシ就テハ露国政府ニ於テ陶賴昭迄ヲ讓ルニアラサレハ帝国政府ハ予定ノ武器全部ヲ供給スルコトヲ謝絶スルノ意ナラハ本官ハ其ノ趣旨ヲ体シ強硬ノ談判ヲ試ムヘキニ付本官ノ含迄ニ此点ニ閑シ至急御訓示アリタシ但シ卑見ニ依レハ本問題ハ松花江迄トシテモ此際之ヲ決定スルニアラサレハ将来ニ於テハ其解決甚タ困難ナルヘシト思料セラルニ付右御含ノ上速ニ御決定アラ

ノコトヲ請フ
~~~~~  
一一六 四月二十七日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)  
英國外相ヘ内聞ノ必要上日露間ノ同盟協約交  
渉成行承知シタキ件

第一七六号 (極秘)

貴電第一三九号ニ閑シ「グレー」氏ヨリ回答ノ次第本使心得迄御内示相仰タシ尚伊集院大使ヨリ内聞スルニ露国政府ヨリ又々日露同盟及軍需品供給拡張ノ提議アリ東清鉄道南部線讓与ノ件ト共ニ日下日露政府間ニ商議進行中トノコト

ナルガ日露同盟乃至日露間ノ政治上ノ関係ニ更ニ一步ヲ進ムル底ノ商議ニ閑シテハ昨年来ノ行懸モアリ一応英国外務大臣ヘ内聞ニ入レ置クノ要アルノミナラズ本使心得ノ為ニモ承知シ置キタキニ付成行御内電相顧タシ

一一七 四月二十九日 石井外務大臣ヨリ

在露國本野大使宛 (電報)

露國トノ同盟協約交渉ハ成否ノ見込立タザル  
旨在英大使ヘ転電方訓令ノ件

第三五〇号  
在英大使ヘ転電アリタシ

第一六二号 (極秘)

貴電第一七六号ニ閑シ在本邦英國大使ヨリ「グレー」氏回答ノ次第ニツキ何等申出ナシ其内催促ヲ試ムル積リナリ貴電後段ノ件ニ閑シテハ露國トノ交渉進行シ居ルハ事実ナルモ未タ成否ノ見込モ確ナラズ何レ適當ノ時機ニ至ラハ直ニ貴聞ニ達スヘシ本件ニ閑シ極メテ概括ノ談ハ在本邦英國大使ニ為シ置キタルニ付キ「グレー」氏ニ於テ承知ノ筈ナリ

一一八 四月三十日 在露國本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)

日露同盟協約案文ニ閑シ露国外相ト数回協議  
ノ結果ヲ電報シ請訓ノ件

第三五六号

貴電第二三二号ニ閑シ御来示ノ趣覚書ニ認メ外務大臣ニ手交シ十分説明ヲ加ヘ置キ其ノ後數回会見協議ノ結果左ノ通り折合ヒタルニ付御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

(一)公表協約前文 reconnaissent 以テ prépondérante et迄

ヲ削除シ別ニ文句ヲ加ヘス

丁同第三条削除

三)秘密協約第一条 ce qui 云々 ce pays 遊離途

ayant des vues agressives contre la Russie ou le Japon と hostile à la Russie ou au Japon と改メ le développement 云々 que une pareille situation se produise と改メハリ

(四)第五条削除 付テハ本使ハ極力我主張ヲ固持シタルヤ外務大臣ハ打明ケテ申サバ日本國ガ支那ニ於テ situation prépondérante ヲ有スルコトハ露国政府ノ認ムル所ニシテ殊ニ福建山東等ニ付テハ露国ハ毫モ利害関係ヲ有セサルハ村々ニ閑シ日本國カ如何ナル協約ヲ結ハルトモ露

ナルガ日露同盟乃至日露間ノ政治上ノ関係ニ更ニ一步ヲ進ムル底ノ商議ニ閑シテハ昨年来ノ行懸モアリ一応英国外務大臣ヘ内聞ニ入レ置クノ要アルノミナラズ本使心得ノ為ニモ承知シ置キタキニ付成行御内電相顧タシ

Les régions désignées par le terme Chine Centrale seraient celles qui sont situées entre la Grande Muraille au nord et le Yang-tsé-Kiang au sud, Province du Chantoung ne serait pas comprise dans ce terme.

卑見ニ依レハ支那中央政府ニ関係スル限り露國ニ協議スルコトナクシテ何等政事的協約ヲ締結スルコトハ甚タ困難ナルヘク又新疆等ニ付露國ガ政事協約ヲ締結スル場合ニ予メ之ヲ帝国政府ニ通知セシムルハ益アリテ害ナキコトニ付帝国政府ハ露國政府ノ提議ヲ承諾セラレ差支ナカルベント思考ス

(五)第六条ヲ存スルトキハ之ニ依リ両国対支政策ノ根本ヲ明確ナラシメ得ヘキヲ以テ露國政府ハ本条ヲ保存シタキモ

協約前文中ニ於テ現存秘密協約ニ言及スルニ於テハ同条ヲ削除スルモ可ナリトノ外務大臣ノ意見ニ付本条ハ前文ヲ

(註)此ノ所逸失)

トナスコトヲ望ミタルニ外務大臣ハ之ニ同意シタリ

鉄道問題決定ノ暁一九〇七年秘密協約第一条末項消滅ノ件ハ條約中ニ記入スルノ必要ナカルヘキモ強テ何等ノ形式ニテ之ヲ表示スルヲ要セラルル義ナラハ公文書交換ニテ足ルモノト思考ス

右ニ関シ帝国政府ニ於テ御異存ナクハ成ルヘク速ニ調印ヲ了シタキモ右調印前鉄道問題ヲ解決シ置クコト得策ト信ス

一一九 五月一日 石井外務大臣ヨリ  
在露本国本野大使宛 (電報)

露國ヨリ譲受クベキ東支鐵道南部線ノ北端駅

ヲ陶賴昭トスル様重ネテ交渉方訓令ノ件

第二五二号 (極秘)

我終端停車場ヲ陶賴昭トスル件ニ付更ニ交渉ヲ重ヌル余地ナシトハ貴電三三五号ニテ始メテ承知シタルトコロナリ然ルニ露國ノ承諾ヲ得タル鐵道讓与ハ我申出ニ係ル線路ノ二分一ニモ遙ニ達セサルニ拘ハラス我方ヨリハ当初覺悟シタル兵器ノ全部ヲ供給セントスル意志ヲ先方ニ言明シテ重ネテ陶賴昭ヲ終端停車場トスル交渉ヲ為スノ余地ナシトハ本大臣ノ了解シ能ハサルトコロナルモノハ兎ニ角松花江以南ノ鐵道ヲ讓受クル上ハ何レニカ終端停車場ヲ設ケサルヘカラス而モ同停車場ハ日露鐵道系ノ接続地トシテ将来繁華ナル都會トナルヘキ運命ヲ有スルモノナルカ故ニ停車場敷地

ノ為ノミナラス右都會發展地トシテ少カラサル地面ヲ予定シ置ク必要アル處松花江左岸即我方ニ在リテハ地勢山脈ヲナシ右ノ目的ニ適応スル地点ヲ見出スニ困難ナリトノ事ナリ右岸ハ反之沼地若干ヲ經テ直チニ陶賴昭ニ達スルカ故ニ陶賴昭ハ殆唯一ノ適好ノ地点ト称スルヲ得ヘシ況シヤ維納ヨリ發スル壞國鐵道柏林ヨリ發スル独逸鐵道カ「ワルソウ」ヲ終点トスルカ如ク鐵道停車場ハ左マテ領土権若クハ勢力範囲ト離ル可カラサル關係ヲ有スルモノニアラス此等ノ理由アルニ依リ我方ハ依然陶賴昭ニ終端停車場ヲ設ケタキ希望ナルニ付貴官ハ以上ノ理由ヲモ新ニ説明セラレ重ネテ露國政府ノ熟考ヲ求メ尚露國政府ニシテ之ニ応スルコト能ハストセハ露國共同最終停車場トシテ如何ナル地点ヲ提議スル積ナリヤ問ヒ結果電報アリタシ

尚四月二日附貴電覚書ノ回答タル四月五日露國覚書ニヨレハ松花江以北ニ闊スル我鐵道讓与ノ希望ニ對シ露國政府ハ帝国政府ニ於テ日露協約ノ文字精神ト相容レサル要求ヲ敢テスルモノト思考スル如クニ見ユル處本件ニ付テハ当初ヨリ詳細説明セシ如ク帝国政府ハ昨年八月以来全力ヲ挙ケ露國ノ希望ニ応シ武器供給ニ努メ未タ嘗テ之ニ對シ何等要求

カマンキコトヲ申出テサリンニ却テ先方ヨリ或ハ露國ハ帝國ノ好意ニ對シ報償ヲ吝ムモノニ非スト繰返シ或ハ鐵道ニ関シ若ハ樺太北部ニ闊シ暗示又ハ明示セラレタル次第アルニ付帝國政府ハ此上一層露國ニ武器ヲ供給シ得ルノ手段トシテ鐵道讓与ノ問題ヲ案出セルモノニシテ言ハハ先方ノ勸誘ニ從テ申出ヲナシタル次第ナレハ此行懸リニツキ先方ノ誤解ヲ除去スルタメ本大臣ヨリ昨日東京出発帰國ノ「マレヴィチ」氏ニ説明シ置キタルモ尚貴官ヨリモ露國外務大臣へ充分説明セラレタシ

第一六九号 (極秘)

石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛 (電報)

一二〇 五月四日  
對露武器供給、東支鐵道南部線讓渡及同盟協約ニ關スル日露交涉ノ經緯内報ノ件

本年一月ミカエロウイツチ太公ノ我帝室訪問ヲ機トシ露國外務大臣カ一行中ノ極東局長「コザコフ」氏ヲ通シ本大臣ニ申出タル所ニヨレハ露國ハ軍需品供給ニ闊シ帝國政府ガ尽セル好意ヲ認識シ尚我ニ於テ露國ノ必要トスル武器若干讓渡ヲ諾セハ露國ハ東清鐵道枝線ヲ我ニ割譲スルノ底意ア

ルニ付往電第三三五号ニ闊シ至急帝國政府ノ御意向御回示相成タシ尤協約調印前ニ鐵道讓渡ニ闊スル細目ヲ議了スルコト困難ナリトセハ少クトモ讓渡条件ノ大綱ヲ定ムルヲ要スト信ス

ルモノノ如ク又露国ハ独逸カ土耳其古波斯ヨリ支那ニ亘ル一

帶ニ手ヲ伸ハシ以テ露国ノ咽喉ヲ扼セントスルノ計画ヲ有スルコトヲ推知シ危惧ノ念ヲ抱ケルモノノ如クナリシヲ以テ帝国政府ハ右両点ヲ基礎トシ日露両国接近ニ関スル露国

政府已往ノ提言ニ顧ミ露国ニシテ長春哈爾賓間ノ鉄道ヲ相当代償ヲ以テ帝国ニ譲渡スノ好意ヲ示スニ於テハ帝国政府モ亦武器供給問題ニ関シ国防上ノ難キヲ忍フモ尚且若干程度迄先方ノ希望ニ応スヘキコトニ決定シ同時ニ日露両国ノ

政策問題ニ関シテハ公表協約及秘密協約締結ヲ提議スルコトニ決定シ去ル二月以来本野大使ヲシテ露国政府ト交渉ヲ

重ネシメツツアリ公表協約ノ主要ナル条項ハ締約国一方ハ他ノ一方ニ対抗スルノ目的ヲ有スル何等政治上ノ協定又ハ

聯合ノ当事国トナラサルコト及締約國ノ一方他ノ一方ノ承認ヲ得タル極東ニ於ケル自國ノ領土権又ハ特殊利益カ侵犯セラレタル場合ニハ日露両国ハ其権利及利益ヲ擁護防衛セムカ為相互ノ援助又ハ協力ヲ目的トシテ執ルヘキ措置ニ関シ双方協議スヘキコト是ナリ又秘密協約ノ条項中主タルモノハ両締盟國ハ支那國ガ日本又ハ露国ニ敵対スル第三國ノ(political domination)ニ帰セサルコトヲ必要ナリト認

英國大使宛覺書及往電第三七二号ノ三「グレー」氏ニ対スル本使ノ談話)ニ鑑ミ今回ノ對露交渉ハ我態度ノ変更ト見ラルヘキヤニ存セラル處其辺ニ付テハ英國側ヲシテ我真意ニ誤解フ懷カセサル様致スノ要アルヘク將又御来示ノ秘密条項モ日英同盟條約ト頗ル機微ノ接觸アル様存セラルルニ付テハ自然「グレー」氏ヨリ何等話出テタル場合応答振り上心得置度ニ付何分ノ義御電訓ヲ請フ

一一一 五月十日

石井外務大臣ヨリ  
在露本国本野大使宛 (電報)

日本ガ中國ニ於ケル露国ノ權益ヲ毀傷スル協約ヲ第三國ト締結セザルハ勿論ニ付露国対案

中秘密協約第五条ノ削除ヲ飽ク迄主張スル様訓令ノ件

第二七九号 (極秘)

貴電第三五六号ニ関シ

露国外務大臣ハ秘密協約第五条ノ存置ヲ主張シ其ノ理由トシテ中部支那及露国國境ニ近キ地方ニ関シ露国政府ノ知ラサル間ニ政事的協約ノ締結セラルルカ如キハ忍フ能ハサル所ナル旨ヲ説明セル趣ノ処

三 第四回日露協約締結関係一件 一一二

メ右事態ノ発生ヲ防止セムカ為メ執ルヘキ措置ニ付双方協議スヘキコト及双方合意ノ上ニテ執リタル前記措置ノ結果締盟國ノ一方ト前記第三國トノ間ニ宣戰アリタル場合ニハ締盟國ノ他ノ一方ハ請求ニ基キ右締盟國ニ援助ヲ与フルコトナリ協約条項ハ何レモ確定スルニ至ラサルノミナラス協約締結ノ成否サヘ未定ナリ又讓渡問題ハ松花江以南ノ部分ハ露国ニ於テ同意ヲ表セリ

以上貴官極内密ノ御含迄  
在仏大使ヘ郵報セヨ

一一一 五月五日

在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)

日露同盟協約交渉ニ付英國側ヘノ説明振ニ閔

シ問合ノ件

第一九四号

貴電第一六九号接到セリ貴電第一六二号末段英國大使ニ御談話ノ内容並ニ右ニ對シ英國外務大臣ヨリ何等應答ノ次第本使心得迄御電示相仰キ度シ尚日露接近ノ問題ハ帝国政府ニ於テ特ニ詮議シ居ラス我方ノ意見ハ依然当初ノ通りナリトノ昨年七月末英國政府側ニ言明 (同月二十八日附在本邦

第一 何等露国ノ権利又ハ利益ニ消長ヲ來スノ虞ナキ協約ト雖モ露国政府ニ於テ一々之ヲ点検シ其同意ヲ經ヘキコトトナスハ明ニ不必要ニシテ又露国政府ノ本意ニモ非ルヘシト信ス唯露国外務大臣ハ日本カ直接間接ニ露國ノ権利利益ヲ毀傷スルノ結果ヲ毀フヘキ協約ヲ第三國ト締結スルコトアルヘキヲ危懼スルモノノ如ク察セラルモ帝國政府ハ其ノ同盟國ヲ犠牲トシテ自國利益ノ増進ヲ図ルカ如キ背信ノ行為ナカルヘキハ勿論如何ナル協約ヲ締結スルニ付テモ同盟國ノ正当ナル権利利益ニ及ホス結果ニ對シ注意ヲ怠ルカ如キコトナカルヘキハ露国政府ニ於テ十分信賴セラレ可然ト思考ス

第二 今回ノ秘密協約案ハ曩ニ露国外務大臣ニ於テ支那カ独逸ノ政事的権威ニ服スルニ至ルヘキコトヲ顧慮シ「コザコフ」ヲ経テ此所見ヲ本大臣ニ通シタルニ基クモノニシテ帝國政府カ本協約ヲ提議セル目的モ亦全ク右露国外務大臣ノ所見ニ重キヲ指キ支那ニ於ケル前記事態ノ發生ヲ共同防止セムカ為ニ外ナラス此目的ニ關係ナキ事項ニ付両国相互ノ行動ヲ禦束セムトスルハ本来ノ趣旨ニ副ハス帝國政府ハ從來ノ同盟及協定ニ反シテ野心ヲ抱クカ如キコトモ毫モ無

三 第四回日露協約締結関係一件 一一三 一二四

一四六

之ハ勿論ナルト同時ニ現下ノ時局ニ際シ好ンデ斯ル自縛的  
協定ヲ結フ能ハス

貴官ハ以上ノ趣旨ヲ露国外務大臣ニ繰返シ飽ク迄本条ノ削  
除ヲ主張セラレタシ

一二三 五月十一日 石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛（電報）

日露同盟協約交渉ニ付テハ在本邦英國大使ニ

説明シアル旨通報ノ件

第一八三号（極秘）

貴電第一九四号ニ閲シ

本大臣カ英國大使ニ内話セル所ハ往電第一六九号ヨリ一層  
簡単ナリ但シ英國政府ヲシテ我真意ニ誤解ヲ抱カシムル余  
地ハ残ササリシ積リナルノミナラス本件進行シテ成立ノ見  
込ミ付クニ至ラハ更ニ内話スヘシト約セル次第アルニ付キ  
英国外相ヨリ進シテ貴官ニ話シ出ルコトナカルヘシト考フ  
ルモ万ー左スルコトアラハ本大臣ニ取次カレタシ

註 往電第一六九号前出（一二〇文書）

一二四 五月十二日 在露國本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

露国政府ハ勢力範囲分界線ヲ以テ鐵道讓渡ノ標準ト為シ居  
ルコト累次ノ拙電中ニ申進シタル通リナルヲ以テ往電第三  
三五号ノ通請訓ニ及ヒタル次第ナルガ貴電第二五二号ヲ以  
テ更ニ御訓令ノ次第有之タルニ付本使ハ直接ニ外務大臣ニ  
間接ニ新任在日本露大使ニ交渉シ大ニ尽力シタルモ遂ニ我  
希望ヲ達スルヲ得サリシハ甚ダ遺憾ナリ外務大臣ノ言ニ依  
レハ松花江以南ノ鐵道ヲ讓ルコトニ対シテモ既ニ主務者ニ  
於テ反対アリシモ政事上ノ理由ニ依リ是非トモ之ヲ日本ニ  
讓ル必要アリトテ右反対ヲ抑ヘタル次第ナルガ陶賴昭迄ヲ  
讓渡スルニ於テハ松花江以北ノ鐵道ハ全然經濟上ノ価値ヲ  
失フコトヲ理由トシテ大藏省及東支鐵道ハ強硬ニ反対スル  
ヲ以テ露国政府ハ到底日本政府ノ希望ニ応スル能ハストノ  
コトニ付本使ハ然ラハ江北ハ之ヲ露国ノ所有トシ只南滿洲  
鐵道ノ列車ヲシテ陶賴昭ニ到ラシメ以テ両國鐵道ノ連絡地

トスルコト致シテハ如何トテ貴電第二五二号所載地勢ノ  
關係ヲ述ヘタルニ同大臣ハ其ノ場合ニ於テモ經濟上ノ理由  
ニ基ク主務省ノ反対ハ依然トシテ強硬ナルヘキモ兎モ角尚  
篤ト熟考スヘシト云ヘリ但シ同大臣ノ口氣ヨリ察スルニ主  
務省及東支鐵道ノ反対ヲ打破スルコトハ頗ル困難ナルカ如  
シ尚御電訓ニ從ヒ露国政府ニ於テ帝国政府ノ希望ヲ容レサ  
ル場合ニハ何レノ地点ヲ以テ連絡地トスル考ナルヤヲ質シ

タルニ日本勢力範囲内ニ於ケル最近駅ヲ両國鐵道連絡地ト  
為シシタント云ヘルニ付本使ハ右ハ帝國政府ニ於テ到底応ス  
ル能ハサル所ナルヘキヲ以テ鐵道所有權ハ露國ニ保存スル  
トスルモ其使用權丈ヶハ是非トモ陶賴昭迄之ヲ日本ニ許与

スル様御尽力アリタシト要求シ置ケリ（維也納「ワルソ  
ー」間、柏林「ワルソー」間鐵道ハ露國領土内ニ於テハ何  
レモ露國政府ノ所有ニ屬シ只独塊列車ノ運転ヲ許可シ居ル  
ニ過キサルモ露國ハ其ノ不利ヲ悟リ右許可ヲ撤回セントシ  
ツツアリシ際今回ノ戰争トナリタル越ナリ）卑見ニ依レハ

鐵道連絡ニ關スル問題ノ討論ノ為徒ラニ時日ヲ消費スルヨ  
リバ寧ロスル技術的問題ノ協定ハ特別委員ヲ命シ之ニ一任  
スルコトトシ此際速ニ松花江以南ノ鐵道讓渡ニ關スル取  
除ヲ主張セラレタシ

露國ヨリ讓受クベキ鐵道ノ北端駅ヲ陶賴昭ト  
スル様露國外相ニ交渉シタルモ奏功セザル旨  
報告及鐵道連絡問題ヲ特別委員ニ一任シ鐵道  
讓渡ヲ速ニ協定スル様意見稟申ノ件

第四〇七号

石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛（電報）

日露同盟協約交渉ニ付テハ在本邦英國大使ニ

説明シアル旨通報ノ件

第一八三号（極秘）

貴電第一九四号ニ閲シ

本大臣カ英國大使ニ内話セル所ハ往電第一六九号ヨリ一層  
簡単ナリ但シ英國政府ヲシテ我真意ニ誤解ヲ抱カシムル余  
地ハ残ササリシ積リナルノミナラス本件進行シテ成立ノ見  
込ミ付クニ至ラハ更ニ内話スヘシト約セル次第アルニ付キ  
英国外相ヨリ進シテ貴官ニ話シ出ルコトナカルヘシト考フ  
ルモ万ー左スルコトアラハ本大臣ニ取次カレタシ

註 往電第一六九号前出（一二〇文書）

一二四 五月十二日 在露國本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

ヲ了スル方得策ト信セラル篤ト御考量ノ上何分ノ義御電訓  
ヲ請フ

一二五 五月十四日 在露國本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

日露秘密協約案第五条ノ修正案ヲ露國外相ヨ  
リ提出ノ件

第四一五号（極秘）

貴電第二七九号ニ閲シ五月十一日外務大臣ニ面会シ同電ノ  
仏訳ヲ手交シ極力第五条ノ削除ヲ主張シタル處同大臣ハ帝  
國カ其同盟國ヲ犠牲トシテ自國ノ利益ヲ計ルカ如キコトナ  
カルヘキコト並ニ如何ナル協約ヲ締結スルニ付テモ同盟國  
ノ正当ナル權利利益ニ及ホスヘキ結果ニ対シ注意ヲ怠ラサ  
ルヘキコトヲ声明セラレタルハ露國政府ノ満足スル所ナリ  
就テハ右ノ趣旨ヲ第五条トシテ協約中ニ記載シタシト云ヘ  
ルニ付本使ハ其点ハ帝國政府ノ誠意ニ信賴シ然ルヘキ旨再  
三繰返シ其不必要ヲ主張シタルモ同大臣ハ同僚中ニハ此点  
ニ閑シ懸念シ居ルモノモアルニ付何等カノ形ニ於テ右ノ趣  
旨ヲ表示シ置キタシ兎ニ角熟考ノ時ヲ与ヘラレタシトノコ  
トナリシカ五月十三日同大臣ハ本使ノ來訪ヲ求メ前日ノ所

見ヲ認メタル後第五条ヲ左ノ通り提議シタル覚書ヲ本使ニ手交シタリ

En faisant un traité, une convention ou un arrangement quelconque avec une tierce puissance ayant trait à la Chine Centrale, chacune des Parties Contractantes veillera aux conséquences qu'un pareil accord pourra avoir pour les droits et intérêts de l'autre Partie Contractante

「サンハハ」此へ右提議ヲ為スニ方リ露国政府ハ日本以外ノ政府ト同盟条約ヲ締結スル場合ニハ本案ノ如キ条文ニ於テハ安心スルコトヲ得サルモ日本國政府ノ誠意ニハ全然信用ヲ置クニ付本条文丈ニテ満足スヘキニ付是レ丈ハ是非共日本國政府ニ於テ承諾セラルル様致シタシト附言シタリ按スルニ右提議ハ毫モ帝國政府ノ自由行動ヲ束縛スルノ虞ナクシテ露国政府ニ十分満足ヲ与フルコトニ付強テ御異存ナケレハ右提議ヲ容レテ本件ヲ纏ムル様致シタシ何分ノ義御電訓ヲ請フ

一一六 五月十五日

石井外務大臣ヨリ  
在露国本野大使宛 (電報)

ヲ両國鉄道ノ連絡地トナス案ニ付スル露国外相ノ回答ヲ待チ回訓スヘキ旨電報ノ件

第二九六号 (極秘)

貴電第四〇七号ニヨレハ南滿鉄道ノ列車ヲシテ陶賴昭ニ到ランメ同地ヲ兩鉄道ノ連絡地トスヘントノ貴案ニ付シ露国外務大臣ハ篤ト熟考スヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナルニ付テハ同大臣熟考ノ結果ヲ承知シ得ルモ遠カラサルヘキコトト存スルニ付ソレニ先タチ而モ貴官段々ノ御尽力ニ依リ本件殆ント纏マラントスル迄ニ進ミタル今日貴電末段御申出ノ特別委員ニ一任スルノ案ヲ提議スルニモ及ブマジク從テ右外務大臣ノ回答ヲ承知シタル上ニテ貴電ニ付シ回訓スヘキニ付右ニ御承知アリタシ

一一七 五月二十五日

在露国本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)

松花江長春間鐵道讓与ニ關シ上奏裁可ヲ仰ク  
必要アルニ付暫時猶予アリタキ旨露外相ヨリ  
請フ

## 申出ノ件

第四五三号 (極秘)

往電第四三六号ニ閔シ五月二十五日外務大臣ニ面会シ露国政府ノ回答ヲ求メタルニ陶賴昭迄日本ノ列車ヲ持行クコトノミナラス松花江迄ノ鐵道讓与ニ閔シテモ大藏大臣ニ於テ反対ヲ唱ヘ書面ヲ以テ抗議ヲ申込來リタルタルヲ以テ本件ハ上奏ノ上陛下ノ裁可ヲ仰ク必要アルニ付確答ハ今暫ク猶予アリタシ尤松花江迄讓与ノ件ハ必ス之ヲ纏ムル決心ナリト云ヘリ尚同大臣ハ六月一日大本營ニ出張スル趣ナリ右談話ノ序ヲ以テ外務大臣ハ往電第四一五号露国提案ニ付スル帝國政府ノ回答ヲ待チ居ル旨ヲ述ヘタルニ付未夕回訓ナキ旨答ヘ置キタルカ相成ルヘクハ至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

一一八 六月一日 石井外務大臣ヨリ  
在露国本野大使宛 (電報)

長春以北鐵道ノ讓受交渉推進方及秘密協約案

第五条ノ露国案削除方ニ付訓令ノ件

第三三一號 (極秘)

貴電第四五三号ニ閔シ

将又密約第五条ニ閔シ貴電第四一五号露国新提案ハ解釈ノ仕様ニ依テハ何等差支ナキカ如モ露国外務大臣カ閣下説明ノ一節ヲ捕ヘテ條文ニ書下サントスル仕打面白カラススクテ我方ニ於テモ同大臣カ閣下ニ与ヘタル説明中露国政府ハ支那ニ於ケル日本ノ Situation Prépondérante ヲ認ム云々ラ条文ニ加ヘ度シト申出テ双方質問ノ捕ヘ合ヲ為スニ至

ルカ如キハ折角日露接近ニ苦心スル本志ト背馳スルコトトナルヘン況ニ露国新提案ハ日露親交ニ顧ミ勿論ノ義ニシテ之ヲ条文ニ存スルノ理由無クスル不必要ニシテ却テ両国相互ノ真意ヲ疑フノ觀アル条文ハ是非共削除シタキニ付此趣意ニテ先方ヲシテ同案ヲ撤回セシムル様御尽力ヲ請フ

一二九 六月三日 在露国本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

秘密協約案第五条ノ露国側新提案ハ日本ニ不利益ト認メラレザルニ付可成承認セラル様

進言ノ件

第四八一号（極秘）

貴電第三三一号ニ閔シ外務大臣病氣ノ為大本營出張ヲ見合セタルニ付鉄道問題ニ閔スル露国政府ノ回答ハ尚幾分遲延スヘシ密約第五条ニ閔シ露国新提案ハ如何ニ之ヲ解釈スルトモ日本ノ為不利益ノコトハ毫モ之ナキヤニ考へラルル処露国外務大臣ノ立場トシテハ往電第四一五号ヲ以テ申進シタル通閣僚トノ關係上極メテ必要ノコトト認メラルニ付帝国政府ニ取り害ナキ限り此ノ点ニ閔シ露国外務大臣ヲシテ面目ヲ立テシムルハ總テノ点ニ於テ利アリテ害ナシト信

第四九四号極秘

六月七日外務大臣ニ面会シタルニ秘密協約第五条新提案ニ對スル日本政府ノ回答ニ接セサルヤト尋ネラレタルニ付本使ハ往電第四八一号請訓ノ行懸モアルニ付未タ回答ニ接セスト答ヘタル処同大臣ハ実ハ自分ハ病氣療養ノ為一週間後ニハ約三週間ノ予定ニテ転地スル積ナレハ出来得ヘクンハ其ノ前協約ノ調印ヲ了シタキモノナリト云ヘルニ付本使ハ帝国政府ノ反対スルハ單ニ第五条ノミナルヲ以テ若シ露国政府ニ於テ同条削除ニ同意セハ直ニ調印ヲ了シ得ヘシト信ス尚打明ケテ本使ノ所見ヲ云ヘハ閣下ヨリ強テノ御依頼ニ付新案第五条ノ提議ヲ帝国政府ニ移牒シタルモ苟モ同盟条約ヲ締結スル以上ハ両国政府ハ互ニ相信頼スルハ勿論ノ義ナレハ第五条ノ如キハ全然必要ナキコトヲ確信スト述ヘタルニ自國ノ立場ニ鑑ミ成ルヘク之ヲ存シタキモ若シ速ニ本協約ヲ締結スルノ望アラハ第五条ノ存廐ニ付テハ更ニ考量スヘシト云ヘリ右外務大臣ノ口氣ニ依リ察スルニ帝国政府ニ於テハ第五条ノ削除ヲ強硬ニ主張スルトキハ露国政府ハ御希望ノ通之ニ同意スヘシト思料セラル就テハ若シ先方ニテ同条削除ニ同意セハ直ニ協約ニ調印ヲ為シ差支ナキヤ至

ス又露国外務大臣ガ本官説明ノ一節ヲ捕ヘテ之ヲ条文ニ書下サントスルハ本官ノ質言ヲ捕フルモノニシテ面白カラサル仕打ナリト御申越相成タル處本使ハ貴電第二七九号中ノ閣下御訓令ノ趣旨ヲ其ノ儘陳述シタルニ過キス而シテ露国外務大臣ニ於テモ之ヲ帝国政府ノ質言トシ之ニ乘シテ第五条ノ新案ヲ作成シタルモノニアラサルコトハ本官ノ信ジテ疑ハサル所ナリ卑見ニ依レハ「サゾノフ」氏ハ眞実帝国政府ノ説明ニ信ヲ措キ今回ノ新提案迄讓歩シタルコトナルニ付貴電第三三一号末段御申越ノ如キ理由ヲ繰返スノミニテハ先方ヲ心服セシムルコト能ハサルノミナラス帝国政府ニ於テ本案ニ反対セラルル理由ヲ説明スルニ大ナル困難ヲ感ス就テハ是カ削除ヲ必要トスル他ノ重大ナル理由ナキ限り新提案ヲ承諾セラルル様致度ニ付重テ御考量アランコトヲ請フ

本使ハ來週初外務大臣ニ面会ノ筈ナリ

一三〇 六月八日 在露国本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

露国側ニ於テ秘密協約第五条新提案ノ削除ニ  
同意セハ協約ニ調印シ差支ナキヤ請訓ノ件

急御回訓アリタシ

鉄道問題ニ付テハ外務大臣ハ明日大本營ニ赴キ勅裁ヲ仰キ来ル月曜日ニ本使ニ確答スヘシト云ヘルニ付御訓令ニ基キ代価ノ事ニ言及シタルニ此ノ点ニ付テハ更ニ主務大臣ト協議ノ必要アルヲ以テ其ノ上確答スヘシト云ヘルニ付本使ハ日本ヨリ軍艦譲渡ノ例モアルコトナレハ大藏大臣ニ於テ全ク商売的ニ本問題ヲ考量セサル様特ニ外務大臣ノ注意ヲ喚起シ置キタリ右ノ次第ニテ大体ノ問題ハ来ル月曜日ニハ確定スヘシト信セラルニ付成ルヘク速ニ調印ノ運ニ至ル様致シタシ

一三一 六月十二日 在露国本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

協約調印前二枢密院諮詢ヲ要シ又英仏両政府ニ内示ノ必要アルニ付短時日間ニ調印ヲアシ難才旨回訓ノ件

第三四九号

貴電第四九四号ニ閔シ第五条ニシテ削除セラルナラバ本大臣限リニ於テハ調印ニ異議ナキモ愈々調印ニ至ル迄ニハ閣議ヲ經一応上奏ノ上枢密院ニ諮詢セラルノ手続ヲ要シ

他面露国政府ト協議ノ上両国同時ニ英仏両政府ニ内示スルノ必要アルニ付貴電御申越ノ如キ短時日間ニ調印ヲ了スル事ハ到底取運ビ難キニ付右ニ御承知アリタシ尚愈々第五条削除ト決スルニ於テハ直チニ協約全文ヲ在英在仏両大使ニ同大使限り内密含迄トシテ転電セラレ同時ニ念ノ為當方ニモ協約全文電報アリタシ

一三一 六月十二日 在露國本野大使ヨリ 石井外務大臣宛（電報）

秘密協約案第五条削除及松花江以南ノ鐵道讓

与ニ付勅裁ヲ得タル旨露国外務大臣談話ノ件

第五一九号（極秘）

（六月十四日接受）

六月十二日外務大臣ニ面会シタルニ同大臣ハ協約締結問題ニ閥シ陛下ニ上奏シタル結果ナリトテ左ノ通陳述シタリ  
皇帝陛下ハ第五条削除ニ閥シ日本政府ノ与ヘラレタル説明ヲ聽取セラレタル後日本政府ノ説明ニハ信頼シテ可ナリト思フニ付第五条削除ニ同意シテ可ナリト仰セラレ自ラ約案第五条ヲ抹消セラレタリ鐵道問題ニ閥シテハ既ニ御前會議ニ於テ主義上決定シ居タル如ク愈々松花江以南ヲ讓渡スルコトノ勅裁ヲ得タリ但シ代價ノ点ハ大蔵大臣ト協議ノ上

ト打合方ノ件

第三六一号

往電第三四九号ニ閥シ閣議ヲ經テ勅裁ヲ受ケタルヲ以テ協

約案ヲ英仏両政府ニ内示スル時日露国外相ト打合ノ上御電報アリタシ

至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

一三五 六月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在英國井上大使宛（電報）

日露協約案ノ写ヲ英国外相ニ手交方及右協約  
締結ノ經緯説明方ニ付訓令ノ件

第二五八号（極秘）（至急）

貴官ハ在露大使ヨリ転電セラレタル日露協約案ノ写ヲ英國外務大臣ニ手交シ左ノ通り申添ヘラルヘシ

予テ我外務大臣ヨリ在本邦英國大使ニ内話シタル通り曩ニ露國太公來朝ニ際シ日露ノ接近ヲ更ニ親密ナラシメム

トノ議アリ爾來両国政府ハ交渉ヲ重ネ今回本協約ヲ議了スルニ至レリ本協約ハ日英同盟ト其ノ目的及終了期限ヲニシ本協約ト相俟テ日英同盟ハ愈々強固トナルヘキ次第ナレハ英國政府カ本協約ノ成立ヲ歓迎セラルヘキハ帝國政府ノ堅ク信スルトコロナリ茲ニ本協約調印ニ先チ同盟國政府ニ之ヲ内示スルノ光榮ヲ有ス

尚ホ貴官ハ右協約締結ノ議アルト同時ニ露國政府ヨリ開戦以來軍需品ニ閥シ露國ニ示シタル我好意ヲ認識シ進ムテ東清鐵道ノ一部ヲ讓渡セムトノ意向ヲ暗示セラレタルニ基キ

ヘ御電報相成ルト同時ニ露國大使ニ條約 texte ヲ交付スル様御訓令相成リタシ尚露国外務大臣ハ來週初メ條約調印ヲアシタント述ヘタルニ付右御含ノ上可然御措置アリタシ

決定スヘシ日本政府ヨリ讓受クヘキ小銃弾薬（右ハ前回面会ノ節我予定額ヲ外務大臣ニ内話シ置キタリ）ニ閥シテ陛下ハ本件ニ付テハ駆引ガ間敷キコトヲナスヲ欲セス全然日本政府ノ好意ニ信頼スヘシ尤朕ハ日本政府ハ必ス出来得ル限リノ好意ヲ尽スヘキコトヲ期待スト仰セラレタルカ其ノ（不明）ニハ出来得（不明）多少ニ拘ハラス右以上讓与セラレンコトヲ希望シ居ラル様見受ケタリ就テハ日本政府ニ於テ若シ讓渡サルヘキ小銃ノ数ヲ多少増加セラルルヲ得ハ幸ナリ殊ニ陛下ハ小銃弾補給ニ付テハ今後引続キ日本政府ノ援助ヲ得タシト仰セラレタルニ付更ニ日本政府ノ考量ヲ煩ハシタシ

前記ノ次第ニテ協約案ハ帝國政府御希望ノ通り纏マリ鐵道讓受ノ件モ最早確定シタルモノト認メ差支ナキニ付成ルヘク速ニ條約ノ調印ヲ了シタトキ處外務大臣転地ノ都合モアルニ付凡何時頃調印ヲ了シ得ル運ト相成ルヘキヤ至急御回電アリタシ

一三三 六月十八日 石井外務大臣ヨリ 在露國本野大使宛（電報）

日露協約案ヲ英仏ニ内示ノ時日ニ付露国外相

長春松花江間六十哩余ノ鐵道ハ之ヲ我ニ讓受クルコトニ交渉纏リ將又松花江航行ニ閲シテモ吉林ヨリ嫩江ニ至ル我力航行權ハ露國ノ閥スル限り其承認スルトコロトナリタル趣併セテ外務大臣へ内談シ置カルヘシ

右申入ヲ為サルルニ付キ貴官ハ在英露大使ト打合ノ上來ル廿六日（月曜日）ヲ以テ申入レラルルヤウ致シタク又其前同大使ヨリ請求アラバ協約全文写ヲ同大使ニ交付セラルヘシ将又英國政府ヘノ申入方ニ閲シテハ露國政府ニテ調印ヲ急グノ事情アルガ為メ同政府ト直接打合ヲ為スノ遑ナカリシニヨリ貴官ハ本訓令通り陳述セラルルヤウ致シタシ尚右申入済ノ上ハ先方ノ挨拶ト共ニ直ニ電報アリタシ

一三六 六月二十二日 石井外務大臣ヨリ  
日露同盟協約案ノ写ヲ仏国外相ニ手交方及右  
協約締結ノ經緯説明スベキ旨訓令ノ件

第七〇号（極秘）（至急）

貴官ハ在露大使ヨリ転電セラレタル日露協約案ノ写ヲ仏國外務大臣ニ手交シ左ノ通り申添ヘラルヘシ  
曩ニ露國太公來朝ニ際シ日露ノ接近ヲ更ニ親密ナラシメ

第三六六号（極秘）

貴電第五三〇号ニ閲シ

露國外務大臣ハ調印ヲ急カルル由ニ付英仏兩國政府ニ通告ノ内容ニ閲シ予メ協議スルヲ省キ別電第三六七号第三六八号ノ通り在英大使ニ電訓シタリ右通告ヲ為シタル

上ハ一応先方ノ挨拶ニ接シタル後ニ協約ニ調印スルヲ穩當ト思考セラルルトコロ其点ニ閲シ露國外務大臣ノ意向如何尚往電第三四九号ノ如ク當方ニ於テハ調印前枢密院ニ御諮詢アラセラルル必要アルニツキ英仏政府ノ挨拶ヲ得タル上右御諮詢ヲ見積リ調印ハ早クモ六月三十日頃ナルベシト思考セラル

松花江航行ノ件及鉄道讓与ノ件ニ閲シ何レモ閣下ト露國外務大臣トノ間ニ文書ノ交換ヲ以テ約定スルノ要アリト思考セラルルトコロ本件ニ閲シ露國外務大臣ノ意向如何閣下ノ御意見ト併セテ電報アリタシ

註 別電第三六七号ハ前出外務大臣発在英大使宛第二五八号全文、別電第三六八号ハ前出外務大臣発在仏大臣宛第七〇号全文ト夫々同文ナリ但シ此ノ後者ノ「内示スルノ光榮ヲ有ス」以下ハ「以下在英大使宛第二五八号ト同文但シ「在英露國大使」ヲ「在仏露國大使」ニ「英國政府」ヲ「仏國政府」

ムトノ議アリタルニ基キ爾來兩國政府ハ交渉ヲ重ネ今回本協約ノ締結ヲ見ムトスルニ至レリ本協約ハ日仏協約ノ精神及ヒ日仏兩國政府間ニ了解セラレ居ルトコロニ符合シ日仏ノ良好關係ヲ一層鞏固ナラシムルモノナルカ故ニ仏國政府ニ於テモ本協約ノ成立ヲ歓迎セラルルコトト確信シ茲ニ調印ニ先チ之ヲ内示スルノ光榮ヲ有ス  
(以下在英大使宛電文後段「内話シ置カルヘシ」迄ト同文)

右申入ヲ為サルルニ付貴官ハ在仏露國大使ト打合ノ上來ル廿六日（月曜）ヲ以テ申入レラルルヤウ致シタク又其前同大使ヨリ請求アラハ協約全文写ヲ同大使ニ交付セラルヘシ将又仏國政府ヘノ申入方ニ閲シテハ露國政府ニテ調印ヲ急グノ事情アルカ為メ同政府ト直接打合ヲ為スノ遑ナカリシニヨリ貴官ハ本訓令通り陳述セラルルヤウ致シタシ尚右申入済ノ上ハ先方ノ挨拶ト共ニ直ニ電報アリタシ

一三七 六月二十二日 在露國本野大使宛（電報）

日露同盟協約調印ノ日取ニ閲シ露國外相ノ意  
向問合ノ件

政府ニ改ム』トス

一三八 六月二十三日 石井外務大臣ヨリ  
寺内朝鮮總督宛（電報）

日露同盟協約近々調印ノ予定ノ旨通報ノ件

第二九号極秘

日露交渉近頃急ニ進ミ協約ハ來週末調印ニ至ルヘク外ニ松花江航行權（吉林方面ヨリ嫩江ニ至ル間）ヲ帝國臣民ニ許ス件ニ閲スル交渉モ略ホ結了ト見ルヲ得ルニ至レリ

一三九 六月二十六日 在露國松井大使（電報）

日露同盟協約案写ヲ仏国外相ニ手交及同外相

新協約歡迎ノ件

第一一〇号

貴電第七〇号ニ閲シ露國大使ト打合セノ上今二十六日午前（不明）時同大使先ヅ「ブリアン」氏ニ面会シ日露新協約全文ヲ手交シ次テ同十五分本使同氏ニ同様協約全文ヲ手交シ御訓示ノ次第ヲ頭ニテ述ヘタルニ我通告ニ對シ謝意ヲ表シタル後日露兩國ノ商議カスク良好ナル結果ヲ齎シタルハ仏國ノ等シク欣幸トスル所ナリト云ヒ鉄道ノ件及松花江

航行権ニ闊シテハ同氏力能ク其地理的関係ヲ承知セラルヲ以テ念ノ為メ地図ニ依リ之ヲ一応説明シタルニ此等ハ地方的問題ナリト云ヒ多ク意ニ留メサリシ様子ナリ尤モ新協約及ヒ右二件共既ニ内々承知シ居リタル趣内話セリ露国大使ハ右二件ニ付何等訓令ニ接シ居ラサルヲ以テ此点ハ「ブリアン」氏ニハ内話セサリシモ協約ノ通告ニ対シテハ同氏ハ等シク歓迎シタル趣本使ニ内話セリ在英在露大使ニ転電セリ

一四〇 六月二十六日 在英國井上大使（石井外務大臣）（ヨリ）

在露協約案ヲ英国外相ニ内示シ同外相ハ之ニ

依リ日英同盟ヲ補強スルハ満足ナル旨陳述ノ

#### 趣報告ノ件

第二八三号（極秘）

六月二十六日「グレー」氏ニ会見貴電第二五八号御訓示英訳ヲ読聞カセタル上日露協約案写ヲ手交シタルニ同大臣ハ重大ノ事柄ニ付暫ク研究ノ時日ヲ得タシト述べ、去リナガラ只今貴大使開陳ノ趣旨ニ依レバ本協約ハ日英同盟ニ対シ補充的（supplementary）ノモノニテ日英同盟モ之ニ依リ

鞏固ヲ加フルナルベク自分ノ満足スル所ナリ元来日露接近ノ問題ニ付テハ御承知ノ通り開戦以来或ハ日露間ノ同盟或ハ日英露仏ノ四国同盟ト種々形ヲ換ヘタル方案ノ下ニ露国外相ヨリ再三自分ニ持込ミ來リタルコトナルガ當時加藤男爵ノ意見ハ此種政事的ノ協商ハ宜シク戰後ノ処理ニ委ヌルヲ可トストノコトナリシヲ以テ自分モ之ニ賛同シ其ノ儘今日ニ至レル次第ナルガ日露関係ノ一層接近セムコトハ由来自分ノ主義上歓迎スル所ニ之有リ今日ノ機会ニ於テ之ガ実現ヲ見タルハ至極結構ト存スル所ナリ聞クガ如クバ里邊ニテハ日露接近ノ義ニ付テハ自分ハ妨害ノ地位ニ在リナドノ風説アリタリトノコトナルガスノ如キハ根拠ナキ誤解ニシテ自分ハ本問題ニ付敢テ何等積極ノ行動ヲ執ラザリシハ全ク前述加藤男ノ意見ヲ尊重スルニ出テタル次第ナリト語ラレ尚密約第四条 sans s'être assuré de la part de ses alliés ノ意味ニ付質問セラレタルニ付本使ハ右ハ締盟國ノ一方ガ他方ヨリ第二条規定ノ武力的援助ヲ求メラレタル場合ニハ先ツ其同盟國即チ日本ナラハ英國又露國ノ場合ニハ仏國ヨリ事態相当ノ協力ヲ得ヘキヤ否ヤ確メタル上ノコトニスヘシトノ意味ト了解スル旨ヲ答ヘタルニ同大臣ハ此ノ

説明ヲ諒トシ如何リモ reasonable ノ規定ナリト思考スト

謂ハレタリ

一四一 六月二十七日

石井外務大臣（ヨリ）  
在露國本野大使宛（電報）

日露同盟協約ノ調印及兩國政府ニ依ル同時発

表ニ闊シ露國側ト打合方訓令ノ件

第三七五号（極秘）

在英大使發本大臣宛第二八三号及在仏大使發本大臣宛第一

一〇号ニテ御承知相成ルヘキ通り英仏兩政府トモ日露協約

案ニ対シ満足ノ意ヲ表シタルリ帝国政府ニ於テハ六月廿八日

（水曜日）上奏六月廿九日（木）ヲ以テ枢密院御諮詢ノ運

ビニ致シタキ考ナリ就テハ右手統ヲ了シ上裁ヲ得タル上ハ

直チニ貴官ニ調印方電訓スベキニ付予メ露國外務大臣ト御

打合相成リ調印期日ヲ協定セラレ當方ヘ電報アリタシ右調

印遲クモ七月一日（土曜）ニハ了セラル可ト思考スルニ付

七月三日（月）朝兩國政府同時ニ公表スヘキ分ヲ發表スル

コトト致シタキ処露國政府ノ都合ハ如何ニヤ是亦御打合ノ

上電報アリタシ

一四二 六月二十九日 石井外務大臣（ヨリ）

在露國本野大使宛（電報）

三 第四回日露協約締結関係一件 一四一 一四二

ケル領土権又ハ特種利益カ侵迫セラルニ至リタルトキハ日本國及露西亞国ハ其權利及利益ノ擁護防衛ノ為相互ノ支持又ハ協力ヲ目的トシテ執ルヘキ措置ニ付協議スヘシ右証拠トシテ下名ハ各其政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ本協約ニ署名調印ス

## 秘密協約

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ千九百七年七月三十日（十七日）千九百十年七月四日（六月二十一日）及千九百十二年七月八日（六月二十五日）ノ日露秘密協約ニ依リ定メラレタル両國間ノ誠実ナル友好關係ヲ一層鞏固ナラシメムコトヲ希望シ前記協約ノ補足トシテ左ノ条款ヲ協定セリ

## 第一条

両締盟國ハ其ノ緊切ナル利益ニ顧ミ支那國カ日本國又ハ露西亞國ニ対シテ敵意ヲ有スル第三國ノ政事の掌握ニ帰セサルコトヲ緊要ナリト認メ必要ニ応シテ隨時隔意ナク且誠実ニ意見ノ交換ヲ行ヒ前記事態ノ發生ヲ防止セムカ為執ルヘキ措置ニ付協議セヘシ

## 第二条

前条ノ規定ニ依リ雙方合意ノ上ニテ執リタル措置ノ結果両

## 第六条

本協約ハ両締盟國ニ於テ嚴ニ秘密ニ附スヘシ右証拠トシテ下名ハ各其ノ政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ本協約ニ署名調印ス

## (附記二)

日露協約案上奏及枢密院へ御諮詢ノ経過記録

極秘 日露協約上奏及枢密院へ御諮詢ノ手続参考ノ為記録

ス

大正五年六月二十八日（水曜）

午前十時大隈總理大臣石井外務大臣参内上奏ス

同日午後五時幣原外務次官枢密院事務局ニ於テ有松枢密院書記官長、二上、入江兩枢密院書記官参加（清水同院書記官モ後ヨリ参加）ノ席上本協約ノ説明ヲ為シ有松書記官長ハ其席ニ於テ報告書ヲ作成セリ

同日夕九時頃陛下御手許ヨリ本協約案枢密院へ御諮詢ノ為御下トナル

仍テ枢密院事務局ヨリ同夜各枢密顧問官ニ対シ翌二十九日枢密院會議開催相成旨召集ノ通知ヲ發ス此ノ手続同夜深更ニ至ツテ結了ス

締盟國ノ一方カ前条ノ規定ニ依リ他ノ一方ニ兵力的援助ヲ与フヘキ条件及該援助ノ実行方法ハ両締盟國當該官憲ニ於テ協定スヘシ

## 第三条

両締盟國ノ一方切迫セル戦争ノ重大ナル程度ニ適應スヘキ援助ヲ其ノ同盟諸國ヨリ保障セラルニ非サレハ本條約第二条ニ規定スル兵力的援助ヲ他ノ一方ニ与フルノ義務ナシ

## 第五条

本協約ハ調印ノ日ヨリ直ニ実施シ千九百二十一年七月十四日（一日）迄効力ヲ有ス

前記期間ノ終了ニ至ル十二箇月前ニ両締盟國ノ執レヨリモ本協約ヲ廃棄スルノ意思ヲ通告セサルトキハ本協約ハ両締盟國ノ執レカニ於テ廃棄ノ意思ヲ表示シタル当日ヨリ一年ノ終了ニ至ル迄引続キ効力ヲ有ス

（備考）前記ノ如ク陛下御手許ヨリ二十八日夕刻遅ク御下相成リタルコトハ予メ特ニ斯ク取計ヒ置キタルモノニシテ斯クスルトキハ翌朝ノ枢密院會議召集トノ期間極メテ短縮セラレ其ノ間機密漏洩ノ虞ヲ防キタルナリ  
六月二十九日（木）  
枢密院會議午前十時ヨリ開催  
陛下出御  
大隈總理大臣、石井外務大臣、幣原外務次官列席説明満場一致ヲ以テ本協約案可決  
正午過散会

（備考）前記陛下ヘノ上奏ハ和文（公表及秘密ノ分）ナリ  
二十九日ノ枢密院會議ノ際ハ石井外務大臣和文及仏文（執レモ公表及秘密ノ分共）ヲ携帶シ各顧問官ニ配布シ會議終了ノ節石井大臣各顧問官ヨリ右配布ノモノヲ悉ク回収シテ持帰ラル（但シ公表ノ分一二部ハ一二顧問官ノ手ニ残り居レリ）  
又二十八日夜ノ枢密院事務局ニ於テ幣原外務次官説明ノ際携帶ノ協約案中和文及仏文（執レモ公表及秘密ノ分共）一

部有松書記官長ノ手許ニ残シタリ 以上

### 第三八九号

一四三 六月二十九日 在露国本野大使ヨリ 石井外務大臣宛（電報）

日露協約調印及公表ノ日取ニ付キ露国側ト打合済ノ件

第五五九号（極秘）

貴電第三七五号ニ閔シ往電第五四九号ヲ以テ申進シタル通月曜日調印ノコトニ協議済ニモアリ又万一調印方ニ閔スル

御電訓土曜日迄ニ到達セサルコトアリテハ彼是行違ヲ生スベキニ付月曜日調印ノコトニシ公表協約発表ハ木曜日（七

月六日）トスルコトニ打合済ナリ「コザコフ」ノ丸毛書記官ニ語ル所ニ依レハ鉄道讓与及松花江航行ノ件ニ閔シテハ

尚 Preiser スヘキ点アルニ付文書ノ交換ハ東京ニ於テスル方然ルヘシトノ意見ヲ外務大臣ニ述ヘ置キタリトノコトニ付右意見ノ通トナルヤモ知レス右御含置アリタシ

一四四 六月三十日 石井外務大臣ヨリ 在露国本野大使宛（電報）

東支鐵道南部線一部ノ讓受ハ南滿洲鐵道会社

ヲ買主トスベキ件

### 第三九〇号

一四五 六月三十日 石井外務大臣ヨリ 在露国本野大使宛（電報）

露國軍需品注文ノ価額二千七百円ノ該當分ニ  
対シ露國大藏証券募集ニ付在邦露國大使ニ

### 申入ノ件

往電第三〇九号ノ件ニ閔スル帝國政府ノ回答ハ郵送セリ本問題ノ解決ハ多少手間取ルヘシト思ハルニツキ帝國政府ハ右回答ト同時ニ露國軍需品注文ノ差当リタル価額二千七百万円ニ該當スル分ニ対シ不取敢露國大藏証券ヲ当地ニ於テ募集シ他日本問題ノ決定ヲ俟テ右大藏証券ノ債務ヲ大借款ニ組入レテハ如何（右注文ノ件速カニ確定セサル間ハ當方ニ於テ原料品注文ヲナス能ハサルカ故ニ自然露國ニ供給

スルノ時機ヲ遲延セシムルヲ免レス）ト在邦露國大使ニ申入レタリ

当方大藏大臣ハ目下本邦市場ノ景況募債ニ好都合ナルカ故ニ帝國政府ノ内國債ヲ起スヘキ既定ノ計画ヲ此際実行ゼント考慮中ナルカ右露國ノ大藏証券募集ニシテ直チニ決行セラルモノトスレハ我内國債ハ後廻シトナスモ差支ナキ見込ノ由ナリ就テハ以上我市場ノ狀況ト露國注文品供給ノ遲延ヲ予防スル為此際注文ヲ決定スル必要アル事情トヲ露國当局ニ説明シ何レニカ至急決定セラル様御交渉相成度シ

一四六 七月三日 在露国本野大使ヨリ 石井外務大臣宛（電報）

東支鐵道南部線一部讓与及松花江航行権問題

二閔スル日露間文書交換ハ東京ニ於テ為シタ

牛旨露外相談話ノ件

附記 本野大使発石井外務大臣宛電報

松花江航行権ニ閔スル件

第五七一号

貴電第三八五号末段ニ閔シ外務大臣ノ語ル所ニヨレハ露國

三 第四回日露協約締結関係一件 一四六

鉄道讓受ニツキ帝國政府ニ於テハ予算ナキコト故南滿洲鉄道会社ヲ買主トシテ買取ラシムルノ外無ク売主ハ露國政府又ハ東清鉄道会社何レトモ先方ノ都合ニ任スヘキハ勿論ナリ右御含ノ上往電第三八五号ノ如ク露國當局ヘ御交渉相成タシ

### （附記）

在露国本野大使発石井外務大臣宛電報（註）  
松花江航行権ニ閔スル露國側覚書要部報告ノ件

貴電第四二三号ニ閔シ該覚書寫ハ郵送セサリシニ付七月十八日ノ便ニテ發送スペシ同覚書要部左ノ通り

滿洲ニ於ケル日露両國勢力範囲ノ境界ヲ一層完全ナラシメムカ為露國政府ハ松花江ノ两岸共日本ノ勢力範囲ニ属スル秀水站ノ上部即チ松花江ノ上流ニ於ケル露國船舶航行権ヲ拋棄スルヲ得ヘシ又江岸ノ一方カ露國ニ他ノ方カ日本ニ属スル所ノ秀水站ト嫩江口トノ間ニアル松花江水域ニ於テハ露國政府ハ其航行権ヲ留保スルト同時ニ

三 第四回日露協約締結関係一件 一四七 一四八

日本ノ船舶力同域ニ於テ航行スルコトニ反対セサルヘシ

註 本電ハ発電ノ日時及番号ヲ欠ク、七月十六、七日頃ノ発電

ト推測セラル

一四七 七月五日

石井外務大臣ヨリ

在中国日置公使宛（電報）

日露協約締結ノ目的ヲ中国政府へ説明方訓令

ノ件

第二五一號

七月三日露都ニ於テ締結セラレタル日露協約日仏両文別電

第二五三号及第二五四号ノ如シ（右ノ外秘密協約アリ追テ送付ス）別電ハ七日（金曜）発表ノ筈ニツキ貴官ハ同日別電訳文ヲ支那当局者ニ示シ協約ノ目的ハ東亞ノ平和ニ対シ更ニ新ナル保障ヲ加フルニ外ナラスシテ支那ニトリ直接不利益ヲ及ホスカ如キコト断シテ無之旨ヲ言明セラルヘシ。右ハ近頃北京來電ニヨレハ支那官民ニ於テ日露協約ニ対シ猜疑ノ念ヲ抱クヤニ見ユルニツキ支那当局ニ申入ル次第ニシテ近頃日露間ノ電信ハ遲延勝ニテ明後日迄ニ右通告ニ關シ露國政府ト予メ議スルノ暇ナキタメ不敢致貴官ニ前述ノ如ク訓令スルモノナルニツキ貴官ハ此旨露國公使ニ内報

利益ノ為支那ヲ利用シ得サルヘキヲ確信スルヲ得ヘシト

一四九 七月九日

在中国日置公使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露協約ノ目的ニ關シ陳外交總長ニ説明シタ

ル旨報告ノ件

第六五四號

日露協約ニ關シテハ七月七日本使陳總長ニ面会ノ序ヲ以テ

貴電第二五二号前段ノ趣旨ニ從ヒ該協約ハ東洋ノ平和ニナル保障ヲ与フルモノナルコトヲ懇切ニ説明シ協約全文ハ其内更メテ貴覽ニ供スヘキ旨話シ置キ今八日貴電第三六一号ニ接到シタルニ付船津ヲシテ漢訳文ヲ外交部秘書ニ手交セシメ置キタリ尚露公使ハ本件ニ關シ本國政府ヨリ未タ來電ニ接シ居ラサル趣ナリ

一五〇 七月十二日

在英國井上大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露協約ノ締結ニ對シ英国外相ヨリ満足ノ意

表申越ノ件

附記 七月十二日井上大使發石井外務大臣宛電報第三〇〇

二号ノ板訳文

セラルヘシ尚日露ノ間ニ右協約以外ニ於テ松花江通航権及東清鉄道一部讓与ニ關シ協議中ナルカ右決定次第追テ訓令スルコトアルヘシ

註 別電省略ス

一四八 七月八日

在露國本野大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

日露協約ノ意義ヲ強調セル露國外相ノ新聞記

者ヘノ談話報告ノ件

第五八一号

七月七日外務大臣ハ新聞記者ニ語リテ曰ク日露協約ハ重大ナル政事上ノ Acte ナリ最近十一年間日露両国外交家ハ日露戦争ヲ惹起シタル諸般ノ原因ヲ一掃スル事ニ尽力シタリ是等原因ハ両国ヲシテ實際衝突セシムルカ如キ深キ根柢ヲ有スルモノニハアラサリキ吾人ハ此原因ヲ一掃シテ日露友好關係ヲ樹立シ極東ニ於ケル領土及ヒ特殊利益ヲ保全シ和平的事業ノ為全力ヲ傾注シ得ルニ至レリ今回ノ大戦争ハ幾多ノ任務ヲ授ケタリ此任務履行ノ為ニハ露國ハ今後數年間其注意ヲ歐洲ニ集中スルヲ要ス吾人ハ日本ト提携ノ結果専心右任務ノ履行ニ努力シ得ルト同時ニ如何ナル國モ自己ノ

第三〇一号

日露新協約三日調印済七日公開協約公表ノ筈ノ旨本野大使ヨリ來電ノ次第當時「グレー」伯ニ内話シ置ケルニ同伯ヨリ十日附書面ヲ以テ右ニ対シ挨拶旁別電第三〇二号ノ通申越セリ

註 別電第三〇二号記録逸失セルモ當時外務本省ニ於テ作成セラル板訳文ヲ次ニ附記ス

（附記）

七月十二日井上大使發石井外務大臣宛電報第三〇二号ノ板訳文

本協約締結ニ對シ我与國新聞紙カ熱誠ナル賛辞ヲ述ヘタルハ本官ノ深ク欣フトコロナリ本官ハ「グリーン」大使ニ対シ本協約調印カ頗ル本官ヲ満足セシメタル旨石井男爵ニ申入レンコトヲ命シ置ケリ益々日露両國ノ國交カ鞏固ナル基礎ノ上ニ置カレンコトハ本官ノ予テ庶幾シタルトコロ而シテ本協約ハ実ニ日英同盟ト何等抵触スルトコロアルヲ見ス日英同盟ハ本協約ニヨリ益堅固トナルヘキヲ本官ハ信セント欲ス云々

一五一 七月十三日

在英國井上大使ヨリ

石井外務大臣宛（電報）

三 第四回日露協約締結関係一件 一四九 一五〇 一五一

一六三

## 英國皇帝陛下日露協約ノ成立ニ深ク満足スル旨ヲ述べラレタル件

第三〇四号

本官夫妻不日出発ニ付皇帝皇后両陛下ヨリ特別ノ恩召ヲ以テ七月十二日「バッキンガム」宮殿ニ於テ午餐ノ御陪食仰付ケラレタルカ當日ハ一人ノ侍臣ヲモ交ヘズ全ク両陛下ト本使夫妻ノ差向ヒニテ極メテ打釈ケタル御持成シヲ賜ヒ始終優渥ノ御閑談アリタルカ御談話中皇帝陛下ハ日露新協約ニ御言及遊ハサレ該協約ノ締結ハ朕ノ頗ル欣快トスル所ナリ日露両國ガ安固ナル基礎ノ上ニ親善提携ノ關係ヲ立ツルニ至ランコトハ朕カ年來ノ宿望ナリシニ今次ノ協約成立ニ依リ茲ニ之カ實現ヲ見ルニ至リタルハ朕ノ深ク満足スルトコロナリ本件当初ヨリノ経過ハ其都度外務大臣ノ奏聞ニヨリ朕ニ於テ逐一承知シ居レルガ日露關係ニ對スル前述朕ノ宿望ニ動カサレ朕ハ一昨年中初メテ露国外務大臣ヨリ本件ニ關シ朕ノ政府ニ申入レアリタル當時既ニ吾外務大臣ニ於テ是非共本件ノ實現ニ尽力スベク必要ナラハ兩者ノ間ニ斡旋シテ之力成立ヲ計ルヘキ旨ノ希望ヲ内諭シ置キタル次第ナルカ今ヤ幸ニ日露間ニ協商ノ成立ニ依リ朕カ希望ハ茲ニ御写真ヲ賜ハリタリ

達セラレ而シテ該協約ノ結果日英同盟ハ益々鞏固ヲ加ヘタルノミナラス極東ニ於テ日英露仏即チ我等同盟四國ノ利害全然其揆ヲ一ニスルニ至リタルハ誠ニ慶賀ニ堪ヘス但シ独逸ニ取リテハ本協約ハ不興ヲ招クナラン朕カ内聞スル所ニ依ルニ独逸ハ予テ戰後直ニ日本ト協商シ提携シテ支那ヲ制御 (overrun China) セントスルノ野心ヲ包藏シ居レリトヒタル後更ニ語ヲ転シテ在支英國商人就中上海、天津、漢口等主要商業地ノ英國居留民中ニハ尚獨逸側ノ術策ニ乘セラレ日本ニ不利ノ言動ヲ敢テシ又徒ラニ日本ニ反対スル者往々有之趣ハ朕カ予テ聞及ヒ居ル所ナルカ之ト同時ニ日本ニ於テモ輿論ノ一部ニ日英同盟ノ前途賴ムニ足ラストカ或ハ英國ヲ以テ日本ノ利益ヲ顧ミス徒ラニ自己ノ勝手ヲノミ計ルモノナリトカ日英同盟ニ惡声ヲ放ツモノ追々之有趣ハ是レ又「グリーン」大使ノ報告ニ依リ承知セリ思フニ此種ノ不平ハ主シテ在支英人ノ言動ニ挑発セラレタルモノナルヘキモ之等在支英商ノ行動タル商業ノ競争上自家目前ノ利益ニ急ニシテ往々國家的觀念ヲ忘ルニ出ヅルモノナルハ朕ノ認ムル所ナリ朕及ヒ朕ノ政府ノ政策ハ此等 (第三

○八号米電ニテ訂正) 在支英人ノ妄動ニ依リ毫モ動カサルルモノニアラサルハ言ヲ俟タサル所ニシテ此事ハ日本上下ニ於テモ篤ト了解アラン事ヲ希望ス若シ夫レ當国ニ於テ新聞紙上等日本ニ不快ノ言論ヲ敢テスルモノアル時ハ朕ノ政

參謀總長宛  
天電第三十六号

支那駐屯軍司令官

府ニ於テ十分取締ヲナスノ途モアル事ト信スルニ付テハ日本ニ於テモ日英ノ好感情ヲ害スヘキ言論風潮ノ消滅ヲ見ルニ至ラン事ハ朕ノ切望スル所ナリ朕ノ所言ハ朕カ政府ノ方針ヲ反映スルモノナルハ貴大使ノ承知セラル、通ナリ就テハ帰國ノ上ハ貴大使ニ於テモ右ノ方針ニ於テ相当尽力アラン事ヲ望ムト仰セラレタリ尚辞辯ノ際陛下ハ天皇陛下ニ対セラレ特ニ陛下ノ深厚ナル御友情ヲ御伝ヘ申上クヘキ様本使ニ仰聞ケラレ尚石井男ニモ宣敷ク伝言セヨトノ優渥ナル御沙汰アリ本使夫妻ヘハ記念トシテ特ニ両陛下ノ御親署ノ御写真ヲ賜ハリタリ

一五二 七月十七日 在天津支那駐屯軍司令官ヨリ  
參謀總長宛 (電報)

張作霖ヨリ北京國務院宛密電送付ノ件

電報 七月十七日 前十一時十分着  
后五時七分發

衛ノ為ニ全力ヲ傾注スルヲ要ス特ニ国家人々徒ラニ国内ノ争ヲ事トシ外患ノ恐ルヘキヲ閑却セルハ解スル能ハサル所ナリ云々

一五三 八月一日 在中國小幡臨時代理公使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

### 外交總長ヨリ日露協約二闕スル疑点ニ付問合

#### アリタルニ付之ニ対スル挨拶振請訓ノ件

第六九八号

七月三十一日外交部參事伍朝枢本官ヲ來訪シ外交總長ノ命ニ依リ最近調印セラレタル日露協商ニ關シ非公式ニ左記ノ点ニ付日本政府ノ見解承知シタキ旨申出タリ

(一)協約第二條ニ兩締約國ノ一方ニ依リ承認セラレタル他ノ一方ノ極東ニ於ケル領土権又ハ特殊利益ガ侵迫セラルニ至リタルトキ云々トアル處極東ノ文字中ニハ支那モ含マレ居ルコト無論ナルニ就テハ兩締約國ノ一方ニ依リ承認セラレタル他ノ一方ノ支那ニ於ケル領土権又ハ特殊利益トハ如何ナル権利及利益ヲ指ス次第ナルヤ

(二)同條後段ニ於テ日本國及露西亞國ハ権利及利益ノ擁護防衛ノ為相互ノ支持又ハ協力ヲ目的トシテ執ルヘキ措置ニ付

ニ基ク次第ナヤトリ附言セリ)

(四)大阪其他ノ日本新聞紙中ニハ松花江航行問題及東清鐵道ノ一部讓与問題其他ニ関スル秘密ノ別約アリトノ報道アル処果シテ右ノ如キ密約存在シ居ル次第ナリヤ否ヤ  
右四点ニ對シテハ何レ帝國政府ニ伺出ノ上回答ニ接シ次第何分ノ義挨拶ニ及フベシト答フルト同時ニ本官限リノ私見トシテ(三)(三)ニ對シテ千九百七年協約ハ依然効力ヲ有スルモノト信スル旨(四)ニ對シテハ本官ノ承知スル限り何等密約ノ存スルコト之ナク唯松花江航行問題及東清鐵道一部讓受問題ハ目下両國間ニ協議中ナルヤニ承知シ居ル處右ハ何レ會議纏マリ次第支那政府ニ關係アル事項ニ付テハ必ス支那政府ノ同意ヲ得ルノ手続ヲ為スベキ次第ト信スル旨ヲ述へ置ケリ尚本官ノ問ニ對シ本件ハ露國公使ニ對シテモ同様質問ニ及フ積リナリト伍ハ答ヘタリ右支那政府ヨリノ質問ニ対スル挨拶振り至急御回電ヲ請フ（終リ）

一五四 八月一日 在中國小幡臨時代理公使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

### 外交部ヨリ露國公使ニ付シ日露協約二闕シテ

日本側ニ為シタルト同様ノ非公式質問アリ之

三 第四回日露協約締結関係一件 一五四

ル地方ノ專管居留地ヲ仮リニ本條ニ所謂兩締約國カ互ニ相承認スル権利若クハ利益ト假定シ此ノ居留地ガ或ル他ノ外國ノ為ニ侵迫セラルカ如キ場合ニ於テ日露兩國カ之ニ對シ執ラルベキ措置ヲ協議スルハ隨意タルヘシト考フルモシ此等居留地ヲ擁護防衛スルノ権利ト義務アルコトト信ス而シテ協約第二條後段ノ規定ハ右ノ如キ支那ノ権利ト如何ニ調和セラルヘキヤ換言スレバ叙上ノ如キ支那ノ権利ニ關シ第二條ハ如何ニ説明セラルヘキモノナリヤ（伍ハ支那ノ権利ト第二條トハ抵触スル所アルカ如シト謂フ意味ヲ右ノ如ク婉曲ニ陳述セルモノト了解シタリ）

(三)参考ノ為支那政府ハ新協約成立後ニ於テモ千九百七年ノ日露協約ハ尚依然トシテ効力ヲ有スル次第ナルヤ否ヤヲ承知シ置キタシ（伍ハ千九百七年ノ協約第二條ニハ支那ノ獨立及領土保全並ニ機會均等主義ヲ承認シ云々トアルニ拘ハラス新協約ニハ全然同様ノ規定ナキ處若シ新協約成立ノ為一九〇七年協約自然消滅セリトセバ新協約中ニ特ニ支那ノ独立及領土保全云々ノコトヲ規定セザリシハ如何ナル理由

二対スル回答振同公使ヨリ内話ノ件

第七〇〇号

往電第六九八号ニ關シ八月一日露國公使ヲ訪問シタル處外交部ヨリ同公使ニ對シテモ全然本官ニ為シタルト同様四箇条ノ非公式質問ヲ為シ来レル由ニテ Prince Koudacheffハ大要(一)ニ對シテハ一々権利及利益 specify シテ説明スルヲ得ス(二)ニ對シテハ極東ニ於テハ日露両國カ相互ニ承認シタル領土権及特殊ノ利益ノ侵迫セラレタル場合ニ両國カ之ニ対抗シ執ルヘキ处置ヲ協議スルコトハ何等支那ノ権利ト抵触スル所アラス支那自身ニ於テ條約其他ニ依リ当然保護防衛スヘキモノハ之ヲ保護防衛シ毫モ差支ナカルヘシ此ノ解釈ハ敢テ本国政府ヨリ指示セラレタル解釈ニハアラサルモ論理上正ニ斯ノ如ク結論セサルヘカラスト考フ云々(三)ニ對シテハ新協約中ニ一九〇七年協約廢止ノコトヲ明言シアラサル以上該協約ハ依然其効力ヲ有スルモノト解ス(四)ニ付テハ何等承知スル所ナシト説明シタル趣ナリ尚露國公使ハ右会話ノ要領ヲ本国政府ニ打電シ何等訓示アリ次第支那側ヘ更ニ挨拶スヘキモノ明確ナル回答ヲ与フルコトハ或ハ本国政府ニ於テ困リハセスマト考ヘ居ル旨ヲ附言セ

今ヤ此点ニ於テ多少ノ援助ヲ与へ得ルノ場合ニ至リ居ルモ何分此方面ヨリノ輸送先トシテハ Archangel 又ハ遠ク浦潮ニ仕向ルノ外ナク何レモ航路ノ不便不確実ノタメ十分援助ノ功ヲ期シ難ク米国ヨリノ供給モ同様ノ困難ヲ免レス旁々以テ露国ノ軍需品充実ハ結局主トシテ日本ノ尽力ニ待ツノ外ナキ次付此ノ上共日本ニ於テ露国ニ対スル軍需品ノ供給ニ出来得ル限リノ配慮ヲ与ヘラル様致シタク特ニ陛下ノ御切望トシテ本使ヨリ我陛下ノ歡聞ニ達スヘキ様繩返シ仰セ聞ケラレタリ

一五五 八月一日 在英國珍田大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）  
英國皇帝陛下ヨリ日露協約成立ヲ慶賀シ今後  
共日本ノ対露軍需品供給ヲ望ム旨御言葉アリ  
タル趣報告ノ件

第三二四号

本使夫妻七月三十一日当國兩陛下ヨリ午餐御陪食ヲ仰付ラレタルカ席上他人ヲ交ヘス差向ヒニテ絶エス極メテ懇親的ニ種々ノ御談話中皇帝陛下ハ日露協商ノ成立ヲ以テ陛下年來ノ御宿望ヲ実現セルモノトシテ重ネテ深厚ノ御満足ヲ表サレタル上殊ニ独逸ハ日本ヲ抱キ込ミ戰後ノ經營ニ利用セムトノ禍心ヲ包藏シ聯合国日本ニ対シテノミ殊更ニ特殊ノ方策ヲ執ルニ腐心シ居ルモノノ如クナリシカ今次ノ日露協約ハ全然右ノ禍心ニ止メヲ刺シタルモノト云フヘク独逸ノ失望ハ察スルニ余リアリト仰セラレ尚露国ノ軍需品充実ハ聯合国一般ノ利害上重大ノ關係アリ陛下モ深ク御軒念アラセラルル折合ナルモ國內交通ノ不備産業幼稚ノ現状ニ鑑ミ露国ハ到底其ノ軍需品ノ供給ヲ外ニ仰クノ外ナク英國ハ

一五六 八月五日 石井外務大臣ヨリ  
在露国本野大使宛（電報）  
日露協約ニ關スル中國ノ質問ニ對スル回答振

二付露国政府ニ異存ナキヤ確メ方訓令ノ件

第四五三号

往電第四五一號支那政府申出ニ対シテハ左ノ通回答シ可然シト思考スル處貴官ハ至急露国外務大臣ニ面会ノ上同國政府ニ於テ異存ナキヤ確メ結果電報アリタシ「（一）極東ノ文字ニ支那モ含マレ居ルハ勿論ナルモ第二條ニ所謂領土又ハ特殊利益ナルモノノ内支那ニ關スルモノハ日

本側ヨリ云ヘハ例ヘハ租借地、南滿鉄道又ハ專管居留地ニ對スル關係ノ如キヲ指ス意ナルモ一々之ヲ分類列挙スルコト能ハス

（二）日露両国ハ支那ノ正当ニ享有スル権利ノ行使ヲ排除セントスルカ如キ意思ハ毫モ之ヲ有セス両国ガ自國ノ権利及

利益ヲ防護スルノ手段ヲ協議スルコトハ支那ノ権利ト何等

扞格スル所ナシ

（三）第一回協約第二条ハ第二回協約及新協約ニ依リ何等影響ヲ被ルコトナク依然効力ヲ有ス加之支那ノ独立及領土保

全並同國ニ於ケル機會均等ノ主義ハ現ニ日英協約ニモ見工居リ是等ノ主義ニ対シ帝国政府ハ從來ノ方針ヲ變シタルモノニ非ズ

（四）松花江航行及東清鐵道一部讓渡等ノ問題ニ閑シ秘密別約成立セリトノ新聞報道ハ全然誤聞ニ屬ス他日日露両国間

ニ成立スルコトアルヘキ協定ニシテ支那政府カ之ヲ知悉スヘキ必要アリト認メラルモノニ付テハ支那政府ニ通知スヘキコト勿論ナリ（在支代理公使ノ含迄トシテ帝国政府ニ

ルモノモアリテ必シモ全部支那政府ノ同意ヲ要スル儀トル回答要領左ノ通

一五八 八月十二日 在露国本野大使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）  
日露協約ニ關スル中國ノ質問ニ對スル回答振

二付露国政府ヨリ受領ノ覺書要領報告ノ件

第六六二号

往電第六四七号ニ閑シ八月十二日露国外務省ヨリ接到シタル回答要領左ノ通

三 第四回日露協約締結関係一件 一五七 一五八

三 第四回日露協約締結関係一件 一五九

一七〇

露国政府ハ日本政府ノ回答ニ異議ナシ但シ在支露国公使ハ

本件ニ就キ私見トシテ左ノ意味ヲ支那政府ニ言明シタリ

(一) 日露両国ノ協約ハ支那政府ノ権利義務ト扞格スルト

コロナシ畢竟支那政府カ日露両国ニ対シ承認セル権利義

務ノ guarantee ノ補足ニ過キス

(二) 千九百七年ノ日露協約ハ期限ヲ定メズ故ニ此協約就中支

那ノ独立及領土保全ニ關スル條項ハ特ニ新協約ニ明記セ

ザルモ依然其効力ヲ保有スルモノトス

(三) 日露間ニ締結セラルヘキ取極ニシテ滿洲ニ於ケル支那ノ

権利ニ関係スルモノハ支那政府ニ通告スヘシ

露国政府ハ右在支公使ノ言明ヲ是認シ尚今後重ネテ新協約

ニ所謂特殊利益トハ如何ナルモノナリヤトシテ支那政府ヨ

リ質問セラレタルトキハ右ハ露支間ノ條約協定其他一切ノ

取極ニ基クモノニシテ既ニ支那政府ノ知悉スルトコロナル

旨ヲ答フヘキ様電訓シタリ

一五九 八月十四日

石井外務大臣ヨリ

在中國小幡臨時代理公使宛(電報)

日露協約ニ關スル中國政府ノ質問ニ對スル回

答振訓令ノ件

第三一六号

貴電第六九八号支那政府申出ニ對シ貴官ハ左ノ趣旨ヲ以テ

回答セラレタシ但シ露国政府ト打合済

「(一) 極東ノ文字ニ支那モ含マレ居ルハ勿論ナルモ第二条ニ

所謂領土權又ハ特殊利益ナルモノ、内支那ニ關スルモノハ

日本側ヨリ云ヘハ例ヘハ租借地南滿鐵道又ハ專管居留地ニ

對スル關係ノ如キ意ナルモ一々之ヲ分類列挙スルコト能ハ

ス

(二) 日露両国ハ支那ノ正当ニ享有スル権利ノ行使ヲ排除セ

ントスルカ如キ意思ハ毫モ之ヲ有セス兩國カ自國ノ権利及

利益ヲ防護スルノ手段ヲ協議スルコトハ支那ノ獨立及領土保

全並同國ニ於ケル機會均等ノ主義ハ現ニ日英協約ニモ見工

居リ是等ノ主義ニ對シ帝国政府ハ從來ノ方針ヲ変シタルモ

ノニ非ス

(四) 松花江航行及東清鐵道一部讓渡等ノ問題ニ關シ秘密別

約成立セリトノ新聞報道ハ全然誤聞ニ屬ス他日日露両国間

往電第四九五号ニ關シ鐵道松花江問題ノ延引ニ連レ本邦民

間一部ニ疑ヲ起シ二三新聞紙上ニテ臆測説ヲ掲クルニ至レ  
リ此上遷延セハ倍々面白カラサル事態ヲ起ササルヲ保セス

旁一日モ速ク本件ヲ決定シタキニ付キ重ネテ督促セラレタ

シ次ニ予テ我ヨリ約諾セル武器ハ當方ニテモ引渡スニハ差

支ナキノミナラス貴電第五一九号ノ次第モアルニ付當方ニ

テハ約諾以外ニ更ニ若干小銃ヲ讓渡スノ内意アリ此内意ハ

過日在本邦露大使ニ本大臣ヨリ内話シタルカ武器問題ニ關シ露国政府ヨリ閣下ニ何等談話アリシヤ若シ然ラストセハ

曩ニ焦眉ノ急ナリトシテ我ニ迫リタルニ今ニ至リ急カサル

ハ如何ナル事情ニ因ルヘキヤ御見込電報アリタシ武器問題

モ鐵道松花江問題モ閑院宮御出發前ニ露国政府ノ態度ヲ詳

知スルニ非サレハ天皇陛下御伝言振殿下露国皇帝御対面ノ

折ノ御心対等御決定ニ差支アルニ付キ御確メノ上折返御回

電アリタシ

一六〇 九月二日

石井外務大臣ヨリ

在露国本野大使宛(電報)

東支鐵道、松花江問題ノ促進方及露國方武器

問題ヲ急カサル事情探索方訓令ノ件

第五一一号(極秘)

一六一 九月三日

在露国本野大使ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

東支鐵道一部讓渡問題、松花江問題ノ解決延

引ハ大藏大臣ノ不在、病氣ニ基ク旨報告ノ件

三 第四回日露協約締結関係一件 一六〇 一六一

一七一

第七三六号

曜日ニ知ラシムヘシト約セリ

貴電第五一一号ニ閔シ鉄道松花江問題ニ就テハ既ニ外務大臣ニ面会シ督促シタル外更ニ次官ニモ面会シ催促シ置キタルガ本件解決ノ延引ハ大蔵大臣ノ不在ナリシコト及同大臣帰國後病氣引籠中ナルニ因ル趣ナリ本官ハ本件ガ閉院宮殿下御来着前ニ解決スル様シタキ旨申込ミ置キタリ武器問題

ニ閔シ露国側ヨリ何等申出ナキモ露国カ本問題ヲ急ガザルハ此頃ニ至リ英、米、仏ヘノ注文品到着スルノミナラス自國ノ製造力大ニ増加シタル為ニ我ニ対シ武器供給ヲ要求シタル當時程ニ武器ノ欠乏ヲ感シ居ラサルカ為ナリト思考セラル

一六二 九月七日 在露國本野大使 石井外務大臣宛（電報）

東支鐵道松花江問題ハ正式内閣會議二附シ

上奏ノ上回答スヘキ旨露外相言明ノ件

第七四七号

往電第七三六号ノ件ニ閔シ九月六日更ニ外務大臣ニ面会シ露国政府ノ回答ヲ促シタルニ來九日正式内閣會議ニ附シ上奏シタル後ニアラサレハ確答ハ出來サルモ内閣ノ決定ハ日

東支鐵道松花江問題ハ正式内閣會議二附シ

上奏ノ上回答スヘキ旨露外相言明ノ件

第七四七号

往電第七三六号ノ件ニ閔シ九月六日更ニ外務大臣ニ面会シ露国政府ノ回答ヲ促シタルニ來九日正式内閣會議ニ附シ上奏シタル後ニアラサレハ確答ハ出來サルモ内閣ノ決定ハ日

一六三 九月九日 在露國本野大使 石井外務大臣宛（電報）

東支鐵道一部讓渡問題ニ閔シ露国外務次官内話ノ件

第七五二号

往電第七四七号ニ閔シ九月九日外務次官ノ本使ニ内話スル所ニ拋レハ鐵道讓渡ノ問題ハ本日ノ閣議ニ於テ大体異議ナカリシモ或ル点ニ付閣員ヨリ質疑アリタル結果目下高加索ニ病氣療養中ノ前外相「サゾノフ」氏ニ問合セノ必要ヲ生シ本日「コザコフ」同地ニ赴キタルヲ以テ同氏帰京ノ上本件ニ対スル御裁可ヲ仰クノ運ニ至ルヘシトノコトナリ

一六四 九月十三日 在日本外務省ヨリ 在本邦米國大使館宛

日本政府ハ中國ノ獨立及領土保全並同國ニ於ケル機会均等主義ニ付從來ノ方針ヲ変更セサ

ル旨表明ノ件

日本政府ハ中國ノ獨立及領土保全並同國ニ於

帝国外務省ハ去ル七月三日日露両國間ニ調印セラレタル協約ニ閔シ米國大使閣下ヨリ本国政府ノ訓令ニ基キ八月二十日

一六六 十月二十四日 在中國林公使 石井外務大臣宛（電報）

日露協約締結ノ動機、交渉ノ経過等詳細通報

ヲ得タキ旨稟申ノ件

第九二七号

貴電第四二三号ニ閔シ日露両國政府ニ所見ヲ交換シタル際ノ趣旨トハ如何ナルコトナルヤ詳細電報ヲ請フ將又七月五日貴電第二五二号日露秘密協約ハ今以テ接到セサルニ付至急御送付相成タク同時ニ右協約締結ノ動機交渉ノ経過並松花江通航權及東清鐵道讓渡ニ閔スル協議ノ成行ヲモ詳細通報相成タシ尚今後共苟モ支那ニ閔スル事柄ハ細大トナク隨時御通報相成度為念申添フ

貴電第四二三号ニ閔シ日露両國政府ニ所見ヲ交換シタル際ノ趣旨トハ如何ナルコトナルヤ詳細電報ヲ請フ將又七月五日貴電第二五二号日露秘密協約ハ今以テ接到セサルニ付至急御送付相成タク同時ニ右協約締結ノ動機交渉ノ経過並松花江通航權及東清鐵道讓渡ニ閔スル協議ノ成行ヲモ詳細通報相成タシ尚今後共苟モ支那ニ閔スル事柄ハ細大トナク隨時御通報相成度為念申添フ

一六七 十月二十六日 寺内兼任外務大臣 石井外務大臣宛（電報）

日露秘密協約締結交渉中両國間ニ所見交換ノ際ノ趣旨説明並秘密協約ハ松平總領事ニ托送スヘキ旨回答ノ件

第七九七号（極秘）

九月廿三日本使ハ莫斯科ニ於テ殿下ヲ奏迎シ同地ヨリ大本營及「キエフ」市ニ御隨行致シ昨廿七日殿下ト共ニ当地ニ坂還セリ廿四日大本營ニ於ケル御晩餐ノ席上皇帝陛下ハ本使ノ質問ニ答ヘサセラレ鐵道讓与問題ハ從前ノ方針ニ遵ヒ談判ヲ継続スヘキ旨外務大臣ニ命シ置キタリトノ御言葉アリタリ

際ノ趣旨トハ曩ニ日露協約締結ニ関スル往復中最初我秘密協約案ニ対シ本年三月末露国側ヨリ提出シタル対案中「両締盟国ノ一方ハ予メ締盟国ノ他ノ一方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ何等中部支那ニ関スル條約其他ノ約束ヲ第三國ト為サルヘキコトヲ約ス」トノ一ヶ条ヲ加ヘントノコトアリシモ帝國政府ハ之ニ対シ第三國トノ條約締結前々両國間ニ協議ヲ必要ト為スハ事實上煩雜ニシテ為ニ機宜ヲ失スルコトモアルヘク又右条文ノ適用上之ニ該當スヘキ條約ノ範囲ニ付幾多疑義ノ生ズルヲ免レサルヘク本件ノ如キハ條約上ノ義務トスルヨリハ寧ロ両国相互ノ善意ニ信頼シ具体的問題ノ生スル毎ニ各自ノ判断ニ依リ予メ両國ノ協議ニ附スルト否トヲ決定スルコトシテ實際ニ差支ナカルヘシトテ之カ削除ヲ希望シ露国政府ハ依然此種規定存置ノ必要ヲ主張シタルモ帝國政府ハ其締盟國ヲ犠牲トシテ自國ノ利益ヲ図ルカ如キ背信ノ行為ナカルヘキハ勿論第三國ト如何ナル條約ヲ締結スルニ付テモ締盟国ノ正当ナル権利利益ニ及ホスヘキ結果ニ対シ注意ヲ怠ルカ如キコトナカルヘキ旨ヲ答へ露国政府ハ結局之ニ信頼シ該條ハ全然削除スルコトニ同意スルニ至リタル成行其他該協約ニ関スル商議全般ヲ通シ日

往電第二五二号ノ書類ハ万一二モ支那側ヘ洩ルルガ如キコトナキ為近々出発帰任ノ筈ナル松平總領事ニ托送スルコトトスヘシ右締結ノ動機及交渉ノ経過モ亦同官ヨリ御聽取相成度シ

露両國ハ将来益々相互ノ権利々益ヲ尊重シ苟モ是等ニ影響ヲ及ホスカ如キ事項ニ付テハ互ニ隔意ナキ接触ヲ保ツコトヲ期シ度キ趣旨ヲ以テ所見ヲ交換シタル行掛ヲ概括的ニ指スモノト思料セラル  
往電第二五二号ノ書類ハ万一二モ支那側ヘ洩ルルガ如キコトナキ為近々出発帰任ノ筈ナル松平總領事ニ托送スルコトトスヘシ右締結ノ動機及交渉ノ経過モ亦同官ヨリ御聽取相成度シ  
松花江航行及東清鐵道讓渡ノ件ハ已ニ主義上決定シ居レルモ条件及交換公文ノ形式等ハ全ク未決定ナリ近々是等ノ点ニ付テモ交渉ヲ遂クル筈右御含置相成タシ

一六八 十一月九日 在露國丸毛臨時代理大使ヨリ

寺内兼任外務大臣宛(電報)

長春松花江間鐵道讓渡ノ価額條件及松花江航

行權問題ニ關スル露國外務大臣ノ覺書ノ趣旨

報告ノ件

十一月六日露国外務大臣ハ大要左ノ趣旨ノ覺書ヲ本野大使ニ手交シ同大使ハ右覺書写ヲ携帶帰朝シタルガ「コザコフ」ノ本官ニ語ル所ニ依レハ不日右覺書ノ趣旨ヲ以テ在日

本露國大使ヘ訓令ヲ發スヘキトノコトニ付不取敢電報ス  
一露國政府ハ長春松花江間ノ鐵道ヲ戰前ノ換算率ヲ以テ計

算シ八千万留ニテ讓与スヘシ両國鐵道ノ接続点ハ Lau Cha Kow トシ讓与ノ結果露國鐵道及浦潮港ノ受クヘキ

損害ヲ少カラシメンカ為両國ハ左ノ四項ニ付協議スヘシ

a 鉄道賃率ヲ改定スルコト

b 両國鐵道ハ各自他ノ鐵道ノ活動地域内ノ旅客及貨物ヲ奪取スルカ如キ手段ヲ講セサルコト

c 両國ハ其ノ各自ノ鐵道地域内ノ郵便獨占權ヲ認ムルコト

d 両國政府ハ他ノ一方ガ滿洲ニ於ケル其ノ活動地域内ニ稅閥制度ヲ設クルトモ異議ヲ申立テサルコト

二 日本政府ハ露國政府カ既ニ承諾シタル部分以外ノ松花江ノ航行權ヲ主張セサルコト並右航行業ニ対シ何等援助

ヲ与ヘサルコト從テ支那人ニ日本船舶壳却ヲ禁スルコトヲ約束ス  
三 前記讓渡ノ重要ナルニ鑑ミ日本政府ハ極東露領ヘノ酒精密輸入防止ニ援助ヲ与ヘラレタシ

及日本ニ譲与シタル南滿洲鉄道延長五百十四哩ニ按分スル

トキハ前者ノ建設費ハ約一億七千百万留ニシテ後者ノ建設

費ハ約八千二百三十万留ナリ然ルニ露国政府ハ日本ニ譲渡

ンタル鐵道及車輛ノ価格ヲ八千九十九万留余リト見積り之レ

ヲ政府力会社ニ対シテ有スル債権ト相殺シタリ貴電御来示

ノ如ク露国政府ハ建設費以外ニ或ル金額ヲ会社ニ交付シタ

ルモノト仮定シ而シテ其總額ヲ右八千九十九万留ナリトセハ

實際ノ建設費ハ之レヨリモ小額ニシテ前記建設費トノ差ハ

尚大ナリ右以上ニ正確ナル調査ヲ為ス為メニハ自然直接其

ノ筋ニ付問合セザルヘカラサル處右様取計フヘキヤ何分ノ

義御電訓ヲ請フ

一七一 十二月七日 在本邦露国大使ヨリ

本野外務大臣宛

### 東支鐵道南部支線一部及松花江航行權ノ讓渡

### 並其ノ条件ニ關シ在本邦露国大使ヨリ覺書提

### 出ノ件

附屬書一 露国陸軍省ノ希望事項

二 東支鐵道南部支線一部及松花江航行權ノ讓渡ニ

關スル交換公文案

三 露国ハ日本ガ滿洲ニ於ケル其活動範囲内ニ税関

制度ヲ設ケルコトニ異議ナキ旨ノ交換公文案

(訳文)

秘第一二〇七号

千九百十六年十二月七日東京ニ於テ

覺書

滿洲ニ於ケル日露ノ勢力範囲ヲ絶対不變的ニ確定スルノ目

的ヲ以テ過去數個月間「ペトログラード」ニ於テ露国外務

省ト本野子爵閣下トノ間ニ行ハレタル商議ハ日本國ノ為東

清鐵道南部支線ノ一部及松花江航行權ヲ讓渡スルコトニ關

スル露国政府ノ或ル提供並其他一般的問題ニ關聯セル或ル

案件ヲ誘致シタリ而シテ右提供ハ本野子爵閣下露都出發ノ

際「スツルメール」氏ヨリ交付シタル覺書中ニ其概略ヲ記

載シタリ

在東京露国大使ハ能フヘクンハ實際的ノ形式ノ下ニ解決ニ到ラシメンカ為本件交渉ヲ統行スヘキ旨本国政府ノ訓令ニ

接セリ仍テ露国大使ハ本野子爵閣下ニ對シ既ニ知悉セラレタル委曲ハ之ヲ反覆セス現下ノ問題ニ關シ節略ヲ提示セム

トス

滿洲ニ於ケル日露ノ勢力範囲ヲ全然不變的ニ確定シ相互ニ

何等ノ侵入ヲ為ササルコトハ當該兩國政府ノ見解ニ最モ善  
ク適應スルモノナリトノ一般觀念ニ鑑ミ露國ハ日本國政府

又ハ南滿洲鐵道會社ニ対シ東清鐵道南部支線ノ一部ヲ讓渡  
スヘキコトヲ約定スヘシ右支線ノ一部ハ寬城子ト松花江ニ

一層近接シ日露兩鐵道ノ新聯絡ヲ實施スルニ必要ナル条件  
ヲ具備スル地点之レ無キ為松花江左岸ノ南三吉米半ニ位置

スル老焼鍋停車場トノ間ニ包括セラル部分ナリ

露國ハ又秀水站ノ村落ヨリ上流ニ在ル松花江ノ航行權ヲ拋  
棄スヘキコトヲ約定スルト同時ニ日本國ハ嫩江河口ヨリ下

流ニ在ル松花江ノ航行權ニ對シロ実ヲ提起スルコトナカル  
ヘキ旨ヲ約定スヘシ而シテ嫩江河口ト秀水站トノ間ノ航行

ハ日露兩國人共均シク自由タルヘシ又嫩江河口ノ上流ニ於  
ケル日本ノ航行權ニ対シ支那政府ニ於テ抗議ヲ試ムルコト

アルトキハ露國政府ハ何等之ヲ支持セサルヘキハ言フヲ俟  
タサルナリ

上掲ノ一般的原則即チ勢力範囲ヲ不變的ニ確定スルコト並  
各自ノ勢力範囲内ニ相互ニ何等侵入ヲ為サストノ一般的原  
則ニ基キ上記ノ讓渡ハ左記ノ諸条件ヲ容認スヘシ

甲、鐵道ニ關シ

三 第四回日露協約締結關係一件 一七一

一七七

一、日露兩國鐵道間ニ直接業務開始前ヨリ右兩鐵道ノ聯絡  
点ヲ發シ日本鐵道線路ノ通スル市場ニ仕向ケラレタル（反  
対ノ場合モ亦之ニ準ス）貨物ニ適用スヘキ運賃ハ右同一聯  
絡点ヲ發シ浦塙斯徳ニ仕向ケラレタル（反対ノ場合モ亦之  
ニ準ス）同種ノ貨物ニ適用セラルヘキ貨率ヨリ低廉ナラサ  
ル様制定セラルヘシ

二、兩鐵道當局ハ陸路又ハ河川ニ依リ他方ノ活動範囲内  
ヨリ来る旅客又ハ貨物ヲ自國ノ鐵道ニ吸収セムコトヲ目的  
トスル凡テノ措置ヲ避止スヘシ

三、將來露國政府ニ於テ滿洲ニ於ケル自國ノ活動範囲内  
ニ税關制度ヲ設ケルヲ必要ト認ムルトキハ日本國政府ハ之  
ニ對シ異議ヲ唱ヘサルヘク露國ハ亦日本ニ對シ同様ノ義務  
ヲ帶フヘシ

四、兩國政府ハ滿洲ニ於ケル相互ノ勢力範囲内ニ於テ相  
互ニ郵便業務ニ關スル各自ノ権利ヲ承認セムカ為協定スヘ  
シ本問題ハ千九百十五年十二月十一日附ヲ以テ露國大使館  
ヨリ日本國外務省ニ致セル覺書ニ於テ既ニ論究セラレタル  
所ニシテ老焼鍋ニ於ケル兩鐵道接続ノ場合實行セラルヘキ  
所ニシテ老焼鍋ニ於ケル兩鐵道接続ノ場合實行セラルヘキ

ラシムルヘシ而シテ日本国政府ハ露國ノ提起シタル解決方法ニ対シ今日迄異議ヲ唱ヘラレサリシヲ以テ本件ハ別個ノ公文交換ニヨリ解決セラレ得ヘシ

乙、嫩江河口ヨリ下流ニ在ル松花江航行権ニ關シ

日本国政府ハ松花江ノ右ノ部分並其会流ニ於テ支那又ハ日支共同其他ノ航運業設立ニ對シ直接間接何等ノ帮助ヲ供与セサルヘン

右ノ主義ニ基キ満洲ニ於ケル露國ノ活動範囲内ニ於テ日本國臣民カ支那人ニ河川用汽船又ハ其解体材料ヲ売却スルハ兩國政府間ニ考案中ノ取極ノ精神ニ反スルモノト看做スヘク日本國ニ於テ右露國ノ見解ヲ領承セラレンコトヲ希望ス尚此点ニ関シ注意スヘキハ露國現行法ハ露国人ニ對シ黒竜江流域ノ諸河川ニ於テ外國人ニ河川用汽船ヲ売却スルコトヲ禁止シ居ルコトナリトス

日本国外務大臣閣下ハ本覚書ノ目的トスル諸問題ニ關シ「ペトログラード」ニ於テ商議中露國カ日本國ニ對シ為サントル上掲ノ讓与ニ對シ露國ノ輿論カ如何ニ之ヲ重大視シ居レルカラ了得シ得ラレタリ而シテ武器供給問題ニ於テ日本カ露國ニ對シ為スヘキ重大ナル尽力ノ形ノ下ニ於ケル補

#### (附屬書一)

#### (訳文)

#### 露國陸軍省ノ希望事項

- 一、小銃十五万挺若シ出来得レハ十五万挺以上
  - 二、各小銃ニ対シ実包少クトモ一千発
  - 三、三五秒信管十万発
  - 四、二〇吋(八吋)榴弾砲二十四門
  - 五、各榴弾砲ニ対シ一千発ノ砲弾薬一式合計二万四千発分
- 上記銃砲弾薬ハ日本砲兵工廠ノ現有予備品中ヨリ直ニ入手シタキ希望ナリ

#### (附屬書二)

東支鉄道南部線ノ一部及松花江航行権ノ譲渡ニ關スル交換公文案

#### (訳文)

#### 公文交換公文案

#### 三 第四回日露協約締結関係一件 一七一

償ノ觀念ハ輿論ニ満足ヲ与ヘンカ為露都ニ於テ常ニ引用セラレタリ此点ニ付既ニ為サレタル露國ノ意嚮披瀝ニ關聯シ露國大使ハ此機ニ際シ日本国政府ニ向テ現下ノ情況ニ於テ露國政府ニ取り最モ必要ナルヘキ武器及彈薬表別紙ノ通提出ス

尚「クルーベンスキイ」氏ハ日本ニ於ケル露國ノ註文品支払ニ充テンカ為最近提起セラレタル手取二億円新借款ノ問題ニ關シ日本國ニ於テ露國ニ對シ一切ノ便宜ヲ供与セラルニ於テハ露國ニ於テ最良好ナル印象ヲ起生スヘキハ勿論日本國自身ニ取リテモ利益タルヘキコトヲ附言ス  
終ニ過般露都ニ於テ本野子爵閣下ニ交付セラレタル覚書ノ第三条ニ記載セル満洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ關スル露支協約ニ日本國贊同ノコトニ關スル第二位ノ問題ニ言及セントス本件ニ關シ露國大使ハ日露両國間ニ一ツノ協定ヲ見ンカ為全力ヲ尽スニ吝ナラサルヘク外務大臣閣下ニ於テモ本問題ヲ好意的ニ考量セラレムコトヲ希望ス本件ニ關スル其後ノ通信ハ最近「クルーベンスキイ」氏ヨリ幣原氏ニ通報セラレタリ

主義上ノ諸点ヲ決定スヘキ形式ニ關シテハ露國大使ハ本国

在東京露國大使タル下名ハ正当ノ委任ヲ受ケ日本国外務大臣本野子爵閣下ニ對シ左記ノ声明ヲ為スノ光榮ヲ有ス  
日露両國ハ満洲ニ於ケル經濟的活動ノ自然ノ趨勢ニ鑑ミ且該地ニ於ケル日露間ノ競争ヨリ生スルコトアルヘキ凡テノ紛糾ヲ避ケムコトヲ希望シ左記ノ協定ヲナセリ  
一、東清鉄道会社ヨリ南満洲鉄道会社ニ對シ………  
………ノ価額ヲ以テ寬城子ト松花江左岸トヲ聯結スル鐵道ヲ譲渡スル為必要ナル措置ヲ執ルヘシ日露両鐵道ノ新聯絡点ハ老燒鍋タルヘシ譲渡ハ當該会社間ニ協議決定セラルヘク且両線聯絡事業ヲ完成スルニ足ルヘキ期限内ニ於テ実行セラルヘシ  
二、斯クシテ設定セラルヘキ新情態ニ於ケル日露両鐵道間ノ直接運輸業務開始前ヨリシテ右両鐵道ノ聯絡点ヲ発シ日本鐵道線路ノ通スル市場ニ仕向ケラレタル(反対ノ場合モ亦之ニ準ス)貨物ニ適用スヘキ運賃ハ右同一聯絡点ヲ發シ浦鹽斯徳ニ仕向ケラレタル(反対ノ場合モ之ニ準ス)同種ノ貨物ニ適用セラルヘキ貨率ヨリ低廉ナラサル様新ニ運賃表ヲ制定スヘシ

三、両鐵道當局ハ陸路又ハ河川ニヨリ他方ノ活動範囲内

ヨリ来ル旅客又ハ貨物ヲ自國ノ鉄道ニ吸收セムコトヲ目的  
トスル凡テノ措置ヲ避止スヘシ

四、上掲鐵道線路讓渡ノ細目及日露両國鉄道ノ接続ニ關  
スル諸条件並前掲第二及第三点ニ於テ問題トナレル規定ヲ  
実施セムカ為執ルヘキ措置ハ東清鉄道会社及南滿洲鉄道会  
社間ニ協定セラルヘシ

五、露国政府ハ秀水站ノ村落ヨリ上流ニ在ル松花江航行

權ヲ抛棄シ又嫩江河口ヨリ上流ニ在ル松花江ニ於ケル日本  
ノ航行權ニ對シ支那政府ニ於テ反対スルトキハ同政府ヲ支

持セサルヘシ而シテ日本國政府ハ今後嫩江河口ヨリ下流ニ

在ル松花江ニ於ケル日本航行權ノ問題ヲ提起セサルヘク又  
松花江ノ右ノ部分並其会流ニ於テ支那又ハ日支兩同其他ノ  
航運業設立ニ對シ直接間接何等幫助ヲ供与セサルヘシ

(附屬書三)

露国ハ日本ガ滿洲ニ於ケル其活動範囲内ニ稅關制度ヲ設クルコ  
トニ異議ナキ旨ノ交換公文案

(訳文)

秘密交換公文案

(在本邦露国大使ヨリ本野外務大臣宛)

員、弾薬、馬匹及必要ナル他ノ材料ヲ之ニ附属セシメテ完  
全ナル砲隊ヲ形成スルニ必要ナルモノナリ此大砲ハ來春ノ

初即チ千九百十七年三月一日頃露国政府ノ所用ニ供セラル  
ヽコトヲ要スルモノニシテ從テ唯日本ニ於テ現存スル予備  
品ヨリ之ヲ入手スルコトヲ得ルノミナリ

露国政府ハ現ニ歐洲ニ於テ進行中ナル大規模ノ戰争ヲ良好  
ニ終結セシムルカ為相互ニ協力セントスル共通ノ希望ヲ一  
切ノ聯合諸國ニ鼓吹スル感情ニ訴ヘ右ノ重要ナル請求ヲ日  
本政府ニ提出スルモノナリ

大正五年十二月八日附  
一七三 十二月十八日 在本邦露国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

日本ニ渡渡セントスル長春松花江間ノ鉄道ヲ

八千万留ト評価シタル計算説明ノ件

附記 東支鉄道讓渡ニ關スル評価(満鉄調書)

(訳文)

露国カ日本國ニ讓渡セントスル東清鉄道ノ一部ヲ評価スヘ  
キ価格ヲ表示スルハ八千万留ノ數字ハ露国當局ニ於テ左記内  
訳ヲ加算シテ得タルモノナリ

右申進旁.....

一七二 十二月八日 在本邦露国大使ヨリ  
外務大臣宛

露国ハ日本政府ヨリ大口径砲ヲ出來得ルダケ

多數讓与ヲ得度キ旨申出ノ件

(訳文)

露国軍隊ニ欠クヘカラサル重砲ノ数量問題ニ關スル新報道  
ニ顧ミ露国大使ハ露國陸軍省ノ希望事項ニ關シ十一月二十  
七日附ヲ以テセル其通告ヲ補足スル為メ十五「サンチメ  
ートル」(六時)及其以上ノ大口径砲三百門又ハ夫レ以上  
出来得ル丈ヶ多數ヲ露国政府ニ讓与セラレンコトヲ日本政  
府ニ申出ヅルコトヲ命セラレタリ右ノ大砲ハ其ノ一切ノ兵

以書翰致啓上候陳者寛城子老燒鍋ノ鐵道讓渡ノ条件ニ關  
シ本日附ヲ以テ本使ヨリ閣下ニ呈セル書翰ノ補足トシテ本  
使ハ滿洲ニ於テ日露両國ニヨリ取ラレタル地位ノ結果若シ  
将来日本國政府ニ於テ其滿洲ニ於ケル活動範囲内ニ稅關制  
度ヲ設クルヲ必要ト認メラルトキハ露国政府ハ異議ヲ唱  
ヘサルコトヲ声明スヘキ旨訓令セラレ候

三 第四回日露協約締結関係一件 一七三

一八二

ノ營業費用百三十万二千留ヲ控除スル時ハ茲ニ百五十一万九千留ノ数字ヲ得ヘク右数字ハ東清鉄道会社ノ所有トシテ

残ルヘキ部分ノ露國鉄道収入中毎年ノ減少額ヲ表示スルモノナリ而シテ該金額ヲ利率五分ヲ以テ還元スルトキハ東清

鉄道損失ノ賠償トシテ上掲セル三千万留ヲ得ヘシ、尚譲渡スヘキ線路ノ収入總額ハ東清鉄道会社ノ計算ニヨレハ一年二百万留ナリトス

一層詳細ナル見積書露都ヨリ露國大使館宛郵送セラレタリ

一千九百十六年十二月十五日東京ニ於テ  
(附記)

東支鐵道譲渡ニ關スル評価

(大正五年十二月十二日附滿鐵調書)

寛城子ト第二松花江南岸トノ間(六十六哩六)

一、建設ニ要セシ費額認定

六百九十万七千円 一哩宛十万三千七百円

二、我国ニテ當今建設スルモノトシテノ予算

八百九万五千円 一哩宛十二万一千五百円

三、譲受後直ニ要スル設備改良費ノ予算

四百十九万五千五百五十円

事項四 日英通商航海條約ニ濠洲加入ノ件

附 「ニュー・ジーランド」ノ同條約ヘノ加入勧誘ノ件

一七四

一月二十日

在シドニー清水總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日英通商條約加入方ニ關シ濠洲聯邦首相ト会

見ノ件

附記一 大正四年一月十五日附加藤外務大臣発在英國井上

大使宛通機密送第二号

濠洲ノ日英通商條約加入ニ關シ懇談方訓令ノ件

二 濠洲ノ重要輸出入品目表

三 大正四年五月十八日附在シドニー清水總領事発加

藤外務大臣宛機密公第一号

濠洲ノ日英通商條約加入問題ニ關シ意見稟申ノ件

四 大正四年六月二十二日附在シドニー清水總領事ヨ

リ加藤外務大臣宛機密公第一二号

日英通商條約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

五 大正四年十月二十一日附石井外務大臣発在シドニー

濠洲ノ日英通商條約加入ニ關スル件

六 大正四年十一月二十日附在シドニー清水總領事發

石井外務大臣宛機密公第二七号

日英通商條約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

四 日英通商航海條約ニ濠洲加入ノ件 一七四

四、収益予想

譲受線路ニ於ケル一ヶ年間収支見込

一、百十五万一千円 収入見込

一日一哩平均金四十五円八十二錢

内金五十八万一千円 旅客収入

金五十七万円 貨物収入

一日一哩平均金二十五円

差引金五十二万一千円 純益見込

一金六十三万円 支出見込

差引金三十九万八千四百円 純益見込

差引金三十九万八千四百円 純益見込